名城大学FD·SD活動報告書

令和2年度

名城大学

大学教育開発センター委員会

目 次

1. はじめに◆ 令和 2 年度の FD・SD 活動を振り返って ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 令和 2 年度大学教育開発センター委員会● 委員構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	···· 3 ···· 5
 3. 令和 2 年度 FD・SD 活動一覧 (FD フォーラム、新任教員 FD 研修会、FD 学習会、授業改善アンケート、 名城大学 FD NEWS、名城大学教育年報、FD・SD 活動報告書、 教育功労賞表彰、学外セミナー・研究集会等への派遣) 	11
4. 令和 2 年度正課外教育活動一覧 (入学前教育、名城サプリメント教育、学習サポートルーム)	17
5. 令和2年度各学部・研究科等におけるFD・SD取組を推進する組織の活動報告 ・ 法学部・法学研究科 ・経営学部・経営学研究科 ・経済学部・理工学研究科 ・農学部・農学研究科 ・薬学部・薬学研究科 ・都市情報学部・都市情報学研究科 ・ 人間学部・人間学研究科 ・ 外国語学部 ・ 総合学術研究科 ・ 教職センター	23
 6. トピックス ● 第22回 FD フォーラム実施報告 ● 第 2 回新任教員 FD 研修会実施報告 ● FD 学習会 ● 教育功労賞表彰報告 	· 111
7. 資料◆ 大学教育開発センター委員会要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
8. おわりに ●あ と が き	161

1. はじめに

令和2年度のFD·SD活動を振り返って

大学教育開発センター委員会 委員長 山田 宗男

コロナ感染拡大および緊急事態宣言の発出に伴い、本学においても令和2年度前期は、原則として遠隔講義を行うこととなり、ディジタル教材の作成や講義動画の収録、LMS(WebClass)による遠隔講義の準備等、期せずして俄かにその対応に追われました。極めて短期の準備期間にも拘らず、大きな問題もなく遠隔講義が滞りなく実施できたのは、言うまでもなく教職員の方々の教育を止めない思いとご尽力の賜物であったと確信すると共に敬意を表します。

大学教育開発センター委員会では、前期の遠隔講義実施を振り返ってのアンケート調査や、WebClass、Zoom、Google サービス等を活用した講義の実践例を紹介・共有するためのFD学習会の開催、名城サプリメント教育および学習サポートルームのリモート対応など、コロナ禍においても実施可能とする各種対応を可能な限り行いました。その結果、コロナ禍によって諦めた、あるいは、廃止した取組は一つもなく、ご尽力をいただいた委員をはじめご協力をいただいた教職員の皆様には、重ねて御礼申し上げます。以下に今年度の取組について省察します。

先ず、授業改善アンケートについては、質問項目の継続的な見直しを図ると共に、学生自身の授業に対する姿勢についても振り返りができる質問を加えるなど、質問内容についても毎年改善を重ねています。今年度の回答率は、前期:49.8%、後期:36.7%と大きく差が出た結果となりました。前期はLMSによる遠隔講義が中心であったため、学生個人への連絡が行き届きやすい状況であったと考えられます。一方、後期は対面講義が再開されたため、LMSを利用する機会が減り、従来の回答率に戻ったものと推測します。このことからもわかるように、アンケートの回答率に関しては、学生への周知徹底や動機付けとの相関が大きいことから、回答マニュアルの整備、アンケートの回答を促すポスターの講義室への貼付、学生ホールおよび食堂での周知、授業改善アンケート集計結果閲覧コーナーの設置など、引き続き努力していきたいと考えています。また、小手先だけの方法論では解決を見ない問題でもあり、教職員の皆様のご理解とご協力を切に願います。

学修成果の可視化に関する外部調査については、昨年度から全学部全学科にて実施していただいております。本調査の目的は、学生個々の学修行動・学修成果について調査することで、教育の成果がどの程度上がっているかを把握するものであり、今後の教育プログラムの在り方やFD・SDの進め方、さらには学生指導方法の見直し等に役立つ情報を得ることです。現段階ではJSAAP、PROG、GPS-Academic等の外部団体による調査を試行する段階であり、本来は学部独自でアセスメントポリシーに基づく適正な調査・評価方法を検討いただくことが望ましいと考えています。またこの調査は、単年度対象の調査ではなく、年次推移に関する分析・検討が重要となります。そのため、複数年次を対象とした調査が行えるよう引き続き援助の準備を進めていますので、ご協力の程、よろしくお願いします。

今年度の FD フォーラムは、メインテーマを「コロナ禍における教育の質保証」とし、オンラインにて開催しました。立命館大学教育開発推進機構の沖 裕貴 教授、東京学芸大学 ICT センターの

森本康彦 教授を講師としてお招きし、沖先生からは、教学マネジメント指針を踏まえたコロナ禍 における教育の質保証について、森本先生からは、教育の質を保証するための遠隔講義についてご 講演いただきました。当日は153名の多くの参加があり、質疑応答も活発に行われ関心の高さがう かがえました。お忙しい中、貴重な時間を割いて参加いただいた教職員の皆様には心より御礼申し上げます。

FD学習会については、「WebClass と Google サービスを用いた遠隔授業 -遠隔授業で最低限 やってもらいたいこと -」のテーマで 9 月に第10回を開催しました(9 月9 日(水)、Zoom によるオンライン開催)。本学の LMS である WebClass や Google サービスの活用法と併せて、オンデマンド型の遠隔講義を例に取り、教育の質を最低限確保するための具体的な方法について紹介しました。

また、続いて10月には、「数理・データサイエンス・AI 教育の必要性と実践」のテーマで第11回の FD 学習会を開催しました(10月28日(水)、Zoom によるオンライン開催).数理・データサイエンス・AI 教育は、情報社会で活躍するために必要となる基盤的なスキルであると考えます.今後、益々必要となる統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能などの「数理・データサイエンス・AI 教育」に関して、本学経済学部において実践されている取組を、経済学部 勝浦正樹 教授にご紹介いただきました.

さらに、昨年度からの新たな取組として、「新任教員 FD 研修会」の実施および「FD ニュース」の発刊を再開し、本年度も継続実施・発刊いたしました。

新任教員 FD 研修会については、本学の専任教員に着任された先生方を対象に、今年度も名古屋 大学高等教育研究センターの中島英博 准教授を講師としてお招きして12月に開催しました。

本研修会においては、新任の先生方が、授業運営や学生指導にあたり苦心していることや自分なりの解決策などを共有し意見交換することで、FD活動の動機づけおよび教員の交流を深める機会としています。講演としては、新任教員の先生自身が作成したシラバスを持参いただき、その内容について振り返る形で実施され、参加者全員の好評を博しました。FDニュースについては、FD・SDに関する学内外の最新の取組および高等教育改革の最新動向等を、スピーディーかつ端的に情報提供・共有するための媒体として有効に活用したく考えています。

本学における FD・SD の取組は、本来の趣旨を念頭に教職員の創発によって取組を深めていく体制とすることで、現場感覚に基づいた実践的な FD・SD 活動が遂行可能である点が他大学にない特色であると思います。また、「with コロナ」「after コロナ」時代においては、ICT 活用を主軸としたこれまでにない教育改革が必須であり、それに伴う FD・SD 活動も変革の時期を迎えていると思います。教職員の皆様におかれましては引き続き、より一層のご理解とご協力をお願いできれば幸いです。

2. 令和2年度 大学教育開発センター委員会

令和2年度 大学教育開発センター委員会委員

所属等	職名	氏 名	職名	氏 名
大学教育開発センター長	委員長・教授	山田宗男		
学務センター長	教授	山本 雄吾		
法学部	教授	柳澤 武	准教授	仁井田 崇
経営学部	教授	堀川 新吾	准教授	相川 奈美
経済学部	教授	伊藤 健司	准教授	太田 志乃
理工学部	教授	坂東 俊治	教授	中村 栄造
農学部	教授	湊健一郎	准教授	荒川 征夫
薬学部	教授	大津 史子	教授	湯川和典
都市情報学部	教授	酒井 順哉	教授	亀井 栄治
人間学部	教授	一ノ谷 清美	教授	谷口義則
外国語学部	教授	呉 大煥	准教授	ウィキン ポール
総合学術研究科	助教	神藤 定生		
教職センター	教授	竹内 英人		
学務センター	事務部長	青木 利信 (~7月31日) 犬飼 斉 (8月1日~)		
大学教育開発センター	事務部長	鶴田 弘樹		

令和2年度 大学教育開発センター委員会 専門委員会 分担表

【教育支援専門委員会(11名)】

所属等	職名	氏 名	備考
大学教育開発センター	センター長・教授	山田 宗男	座長
法学部	教授	柳澤 武	
経営学部	准教授	相川 奈美	
経済学部	准教授	太田 志乃	
理工学部	教授	中村 栄造	
農学部	教授	湊 健一郎	
薬学部	教授	湯川 和典	
都市情報学部	教授	亀井 栄治	
人間学部	教授	谷口 義則	
外国語学部	教授	呉 大煥	
学教わいね 一	車孜却巨	青木 利信	任期:~7月31日
学務センター	事務部長	犬飼 斉	任期:8月1日~

【FD 専門委員会(13名)】

所属等	職名	氏 名	備考
大学教育開発センター	センター長・教授	山田 宗男	理工学部
学務センター	センター長・教授	山本 雄吾	経済学部
法学部	准教授	仁井田 崇	
経営学部	教授	堀川 新吾	
経済学部	教授	伊藤 健司	座長
理工学部	教授	坂東 俊治	
農学部	准教授	荒川 征夫	
薬学部	教授	大津 史子	
都市情報学部	教授	酒井 順哉	
人間学部	教授	一ノ谷 清美	
外国語学部	准教授	ウィキン ポール	
総合学術研究科	助教	神藤 定生	
教職センター	教授	竹内 英人	

令和2年度 大学教育開発センター委員会活動記録

• [第1回 令和2年4月2日(木)](メール審議)

【審議事項】

- 1. 副委員長の選出について
- 2. 令和元年度の委員会活動について
 - (1) 令和元年度大学教育開発センター委員会活動実績について
 - (2) 専門委員会の設置について
- 3. 令和2年度院高度化費(充実施策)の使途について
 - (1) 院高度化費(充実施策)の使途及び予算配分額
 - (2) 大学院生研究助成(A)・(B) の募集、審査方法・スケジュール
 - (3) 大学院生研究助成(A)・(B) 申請学生リストの修正
 - (4) 英語プレゼンテーション講座の募集について
 - (5) 大学院生を対象としたプレ FD の助成について
- 4. 令和2年度学内助成制度の審査分担について

【報告事項】

1. 令和2年度名城サプリメント教育のスケジュール修正について

【その他】

- 1. 委員会欠席の際の取り扱いについて(委任状)
- 「第2回 令和2年5月7日(木)](メール審議)

【審議事項】

- 1. 各学部・研究科等における FD 取組を推進する組織の名称変更及び今年度の活動内容 について
 - (1) 各学部・研究科等における FD 取組を推進する組織の名称変更について
 - (2) FD·SD の共通課題について
- 2. 令和2年度前期授業改善アンケートについて
 - (1) 実施概要・スケジュール
 - (2) 設問項目の検討

【報告事項】

- 1. 大学教育開発センター委員会専門委員会の分担について
- 2. 令和2年度学内助成制度の審査分担について
- [第3回 令和2年6月4日(木)]

【審議事項】

- 1. 令和2年度授業改善アンケート設問について
- 2. 令和2年度大学教育開発センター委員会刊行物の発刊について

- (1) 刊行物(名城大学教育年報、名城大学 FD·SD 活動報告書)の発刊について
- (2) 投稿原稿の募集について
- (3)編集作業について
- 3. 令和2年度学習サポートルームの遠隔実施について
- 4. 令和2年度名城サプリメント教育の遠隔実施拡大について

【報告事項】

- 1. 令和2年度院高度化費について
 - (1)配布予算額の確定について
 - (2) スケジュールについて
- 2. 令和2年度学習サポートルーム相談員(二次募集)の書類審査結果について

【その他】

- 1. 令和2年度推薦合格者入学前オリエンテーションの意見聴取について
- [第4回 令和2年7月2日(木)]

【審議事項】

- 1. 令和2年度大学院生研究助成(A)・(B) に係る審査結果について
- 2. 遠隔授業に関するアンケートの実施について

【報告事項】

1. 令和2年度学修成果の可視化に係る外部調査について

【その他】

- 1. 令和2年度前期授業改善アンケートの WebClass メッセージ送信による学生への回答 周知について
- [第5回 令和2年7月30日(木)]

【審議事項】

- 1. 遠隔授業アンケートについて
- 2. FD NEWS (Vol.13) の発刊について

【報告事項】

- 1. 令和2年度前期授業改善アンケートの中間報告について
- 2. FD·SD参加率の現状報告について
- 3. 第9回 FD 学習会の開催について
- [第6回 令和2年9月3日(木)]

【審議事項】

- 1. 名城サプリメント教育・学習サポートルームについて
 - (1) 令和2年度 前期 名城サプリメント教育・学習サポートルームの実績報告について

- (2) 令和2年度後期名城サプリメント教育・学習サポートルームの実施について
- 2. 令和3年度 入学前教育の実施について
 - (1) 令和2年度入学前教育の実施結果報告について
 - (2) 令和3年度 推薦合格者入学前オリエンテーションについて
 - (3) 令和3年度 MEC プログラムについて
 - (4) 令和3年度 入学前教育に係る検討依頼事項について
- 3. 第10·11回 FD 学習会の開催について

【報告事項】

- 1. 令和2年度前期授業改善アンケート集計結果報告について
- 2. 遠隔授業アンケートの実施報告について
- 3. 第9回 FD 学習会の実施報告について
- [第7回 令和2年10月1日(木)]

審議事項

- 1. 令和2年度後期授業改善アンケートの実施について
 - (1) 実施概要・スケジュール
 - (2) 前期授業改善アンケート教員コメント入力率の報告
- 2. 令和3年度学修成果の可視化に係る外部調査実施の希望聴取について
- 3. 第22回 FD フォーラムの開催について
- 4. 第11回 FD 学習会の開催について
- 5. 令和2年度教育功労賞の募集について
- 6. FD·SD 取組を推進する組織の活動報告(中間)の依頼について

【報告事項】

- 1. 遠隔授業アンケート(学生向け、教員向け)の集計結果について
- 2. 令和2年度英語プレゼンテーション講座実施結果について
- 3. 第10回 FD 学習会の実施報告について
- [第8回 令和2年10月21日(水)](メール審議)

【審議事項】

1. 遠隔授業アンケートデータ提供の申請方法について

【報告事項】

- 1. 第22回 FD フォーラムの開催について
- [第9回 令和2年11月5日(木)]

【審議事項】

- 1. 令和3年度 推薦合格者 入学前オリエンテーション 学部企画について
- 2. 令和3年度「学びのコミュニティ創出支援事業」について

【報告事項】

- 1. 令和2年度前期授業改善アンケート教員コメント入力結果(最終報告)について
- 2. 令和3年度 MEC プログラムについて
- 3. 第11回 FD 学習会の実施報告について
- 4. 令和3年度 学修成果の把握に係る外部調査実施の希望聴取結果について
- 5. 令和3年度 文部科学省概算要求私学助成関係について
- [第10回 令和2年12月3日(木)]

【審議事項】

- 1. 今後の FD 研修会・学習会企画(案) について
- 2. 令和2年度教育功労賞の審査方法について

【報告事項】

- 1. 令和2年度後期授業改善アンケートについて
 - (1) 科目数等の確定について
 - (2) 授業改善アンケートポスター
 - (3)「授業科目別報告書」の閲覧状況について
- 2. 教育年報投稿状況及び原稿確認依頼・スケジュールについて
 - (1) 募集要項
 - (2) スケジュール
 - (3) 令和2年度 教育年報投稿一覧と確認者
- 3. FD·SD 取組を推進する組織の活動報告(中間) について
 - (1) 各学部・研究科等における FD・SD 取組を推進する組織について
 - (2) FD·SD 取組を推進する組織の活動報告(中間)
- 4. 第22回 FD フォーラムの実施報告について

【その他】

- 1. 推薦合格者入学前オリエンテーションの名称変更について
- [第11回 令和3年1月7日(木)]

【審議事項】

- 1. 令和2年度教育功労賞審査について
- 2. 院高度化費における使途の見直しについて
- 3. FD NEWS (Vol.14) の発刊について

【報告事項】

- 1. 令和2年度後期授業改善アンケートの実施報告(中間)について
- 2. 令和2年度FD·SD活動報告書の作成依頼について
- 3. 新任教員 FD 研修会実施報告について
- 4. 大学コンソーシアム京都「第26回 FD フォーラム」の開催案内について

【その他】

- 1. FD 学習会について
- [第12回 令和3年3月4日(木)]

【審議事項】

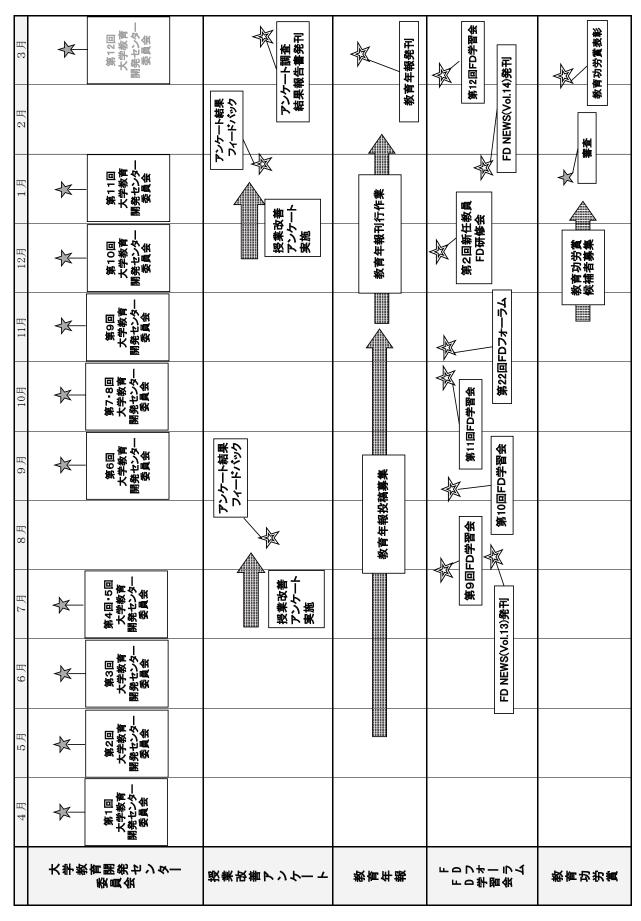
- 1. 令和3年度名城サプリメント教育の開講について
- 2. 令和3年度学習サポートルームの開室について
- 3. 令和3年度学習サポートルーム相談員の募集について
- 4. 名城サプリメント教育 英語の開講について

【報告事項】

- 1. 令和3年度入学前オリエンテーション及びMECプログラム受講者数の報告について
- 2. 令和2年度後期名城サプリメント教育の実績報告について
- 3. 令和2年度後期学習サポートルームの実績報告について
- 4. 令和2年度後期授業改善アンケートの実施報告について
- 5. FD 刊行物の編集状況について
 - (1) 名城大学教育年報
 - (2) FD·SD 活動報告書
- 6. 学修成果の可視化に係る外部調査の予算配布について
- 7. 令和2年度大学教育開発センター委員会の活動報告について
- 8. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)の公募 について

3. 令和2年度 FD·SD活動一覧

令和2年度 FD・SD 活動スケジュール



令和2年度 FD·SD活動一覧

1. 第22回 FD フォーラム

日 時:令和2年11月7日(土) 13:00~14:30

テーマ:コロナ禍における教育の質保証

参加者数:153人

プログラム:講演1「コロナ禍における教育の質保証-教学マネジメント指針を踏まえて-」

沖 裕貴 氏(立命館大学 教育開発推進機構 教授)

講演2「遠隔教育と教育の質向上のためのアプローチー WebClass を題材に-|

森本 康彦 氏(東京学芸大学 ICT センター 教授)

2. 第2回新任教員 FD 研修会

日 時:令和2年12月25日(金) 16:30~18:00

テーマ:大学の授業を設計する

参加者数:20人

講師: 名古屋大学高等教育研究センター 中島 英博 准教授

3. 第9回~第12回 FD 学習会

(1) 第9回

日 時: 令和2年8月7日(金) 13:00~14:00

テーマ:遠隔授業における WebClass の活用

参加者数:176人

講師: 名城大学 外国語学部 柳沢 秀郎 准教授

(2) 第10回

日 時:令和2年9月9日(水) 16:30~17:30

テーマ: WebClass と Google サービスを用いた遠隔授業 - 遠隔授業で最低限やってもらいたいこと -

参加者数:107人

講師: 名城大学 大学教育開発センター長 山田 宗男 教授

(3) 第11回

日 時:令和2年10月28日(水) 13:00~14:00

テーマ:数理・データサイエンス・AI教育の必要性と実践

参加者数:99人

講師: 名城大学 経済学部 勝浦 正樹 教授

(4) 第12回

日 時:令和3年3月2日(火) 13:30~15:30

テーマ:はじめての GoogleDrive

参加者数:14人

講 師:大学教育開発センター 山田 宗男 教授・外国語学部 柳沢 秀郎 准教授(天白キャンパス)

薬学部 大津 史子 教授 (八事キャンパス)

4. 令和2年度前・後期授業改善アンケート

実 施 期 間:前期…令和2年7月15日~令和2年8月4日 後期…令和2年12月14日~令和3年1月12日

対象科目:学部の授業を担当する専任教員及び非常勤講師について、1人1科目以上対象科目を持つこととし、昨年度(令和元年度)前・後期にアンケートを実施した授業科目を中心として対象科目を設定した。昨年度の対象科目がない場合は、担当授業科目のうち、最も履修者数が多いものを対象科目とした。(ただし、体育科目、オムニバス形式の科目、実験・実習・演習科目、履修者数が10名未満の科目は除く)

実施科目数:前期796科目(学生回答数:延べ33,204件) 後期782科目(学生回答数:延べ22,072件)

概 要:学生の視点から授業改善の手がかりを探り、授業改善につなげることで教育の質を 向上させることを目的に実施した。

アンケートは LMS である WebClass 上で実施。集計結果は教員個人にフィードバックするほか、分析結果を報告書としてまとめ、学内及びホームページにて公開している。

5. 名城大学 FD NEWS

(Vol.13) 発刊日:令和2年8月

内 容:「教学マネジメント指針」を読み解く~学修者本位の教育への転換~

- (1) なぜ「教学マネジメント指針」は策定されたのか
- (2)「教学マネジメント指針」の要点
- (3) 本学における教学マネジメント
- (4) 名城大学の FD 活動
- (5) 刊行物の紹介
- (6)書籍の紹介(FD関連)

(Vol.14) 発刊日:令和3年1月

内 容:アフターコロナを見据えた大学教育の在り方~遠隔授業に関するアンケー ト結果を踏まえて~

- (1) 遠隔授業実施に関するアンケート結果
- (2) FD フォーラム「コロナ禍における教育の質保証」の概要
- (3) 反転授業とは
- (4) 名城大学の FD 活動
- (5) 刊行物の紹介
- (6)書籍の紹介(FD関連)

6. 名城大学教育年報第15号発刊

発刊日:令和3年3月

投稿資格:名城大学の教職員(教員・事務職員)。本大学の教育に携わる他大学等の教育職員(非

常勤講師)の投稿も可。退職者については退職後3年以内を目安とする。

概 要:本学における教育活動の研究・実践活動を共有・蓄積し、広く教育の質の向上に資す

ることを目的として、教育実践報告を募集、教育功労賞受賞者による特別寄稿を依頼 した。投稿・寄稿された原稿は、大学教育開発センターの専門委員会委員によるチェッ

クを経たうえで、本学ホームページ上に掲載する。教育年報の種別・内容等は次のと

おりである。

区分	令和2年度件数	定義
特別寄稿	1件	(1) 教育功労賞受賞者による特別寄稿 (2) FD フォーラムによる特別寄稿
教育実践報告	6件	教育実践を対象とした取り組みで、本学及び他大学の学部・研究科・ センター・部署の参考になる報告

7. 令和 2 年度 FD・SD 活動報告書発刊

発刊日:令和3年3月

概 要:令和2年度の本学におけるFD·SD活動についてまとめたもの。本学ホームページ

上に掲載する。

8. 教育功労賞表彰

概 要:教育功労賞は、教職員の教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的とし、各学部及び研究科等において、教育活動及び教育改善に大きく貢献した専任教員またはグループ(事務職員を含む)に授与するもの。令和2年度は計3件の申請があり、大学教育開発センター委員会による審査を経て、大学協議会で協議の結果、相応しい内容であることから、表彰すると共に本報告書に活動内容を記載し、周知を図ることとする。

令和2年度教育功労賞受賞一覧

候補者等氏名	所属学部	推薦対象となった活動・テーマ
谷田真	理工学部	多文化共生社会を意識した学生たちによる地域コミュニティ環 境づくり
基軸科目「現代に生きる」 の構想と立ち上げチーム	人間学部	基軸科目「現代に生きる」の構想と立ち上げ
アーナンダ・クマーラ	外国語学部	オムニバス科目「日本とグローバル人材」のオーガナイズ

9. 令和2年度学外セミナー・研究集会等への派遣

【大学教育開発センターが把握した分のみ掲載】

No.	開催日	企画名称	主催機関	派遣 人数
1	令和2年 4月3日	【第2回】4月からの大学等遠隔授業に関する 取組状況共有サイバーシンポジウム『データダイエット戦略』	国立情報学研究所(NII)	1名
2	4月10日	【第3回】4月からの大学等遠隔授業に関する 取組状況共有サイバーシンポジウム	国立情報学研究所(NII)	1名
3	4月17日	【第4回】4月からの大学等遠隔授業に関する 取組状況共有サイバーシンポジウム	国立情報学研究所(NII)	1名
4	4月24日	【第5回】4月からの大学等遠隔授業に関する 取組状況共有サイバーシンポジウム	国立情報学研究所(NII)	1名
5	7月1日	第3回 大学教職員向け WEB セミナー	ベネッセコーポレーション	3名
6	7月10日	令和2年度「知識集約型社会を支える人材育成事業」公募説明会	文部科学省高等教育局	2名
7	8月5日	「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム (関東·首都圏ブロック)2020年度第1回ワークショップ」	数理・データサイエンス 教育強化拠点コンソーシアム	3名
8	8月25日	2020年度 ICT 利用による教育改善研究発表会	公益財団法人 私立大学情報教育協会	1名
9	9月4日	【第15回】 4 月からの大学等遠隔授業に関する 取組状況共有サイバーシンポジウム	国立情報学研究所(NII)	3名
10	9月17日	「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム (関東·首都圏ブロック)2020年度第2回ワークショップ」	数理・データサイエンス 教育強化拠点コンソーシアム	1名
11	9月19日	第1回大学行政管理学会 中国·四国地区研究会	大学行政管理学会	3名
12	10月7日	授業目的公衆送信補償金制度のオンライン説明会	一般社団法人 授業目的公衆送信補償金等管理協会 SARTRAS	2名
13	10月29日	第5回大学教育イノベーションフォーラム	大学教育イノベーション日本(HEIJ)	2名
14	11月5日	令和2年度数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 中部・東海ブロック会議	数理・データサイエンス 教育強化拠点コンソーシアム	6名
15	11月18日	スタディ・プログラム (テーマ2)	公益財団法人 大学基準協会	3名
16	12月16日	2020年度 関東・首都圏ブロック 特別企画ワークショップ	数理・データサイエンス 教育強化拠点コンソーシアム	5名
17	12月23日	「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」 公募説明会①	文部科学省高等教育局専門教育課	5名
18	令和3年 1月14日	「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」 公募説明会②	文部科学省高等教育局専門教育課	5名
19	1月20日	大学等の高等教育機関のためのはじめての認証評価セミナー	一般社団法人 教育人材開発機構	4名
20	1月27日	2020年度 第4回千葉大学アカデミック・リンク/ ALPS セミナー	千葉大学アカデミック・リンク・ センター	3名
21	1月28日	令和3年度大学教育再生戦略推進費 「知識集約型社会を支える人材育成事業」 メニュー③インテンシブ教育プログラム事務説明会	文部科学省	3名
22	1月29日	授業目的公衆送信補償金制度のオンライン説明会	一般社団法人 授業目的公衆送信補償金等管理協会 SARTRAS	2名
23	1月29日	立命館大学 「新常識 (new normal) における高等教育の展望」	立命館大学教育・学修支援センター	1名
24	2月20日、21日 27日、28日	第26回 FD フォーラム	公益財団法人 大学コンソーシアム京都	3名
25	3月6日	大学教育改革フォーラム in 東海2021	大学教育改革フォーラム in 東海 2021実行委員会	4名
26	3月29日	2020年度大学評価シンポジウム	公益財団法人 大学基準協会	2名

4. 令和2年度正課外教育活動一覧

令和2年度正課外教育活動一覧

1. 入学前教育

(1) 概要

本学の推薦入試等合格後、学習習慣を維持するとともに、入学後に大学での学習を円滑に開始 するための一助とすることを目的とした教育プログラム。①入学前オリエンテーション② MEC プログラム(自宅学習)で構成される。

◆ MEC プログラム学部別開講科目一覧 【表の見方】◎ · · · 学部推奨 ○ · · · 開講

	学音	部別開講科目	経営	都市情報	人間	外国語	理工	農学部	薬学部
科目 学習内容 (概要)				学部	学部	学部	学部	辰子即	来子叩
F	日本語表現	大学で必要となる 「読む・書く」の基本	0	0	0	0	0		
	英語の基礎	高校で学ぶ英文法基礎 (英検3級〜準2級)	0	0	0		0	0	
英語	Reading I (初級)	平易な中文・長文読解 (英検準2級~2級)	0	0	0	0	0	0	
	Reading II (中級)	中文·長文読解等 (英検2級)	0	0	0	0	0	0	
	数学 (文系)	数Ⅰ A、数Ⅱ B まで 四則計算、統計等	0	0	0				
数 	数学 (理系) <基礎>	三角関数、微積等数Ⅰ・Ⅱが 不得意な人					0	0	
学	数学 (理系) <応用>	三角関数、微積等基礎力を 高めたい人					0	0	
	数学(薬)	数Ⅱ・数Ⅲ、関数の極限・ 微積等							0
	物理 (理系) <基礎>	力学・運動方程式等 物理基礎が未履修・不得意な人					0	0	
物理	物理 (理系) <応用>	力学・運動方程式等 基礎力を高めたい人					0	0	
	物理(薬)	力学・運動方程式等							0
化学 電子配置·化学結合等						0	0		
	生物	細胞・遺伝子・呼吸等						0	0

- ※1 上記から2科目選択。
- ※2 法学部・経済学部は、MECプログラムは未開講(学部独自の入学前教育を実施)。

(2) 実施内容・結果等(アンケートは一部抜粋・改稿含む)

①**令和2年度 入学前オリエンテーション**:1,119名 (参加率71.0%)

【実施概要】

< 令和 2 年 1 月12日(日)実施 >

学部名								実	施内容							
구하는	13:00			13:30		14:00		14:3	0	15:00			15:30			16:00
							学部企画		-	, , , , , ,						
法			カリキ	ュラム・含	生活·資格取得	入学前 教育	休憩	授業!! 模擬語		専門語学 プログラム	アン ケート		個別	J村1談		
	1	《学部企画》														
経営		大学で	の学び	学生発表	長(学習の流れ・	活動報告)	休憩	入学前 準備			·一ト・個別	別相談				
	1								《学部企画	j						ſ
経済				準備		経	済学部で	2できること/で	きるようにな	ること(学生発表:	3)			アン	ナート	個別相談
	1					《学部企画	j			MEC				自由	個別	
理工	学业		学生発	表(先輩力	いらのアドバイス)	自己分	析テスト	休憩	説明		アンケー	-	質問	相談	
	맡					《学部企画	j									
農	部長挨拶		準備		MECと大学	での学修		グループ (学生担		アンケート						
	19					(学部企画	j)}			MEC	アン				
薬	7			高校	と大学での学び	の違い		グルー	-ブワーク(*	学生担当)	説明	ケート				
	1					《学部企画	j			MEO 70						
都市			### MEC アン 説明 ケート 準備 大学における学び 学生メッセージ 説明 ケート のより													
		《学部企画》														
人間		MEC説明、グルーブ編成 グルーブワーク 開会 アンケート														
							《学部	企画》					MEC	アン	個別	
外国 学部説明 休憩 グループワーク								説明	ケート	相談						

【アンケート結果】

「満足」と答えた者が約70%、「どちらかといえば満足」が約28%と満足度は高い。

- ・卒業するのは簡単だと思っていたし、大学生は暇だと思っていたが、学業にしっかり取り 組んでいきたいと思う。
- ・今までは、授業で学ぶことばかり考えていたが、ゼミについて詳しい話を聞くことができてよかった。

②**令和2年度 MEC プログラム (自宅学習)**:530名 (受講率45.5%)

【実施内容】

	課題区分	提出締切日	返却予定日	
	共通課題	令和2年1月27日	令和2年2月22日~	
		第1回締切:令和2年2月7日	第1回締切:令和2年2月22日~	
選	通信教育 教材 3 回	第2回締切:令和2年2月17日	第2回締切:令和2年3月5日~	
選択課題	JAN 0 II	第3回締切:令和2年2月25日	第3回締切:令和2年3月17日~	
選	自己学習 テキスト1回	提出不要(日本語表現	見選択者は提出有)	

【アンケート結果】

「満足・やや満足」の回答率が95.4%、「やや不満・不満」の回答率が4.5%であった。

- ・答えがなく、自力で解かなければいけないのがよかった。
- ・特に難しい問題には、ヒントがあるとありがたいです。
- ・ 高校で習っていないところがたくさんあり、調べるのに時間を要したが、非常に勉強に なった。

①令和3年度 入学前オリエンテーション

【実施概要】新型コロナウイルスの影響により、令和3年度は、非対面による実施とした。

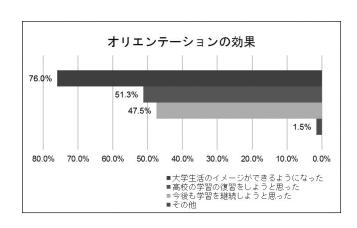
					実施	内容				
	学部名		学部長 挨拶	学部の 説明	模擬講義	先輩の 説明等	入学前 教育	アン ケート	期間	方法
法	学	部	0	0	0		0	0	1/9 ~ 3/31	НР
経	営 学	部		0			0	0	1/9 ~ 3/31	НР
経	済 学	部	0	0	0		0	0	1/9 ~ 1/29	НР
理	工 学	部	0			0	0	0	1/9~1/31	НР
農	学	部	0	0			0	0	1/9~1/31	HP·Webex (1/9)
薬	学	部	0	0			0	0	1/9 ~ 1/31	НР
都可	市情報学	全部	0	0		0	0	0	発送~ 3 /31	DVD · Youtube
人	間 学	部	0			0	0	0	1/9~1/31	НР
外	国語学	部	0	0		0	0	0	1/9 ~ 1/17	HP · Youtube

【アンケート結果】

令和3年度入学前オリエンテーションのアンケートでは、満足度ではなく効果を確認した。 Web アンケートにより、複数回答可とし、合計583名(実数)が回答した。

<自由記述>

- ・人間関係を豊かにしつつ、遅れをと らないように自ら進んで卒業まで学 び続けていきたい。
- ・今まで大学生活をあまり想像できな かったのですが、必要とされる能力 などが分かりました。
- ・積極的に様々なことに取り組み、実 践力や洞察力などを身につけ、貢献 できる人を目指します。



②**令和3年度 MEC プログラム (自宅学習)**:681名 (受講率51.7%)

【実施内容】

	課題区分	提出締切日	返却予定日		
	共通課題	令和 3 年 1 月25日	令和3年2月24日~		
	译层数字	第1回締切:令和3年2月9日	第1回締切:令和3年2月24日~		
選	通信教育 教材 3 回	第2回締切:令和3年2月17日	第2回締切:令和3年3月4日~		
選択課題	秋州 3 固	第3回締切:令和3年2月25日	第3回締切:令和3年3月12日~		
題	自己学習	担中不更 (日本鈺丰)	1選提多/+提出字/		
	テキスト1回	提出不要(日本語表現選択者は提出有)			

アンケート募集及び集計については、令和2年度末を予定。

2. 名城サプリメント教育

(1) 概要

本学の専門教育を履修する上で特に重要な内容であるにもかかわらず、高等学校段階において 未履修、もしくは学習が不十分な教科・科目について補習を行い、正課における学修の充実を図 る教育プログラム。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「薬学部向け物理」以外の講座についてはWebClassによる課題の提示、「薬学部向け物理」については、Zoomによるオンライン講義を実施した。

≪開講科目≫

科	日名称	方法	実施内容
数	学	WebClass	課題・解答を提示、質問対応
物	理	WebClass	課題・解答を提示、質問対応
化	学	WebClass	資料・課題を提示。課題は、講師が添削
生	物	WebClass	資料・課題・解答を提示
日本	語 表 現	WebClass	資料・課題を提示。課題は、講師が添削
薬学	部向け物理	Zoom	質問対応・単元を絞ってオンライン講義を実施 (6月は火曜5限、7月は火曜1限)

≪実施期間≫ ※ WebClass で実施している科目は、実施期間終了後も掲載を継続

前期:令和2年4月20日~7月31日(化学・生物)

後期: 令和2年9月23日 ~ 12月25日

※前期の日本語表現・数学・物理・薬学部向け物理は、6月8日から開始

(2) 利用者延べ数 (単位:人)

科目名	6称	前期	後期
数	学	14	20
物	理	8	31
化	学	57	44
生	物	27	25
日本語	表現	27	24
薬学部向	け物理	206	
合	計	339	144

3. 学習サポートルーム

(1) 概要

主に学部生の学びに関する相談を受け付ける窓口。大学教育開発センター委員会にて選考した 大学院生を在室させ、時間割を組むことにより、授業時間中はほぼいつでも安心して相談できる 体制を構築している。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、天白・ナゴヤドーム前両キャンパスの学習サポートルームを閉室し、Zoomによる遠隔相談を実施した。

≪開室時間帯≫

天白キャンパス担当	月 10:50~16:20 火 10:50~16:20 水 10:50~16:20 (6月のみ14:40まで) 木 10:50~13:50、14:50~16:20 金 10:50~16:20 (11·12月は14:40まで)
ナゴヤドーム前 キャンパス担当	月 12:30~16:20 (前期)、12:40~16:20 (後期) 火 12:30~16:20 (前期)、12:20~16:20 (後期) 木 12:50~16:20

(2) 利用者数延べ数 (実数)

天白キャンパス担当	前期(令和2年6月10日~7月31日)	9名(6名)
人口イヤンハス担当	後期(令和2年9月23日~12月25日)	7名(6名)
ナゴヤドーム前	前期(令和2年6月11日~7月30日)	1名(1名)
キャンパス担当	後期(令和2年9月24日~12月24日)	0名

(3) 相談内容(利用実績)

- レポート・卒業論文に関する相談
- 計算問題に関する相談
- 学習計画に関する相談

5. 令和2年度 各学部・研究科等における FD・SD 取組を推進する組織の 活動報告

各学部・研究科等における FD・SD 取組を推進する組織一覧

学部	推進組織名	推進組織構成メンバー
法学部	FD 委員会	法学部長、協議員、大学教育開発センター委員 (教務委員、学生委員の兼任を含む)、FD 委員
法学研究科	FD 部会	修士課程部会および博士後期課程部会構成員全員
経営学部	GP 等教育支援プロジェクト 委員会・経営学部 FD 委員会	経営学部長、経営学部協議員、経営学科長、国際経営学科長、 キャリア委員、教務委員、FD 委員、担当委員
経営学研究科	教育制度改革委員会	経営学部長、経営学部協議員、経営学科長、国際経営学科長、 主任教授、FD 委員
経済学部	経済学部 FD・SD 委員会	経済学部長、経済学科長、教務委員、経済学科委員、産業社 会学科長、教務委員、産業社会学科委員、FD·SD委員
経済学研究科	経済学研究科 FD·SD 委員会	研究科長、主任教授、研究科委員、FD·SD 委員
理工学部	教育改善委員会	委員長(学部長指名)、学科委員(11名)、教養教育委員(1名)、物理教室委員(1名)、理工学部教務委員長、学部評価委員長、大学教育開発センター委員会委員(理工学部2名)、理工学部事務職員(2名)、必要に応じて委員長が指名する委員(若干名)
理工学研究科	教育改善委員会 (大学院教育 WG)	委員長(研究科長指名)、専攻委員(11名)、教養教育委員(1名)、物理教室委員(1名)、理工学研究科教務委員長、学部評価委員長、大学教育開発センター委員会委員(理工学部2名)、理工学研究科事務職員(2名)、必要に応じて委員長が指名する委員(若干名)
農学部	農学部 FD 委員会	農学部 FD 委員を中心とする農学部関係教職員 (生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科の各学科 会議および農場教員会議を分科会と位置づける)
農学研究科	農学研究科大学院運営委員会	農学研究科大学院運営委員会(農学研究科主任教授、農場長、 生物資源学科長、応用生物化学科長、生物環境科学科長、農 学部学務担当職員で構成)
薬学部	薬学部 FD・SD 委員会	FD・SD 委員長、協議員、教務委員長、学生委員長、就職委 員長、国試・CBT 対策委員長、教育開発センター長、教務 係事務職員1名
薬学研究科	大学院薬学研究科 FD·SD 委員会	薬学研究科主任教授、FD·SD委員2名、大学院担当事務職 員1名。委員長は薬学研究科主任教授を充てる。
都市情報学部	都市情報学部 FD·SD 委員会	委員長、委員2名、担当事務職員1名
都市情報学研究科	大学院学務委員会	委員長(主任教授)、委員4名、担当事務職員1名
人間学部	人間学部 FD 委員会	FD 委員長、FD 委員 (4名)、教務事務職員1名
人間学研究科	人間学研究科 FD 委員会	FD 委員長 (主任教授)、FD 委員 (2名)、教務事務職員 (1名)
外国語学部	外国語学部 FD·SD 委員会	FD·SD 委員会委員長、FD·SD 委員会委員(4名)
総合学術研究科	総合学術研究科教育検討部会	◎景山伯春教授○伊藤康児教授原田健一教授衣斐大祐准教授志村ゆず准教授
教職センター	教職センターFD 推進委員会	曽山 和彦(教授・教職センター長) 竹内 英人(教授・大学教育開発センター委員会委員) 谷口 正明(准教授・教職センター)

学部・研究科・センター (法学部推進組織名 (FD 委員会

1. 令和2年度の活動報告

令和2年度においては、「学生の現況にかかる情報、ならびに授業運営の知識と経験の共有化を図ることで、教育の改善と充実を目指す」という活動目標のもと、前年度に引き続き、初年次教育に関連する活動を中心に行う予定であった。しかし新型コロナウイルスの影響により、多くの取り組みを延期もしくは中止にせざるを得ないという事態に陥ってしまった。

その代わり、遠隔講義の大規模な導入を念頭に置いた取り組みを前期においては重点的に行い、後期においてはその評価と改善策にかかる取り組みを実施した。活動の概略は以下の通りである。

1) 遠隔講義の授業運営に関する取り組みの実施(FD/SD)

WebClass の使用方法に関するガイダンスと、その効果的な運用方法にかかる情報交換を目的とした会合を 2 回、開催した(5、6 月)。その上で、大学教育開発センターが実施した「遠隔授業アンケート」のデータを分析し、これまでの遠隔講義の評価と改善策の検討にかかる会合を、3 月 9 日に実施した。【 \leftarrow ②その他学部独自の取組(SD 含 む)】

2) 初年次教育研究会の開催 (FD/SD)

法学部では、質の高い初年次教育のあり方を集中的に議論するための研究会(初年次教育研究会)を5年前から定期的に開催しており、成果を挙げつつある。今年度は、a)初年次生の文章作成能力の現状分析とその結果の共有、b)得られた知見を授業へフィードバックする方法の検討、c)GPS-Academic を用いた学生の能力把握とそれに基づく初年次教育の手法の構築、というテーマについて議論を重ねた(3月)。【←①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善、②その他学部独自の取組(SD 含む)】

3) 小論文課題の実施と講評会の開催 (FD)

「学びのコミュニティ創出支援事業」と連動させる形で、初年次生を対象にした小論文課題を 10月下旬から実施しており、その講評会を1月6日に開催した。【←②その他学部独自の取組(SD 含む)】

4)外部機関を用いた学生意識調査の実施(FD/SD)

大学教育開発センターの協力を得て、ベネッセiキャリアが提供する GPS-Academic を10~11月にかけて実施しており、12月9日にはこの調査の意義と大学での学びにそれをどう生かすかに関する講演会を開催した。また、3月にはこの調査によって得られたデータをより精緻に分析

2. 今後の課題、方向性

新型コロナウイルスの影響により、例年、実施していた学部独自の取り組みを中止せざるを得なかったため、次年度はこれらの活動を再び軌道に乗せることが大きな課題となる。これに加えて、遠隔講義の重要性が増してきていることから、効果的な遠隔講義の運用方法の開発とそれにかかる情報交換を積極的に展開していきたい。

本学部においては、とりわけ初年次教育研究会を中心とした FD/SD 活動が定着しつつあり、 教員間の授業運営にかかる意識と知識の共有はかなりの程度において進んできている。次年度は 遠隔講義の運用と学修成果の検証にかかる取り組みに特に重点を置きつつも、基本的には大きく 体制を変化させることなく、これまでの成果をさらに発展させる方向での活動を行いたい。

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和2年5月14日	遠隔講義に関する情報提供と質の向 上にかかる会合の実施	FD·SD	【出席者】伊川、伊藤(博)、伊藤(亮)、植木、仮屋、河北、菊地、近藤、佐藤、庄村、高橋、高松、二本柳、野口、日比野、平井、前田、松田(恵)、松本、柳、柳澤(武)、柳沢(雄)、山田、吉行、米田、足立、川原、川元、北見、久米、笹岡、代田、杉浦、滝谷、仁井田、萩野、長谷川、松田(真)、矢嶋、山口
2	令和 2 年 6 月25日	遠隔講義におけるテストの活用にか かる会合の実施	FD·SD	【出席者】伊川、伊藤(博)、伊藤 (亮)、植木、仮屋、河北、菊地、 近藤、佐藤、庄村、高橋、二本柳、 野口、日比野、平井、松田(恵)、 松本、柳、柳澤(武)、柳沢(雄)、 吉行、米田、小山田、川元、北見、 久米、笹岡、代田、杉浦、滝谷、仲、 仁井田、萩野、松田(真)、矢嶋、 山口
3	令和2年 10月1日~11月4日	GPS-Academic の実施	FD·SD	【実施主体】FD 委員会、情報分析 委員会
4	令和 2 年12月 9 日	GPS-Academic にかかる学生向け講演会の実施	FD	【実施主体】FD 委員会
5	令和3年1月6日	小論文講評会の実施	FD	【実施主体】FD 委員会
6	令和3年3月9日	初年次教育研究会の実施	FD·SD	【出席者】伊川、伊藤(亮)、植木、 仮屋、河北、川元、久米、近藤、 庄村、代田、杉浦、滝谷、仁井田、 二本柳、野口、萩野、長谷川、前田、 松田(真)、松本、矢嶋、柳澤(武)、 柳沢(雄)、山口

学部・研究科・センター(法学研究科	
推進組織名(FD 部会	

1. 令和2年度の活動報告

令和2年度は、昨年度からの課題であった修士課程および博士後期課程の定員充足および適正 な定員数について、研究科委員会で検討を行い、定員を変更した。

また、大学院3ポリシーについて、学部等評価委員会で原案を作成し、研究科委員会で審議の 上、見直しを行った。

さらに、行政書士向けの特別講義については、今年度は開講時期を前期から後期に変更しオンラインによる開講に切り替えて実施したが、次年度の開講に向けて行政書士会と協議を行い、先 方の希望に基づいて実施方法や科目を決定した。

なお、当初は意図したものではなかったが、学内における大学院生向けの奨学金(学業優秀奨学生・大学院奨学生)の選考基準をめぐる議論の中で、修士課程の大学院生の履修状況について検討する機会を持った。

2. 今後の課題、方向性

令和2年度では、大学院生の研究成果の把握のため、修了時アンケートの結果を踏まえ、カリキュラムの有効性やディプロマ・ポリシーとの関係を検討する予定であった。しかし、昨年度の卒業式・修了式の際に手違いでアンケートを回収することができず、これに関する分析が行えなかった。今年度の修了生に対してはアンケートを実施できるように実施体制を確認する。

また、博士後期課程におけるカリキュラム改正により、コースワークとリサーチワークがどのように連関しているか、大学院生の研究成果の公表方法のあり方、カリキュラム内容、遠隔授業の教育方法など、今後検討の必要がある。

なお、定員充足に向けた入試制度のあり方については、令和3年度入学試験の面接の場において、受験者に対しては HP 等の広報が有効であることが把握できた。この点は継続するとともに、入試科目の見直しやコース制導入の必要性についても、引き続き検討する。

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和2年6月11日	大学院法学研究科委員会【修士課程 部会】における 学業優秀奨学生・大学院奨学生の選 考および選考基準の検討	FD·SD	近藤、植木、河北、伊川、庄村、 北見、佐藤、伊藤(亮)、二本柳、 萩野、滝谷、柳、野口、仮屋、川元、 杉浦、山口、吉行、長谷川、松田 (真)、前田、日比野、柳沢、柳澤、 川原、松田(恵)、野上、平井、 代田、松本、仁井田、矢嶋
2	令和2年6月25日	大学院法学研究科委員会【修士課程 部会】における定員見直しの検討	FD·SD	近藤、植木、河北、伊川、庄村、 北見、佐藤、伊藤(亮)、二本柳、 萩野、滝谷、柳、野口、仮屋、川元、 杉浦、山口、吉行、長谷川、松田 (真)、前田、日比野、柳沢、柳澤、 川原、松田(恵)、野上、平井、 代田、松本、髙松、仁井田、矢嶋
3	令和2年6月25日	大学院法学研究科委員会【博士後期 課程部会】における定員見直しの検 討	FD·SD	近藤、植木、伊川、佐藤、伊藤(亮)、柳、野口、吉行、前田、柳澤、平井、 松田、野上;陪席:松本
4	令和2年7月9日	大学院法学研究科委員会【修士課程 部会】における定員見直しの検討	FD·SD	近藤、植木、河北、伊川、庄村、 北見、佐藤、二本柳、萩野、滝谷、 柳、野口、仮屋、川元、杉浦、山口、 吉行、長谷川、松田(真)、前田、 日比野、柳沢、川原、松田(恵)、 野上、平井、代田、松本、髙松、 仁井田、矢嶋 委任出席:伊藤(亮)、菊地、柳澤
5	令和2年7月9日	大学院法学研究科委員会【博士後期 課程部会】における定員見直しの検 討	FD·SD	近藤、植木、伊川、佐藤、柳、野口、 吉行、前田、平井、松田、野上 委任出席:伊藤(亮)、菊地、柳澤; 陪席:松本
6	令和2年7月24日	学部等評価委員会における 大学院生の学修成果に関するデータ の検討	FD	伊川、松本、前田、仁井田
7	令和2年9月3日	大学院法学研究科委員会【修士課程 部会】における 学業優秀奨学生・大学院奨学生の選 考および選考基準の検討	FD·SD	近藤、植木、河北、伊川、庄村、 北見、佐藤、伊藤(亮)、二本柳、 萩野、滝谷、野口、仮屋、杉浦、 山口、吉行、長谷川、松田(真)、 前田、日比野、柳沢、川原、松田 (恵)、野上、柳澤、平井、代田、 松本、矢嶋
8	令和2年10月15日	学部等評価委員会における 大学院 3 ポリシーの検討	FD·SD	伊川、松本、前田、仁井田
9	令和2年11月26日	愛知県行政書士会との講座運営検討 会	SD	伊川 愛知県行政書士会常務理事、理事 陪席:長縄、角田

日	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
10	令和2年12月1日	愛知県行政書士会との講座運営検討 会	SD	伊川 愛知県行政書士会会長、副会長、 常務理事 陪席:長縄、角田
11	令和 2 年11月26日	大学院法学研究科委員会【修士課程 部会】における大学院3ポリシーの 検討	FD·SD	伊川、伊藤(博)、伊藤(亮)、植木、 仮屋、河北、菊地、佐藤、高松、 二本柳、野上、野口、日比野、平井、 前田、松田(恵)、松本、柳、柳澤、 柳沢、吉行、川本、北見、代田、 杉浦、川原、滝谷、仁井田、萩野、 長谷川、松田(真)、矢嶋、山口 委任出席:近藤、庄村、笹岡
12	令和 2 年11月26日	大学院法学研究科委員会【博士後期 課程部会】における大学院3ポリ シーの検討	FD·SD	伊川、伊藤(博)、伊藤(亮)、植木、 菊地、佐藤、野上、野口、平井、 前田、松田(恵)、柳、柳澤、吉行 委任出席:近藤 陪席:松本
13	令和 2 年12月17日	大学院法学研究科委員会【修士課程 部会】における大学院3ポリシーの 検討	FD·SD	伊川、伊藤(博)、伊藤(亮)、植木、 仮屋、河北、菊地、近藤、佐藤、庄 村、髙松、二本柳、野上、野口、日 比野、平井、前田、松田(恵)、松本、 柳澤、柳沢、吉行、川本、北見、代 田、杉浦、川原、滝谷、仁井田、萩野、 長谷川、松田(真)、矢嶋、山口 委任出席:笹岡
14	令和 2 年12月17日	大学院法学研究科委員会【博士後期 課程部会】における大学院3ポリ シーの検討	FD·SD	伊川、伊藤(博)、伊藤(亮)、植木、 菊地、近藤、佐藤、野上、野口、 平井、前田、松田(恵)、柳澤、 吉行;陪席:松本
15	令和3年1月14日	大学院法学研究科委員会【修士課程 部会】における研究指導(学位論文 作成)スケジュール(モデル)の検 討	FD	伊川、伊藤(亮)、植木、仮屋、河北、佐藤、庄村、髙松、二本柳、野上、野口、日比野、平井、前田、松田(恵)、松本、柳澤、柳沢、吉行、川本、北見、代田、杉浦、川原、滝谷、仁井田、萩野、長谷川、松田(真)、矢嶋、山口委任出席:伊藤(博)、笹岡
16	令和3年1月14日	大学院法学研究科委員会【博士後期 課程部会】における研究指導(学位 論文作成)スケジュール(モデル) の検討	FD	伊川、伊藤(亮)、植木、菊地、 佐藤、野上、野口、平井、前田、 松田(恵)、柳澤、吉行 委任出席:伊藤(博) 陪席:松本

日	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
17	令和3年1月28日	大学院法学研究科委員会【修士課程部会】における入試基本事項の検討	SD	伊川、伊藤(博)、伊藤(亮)、植木、 仮屋、河北、佐藤、髙松、二本柳、 野上、野口、日比野、平井、前田、 松田(恵)、松本、柳沢、吉行、 川元、北見、代田、杉浦、川原、 滝谷、仁井田、萩野、長谷川、 松田(真)、矢嶋、山口 委任出席:近藤、庄村、柳澤、笹岡
18	令和3年2月25日	大学院法学研究科委員会【修士課程 部会】における 修士論文審査結果および修了判定の 検討	FD	伊川、伊藤(亮)、植木、仮屋、河北、近藤、佐藤、庄村、髙松、二本柳、野上、野口、日比野、平井、前田、松田(恵)、松本、柳、柳澤、柳沢、吉行、川元、代田、杉浦、川原、滝谷、萩野、長谷川、松田(真)、矢嶋、山口委任出席:伊藤(博)、菊地、北見、笹岡

学部・研究科・センター	(経営学部)
推進組織名	(GP 等教育支援プロジェクト委員会・経営学部 FD 委員会)

1. 令和2年度の活動報告

- ①学修成果を可視化する取組
 - ・2020年度第1回経営学部FD研修会において、本年度も「学修成果可視化の外部調査 (PROG テスト) | の実施を決定した。
 - ・2020年度第2・3回経営学部 FD 研修会において、「学修成果可視化の外部調査 (PROG テスト)」の実施形態、実施体制と役割分担、受験対象、周知方法について決定した。
 - ・経営学部懇談会の援助によって、簿記・情報処理・TOEIC 他の各種資格取得を促している。
 - ・専門ゼミナール単位での、インゼミ他に参加することを支援している。

②学部独自の取組

- (i) 学生の主体的な学びに関する取組、かつ、多様な学修経験に関する取組
 - ・「学びのコミュニティ創出支援事業」の資金的支援によって、「ビジネスモデル」の構築能力 の形成、「会計実務能力」の形成などの事業を実施した。ただし、今年度前期は、新型コロ ナウイルス感染拡大によって、大きな影響を受けることになった。
 - ・FSP 講座を 4 社の協力により「基礎ゼミナール |(1年配当) 4 クラスで実施した。
 - ・地元企業と協働で「(特I) キャリア特論 | を開講し学生7名が参加した。
- (ii)カリキュラム改正検討委員会の設置
 - ・現行カリキュラムの問題点を検討し、より質の高い教育を可能とするカリキュラムの策定を 行うためにカリキュラム改正検討委員会を設置した。

2. 今後の課題、方向性

名城大学および経営学部が目指す「生涯学びを楽しむ」「学びのコミュニティを創り広げる」ため、継続的な産学連携を可能とする(特定の個人に依存しない)制度的な受け皿の形成が課題となっている。そして、学部の取組については、今後もPDCAサイクルを推進する組織として、FD委員会とGP等教育支援プロジェクト委員会を一体化し、実学としての経営学部の教育についてFD活動を進めていく。

同委員会は、学部長・協議員・両学科長・キャリア委員・教務委員・FD 委員(オブザーバーとして事務長)をメンバーとして、毎月1回の開催を目安に招集し、その都度、学部の GP/FD 活動の年度計画の PDCA 活動を行うとともに、教授会開催前に、全構成員で教育改善のための議論を行っている。

口	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	【FD·SD 委員会】 令和 2 年 4 月 9 日	新型コロナウイルス感染症への対応 方針(前期)、2020年度「学びのコミュニティ創出支援事業」の実施計画について、輝く女性講演会について、PROGテストについて、FSPの実施について、愛知県社会保険労務士会寄附講座の実施について、国際経営学科の就職満足度が低い理由について	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、相川、東、五十畑、澤田(慎)、村上、新美、大西、澤田(貴)、田中、西垣、東田、堀川、堀畑、村松、桑島、高山、中川、山本
2	令和2年4月9日	「マナー教育」「情報倫理教育」「学生アンケート」について、身体に障がい のある学生について	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、桑島、高山、中川、山本
3	令和2年6月11日	障がい学生の受講上の配慮のお願い について	SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、桑島、高山、中川、山本
4	令和2年7月16日	令和3年度学位授与方針対応表等を 用いた教育課程の自己点検の実施に ついて	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、桑島、高山、中川、山本
5	令和2年7月30日	2020年度「学びのコミュニティ創出支援事業」の実施計画について、PROGテスト (3年生・2年生対象)について、「FD・SD を推進する組織」の活動における令和2年度の課題について、FSPの実施状況について	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槇野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、桑島、高山、中川、山本
6	令和2年7月30日	成績不振者の対応について	SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、桑島、高山、中川、山本
7	令和 2 年 8 月20日	サテライト授業 Zoom 接続について	FD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、桑島、高山、中川、山本

□	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
8	令和2年9月3日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の標準化について、令和3年度学位授与方針対応表等を用いた教育課程の自己点検の実施について	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、桑島、高山、中川、山本
9	令和2年9月19日	2020年度 成績不振者の対応について、パワハラ・アカハラ防止に向けた研修の実施について	SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槇野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、桑島、高山、中川、山本
10	令和2年10月8日	社会人基礎力測定検査(PROGテスト)の実施について、「アイシン・エィ・ダブリュ+ららぽーと愛知東郷+名城大学の三者連携事業」について	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、桑島、高山、中川、山本
11	令和2年10月8日	障がい等を理由とする修学支援につ いて	SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、桑島、高山、中川、山本
12	令和2年10月22日	2021年度国際フィールドワーク(台湾)実施について	FD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、桑島、高山、中川、山本
13	令和2年11月5日	障がい等を理由とする修学支援につ いて	SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、桑島、高山、中川、山本
14	令和2年11月19日	FD・SD について (パワハラ・アカハラ問題について)、持病がある学生への試験における対応等について、2020年度 就学指導について【結果報告】	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、桑島、高山、中川、山本
15	令和2年12月3日	カリキュラム改正検討委員会について	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、桑島、高山、中川、山本

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
16	令和 2 年12月17日	2021年度 経営学部「国際フィールドワーク(台湾)」について、PROGテスト(WEB)の結果の配付について	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、桑島、高山、中川、山本
17	令和3年1月28日	PROGテストの実施について、学びのコミュニティ創出支援事業の申請について、「アイシン・エイ・ダブリュ+ららぽーと愛知東郷+名城大学の三者連携事業:経済産業省スマートモビリティチャレンジ実証実験」について、「ビジネスモデル・ワークショップ」の実施について、授業におけるWebClassの活用について、ハラスメント研修の実施について、FD・SDを推進する組織の活動について	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、相川、東、五十畑、澤田(慎)、村上、新美、大西、澤田(貴)、田中、西垣、東田、堀川、堀畑、村松、桑島、高山、中川、山本

学部・研究科・センター	(経営学研究科	
推進組織名	(教育制度改革委員会)

1. 令和2年度の活動報告

- ①研究科独自の取組
 - ・後期に修士論文事前報告会を実施。
 - ・学校教育法施行規則の改正に伴う大学院3ポリシー(学位記授与方針、教育課程方針、入学者受け入れ方針)の見直しにあわせて、大学院経営学研究科修士課程・博士後期課程の3つのポリシーの見直し・改正をおこなった。
 - ・修士課程の入学定員を20名から10名に変更した。

2. 今後の課題、方向性

入学定員確保に向けて、学生確保における日本語運用力問題解決の試みを含め、海外協定校との連携強化および愛知県社会保険労務士会等との連携強化の他、学内の他研究科との連携についても協議する。また、学生の学修成果を可視化する取組として、学部における「学修成果可視化の外部調査(PROGテスト)」の結果を踏まえ、大学院における学修成果可視化の外部調査導入の検討(予算措置含む)をおこなう。

日	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和2年4月9日	令和2年度経営学研究科 修士課程 指導教員について、2020年度(9月) 修士学位論文提出要領について、大 学院の定員充足率適正化について、 令和2年度経営学研究科 博士後期 課程 指導教員について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
2	令和2年4月28日	2020(令和2)年度9月修了修士学 位論文審査日程について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
3	令和2年6月11日	2020(令和2)年度 大学院学業優 秀奨学生候補者の選考について、修 士学位論文事前報告会について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
4	令和2年6月25日	2020(令和2)年度 大学院学業優秀奨学生候補者の選考について、2020年度 後期追加(変更)履修登録について、2020年度 秋季入学生オリエンテーションについて	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
5	令和2年7月16日	大学院の定員充足率適正化に向けた 検討について、2020年度9月修了予 定者の学位論文提出及び面接審査に ついて	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
6	令和2年7月30日	2020年度 大学院奨学生(特別奨学生)対象者について、2020年度9月修了予定者の学位論文提出及び面接審査について、令和2年度(9月修了)修士学位論文審査委員及び審査日程案について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
7	令和 2 年 8 月20日	令和2年度(9月修了)修士学位論 文審査および修了判定について、大 学院の定員充足率適正化に向けた検 討について、令和2年度(秋季)経 営学研究科 新入生指導教員につい	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
8	令和2年9月3日	令和2年度(秋季)経営学研究科 新入生指導教員一覧について、2020 年度 秋季入学生オリエンテーショ ンについて、令和2年度修士学位論 文審査日程について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
9	令和2年9月19日	2020年度 修士学位論文提出要領について、2021年度 経営学研究科(修士課程)時間割表(案)について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
10	令和 2 年10月 8 日	2021年度 経営学研究科(修士課程)時間割編成について、大学院設置基準の改正に伴う名城大学大学院学則の一部改正について、学校教育法施行規則の改正に伴う大学院3ポリシーの見直しについて	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
11	令和 2 年10月22日	2021年度 経営学研究科(修士課程)時間割編成について、大学院設置基準の改正に伴う名城大学大学院学則の一部改正について、2020年度 経営学研究科 修士学位論文事前報告会(案)について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
12	令和2年11月5日	2021年度 経営学研究科(修士課程) 時間割編成について、2021年度 シ ラバスの作成について(案)	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
13	令和2年11月19日	2021年度 シラバスの作成について (案)、第3期認証評価における他大 学の是正勧告及び改善事項への対応 について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
14	令和2年12月3日	令和2年度 経営学研究科修士課程 学位論文一覧について、2021年度 経営学研究科時間割表(案)	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
15	令和2年12月17日	学校教育法施行規則の改正に伴う大学院3ポリシーの見直しについて、2021年度 中部地区単位交換制度について、2021年度 国公私単位互換制度について、2021年度 シラバスの作成について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
16	令和3年1月14日	大学院経営学研究科経営学専攻(修士課程)教員資格審査について、2021年度 大学院入学試験出題(採点)委員等について、3ポリシーの修正に伴うシラバスの修正について、2021年度 新入生オリエンテーション(案)について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
17	令和3年1月23日	2021年度 経営学研究科 (修士課程) 入学試験判定について、2020年度 修士学位論文審査委員および審査日 程案、2021年度 経営学研究科 (修 士課程) 時間割編成について、2021 年度 経営学研究科 (修士課程・博 士後期課程) 時間割表 (案)	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本

学部・研究科・センター (経済学部 FD・SD 委員会)

1. 令和2年度の活動報告

2019年度末から新型コロナ感染症の感染が拡大し、2020年度は授業開始時期を遅らせての遠隔 授業での開始となった。このような状況の中で、経済学部では、FD・SD活動に関する今年度の 活動方針・目標として、"誰一人取り残さない"という考え方で、「コロナ禍の状況に対応して、 学生に十分な教育を提供する」こととした。

教授会および各委員会と教員において、学務センター・学部事務室・学内の様々な部署と協力して、継続的に状況把握に努め、情報を共有しつつ対応を進めた。そのほか、学部・研究科で、6月25日、9月3日にFD・SD 懇談会を開催して、集中的に意見交換をおこなった。10月7日には、リアルタイムで動画を配信する具体的な方法について勉強会を開催した。遠隔授業の状況や課題については、大学実施の遠隔授業アンケートで把握し、3月には特に学部集計分について改めてFD・SD 懇談会を実施した。

全学的な今年度の活動方針である「学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善」については、学部3年生を対象として「大学生調査 ジェイ・サープ」を実施した。集計結果をふまえて2月にFD・SD 懇談会を実施した。今年度は、本学部の集計結果の経年変化についても検討した。

大学教育開発センターの主催で開催された第9~11回 FD 学習会、第22回 FD フォーラムに、それぞれ5名から8名の教員が参加した。第11回 FD 学習会では、勝浦教授が「数理・データサイエンス・AI 教育の必要性と実践」をテーマとして講師を務めた。

なお、積極的にSD活動にも取り組んでいくことをより明確にするため、経済学部FD委員会から経済学部FD・SD委員会に名称を変更した。

2. 今後の課題、方向性

今年度に引き続き、次年度も、コロナ禍という状況の中で学生に必要な教育を提供することをFD・SD活動においても最優先として対応していく。具体的には、主に学部でのFD・SD 懇談会を継続的に開催して情報の収集や意見交換、対応の協議をしていく。一部授業については、次年度も遠隔授業での実施可能性もある。そのため、授業実施レベルでは、今年度の経験をもとに、効果的な遠隔授業の授業実施方法についての共有をはかる。

学生の学修成果の可視化については、引き続き「大学生調査 ジェイ・サープ」を実施する。 大学で実施する学生アンケートや卒業時アンケートの結果とも合わせて、特に課題を把握することで教育改善につなげていく。

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和2年6月25日	経済学部 FD・SD 懇談会「テーマ: コロナ禍における授業方法・成績評 価方法の工夫、学生の状況」	FD·SD	李、伊藤(健)、伊藤(志)、井内、 太田、大瀧、折原、勝浦、川森、 岸川、岸野、斎藤、澤田、渋井、 神野、杉本、谷村、名和、西山(賢)、 西山(徹)、野口、松尾、蓑輪、 焼田、山本(25名)
2	令和2年8月7日	第9回FD学習会「遠隔授業における WebClass の活用」(大学教育開発 センター)	FD	伊藤(健)、太田、小泉、佐土井、 野口(5名)
3	令和2年9月3日	経済学部・経済学研究科 FD・SD 懇 談会「テーマ: 感染不安学生への対 応、成績評価方法、前期の遠隔授業 の振り返り」	FD·SD	李、伊藤(健)、伊藤(志)、井内、 太田、大瀧、折原、勝浦、川森、 岸野、岸川、小泉、渋井、神野、 杉本、谷村、名和、西山(徹)、 蓑輪、松尾、焼田、山本(22名)
4	令和2年9月9日	第10回 FD 学習会「WebClass と Google サービスを用いた遠隔授業」(大学教 育開発センター)	FD	伊藤(健)、太田、斎藤、焼田、山本(5名)
5	令和2年10月7日	リアルタイム動画配信の勉強会	FD	講演者:杉本 出席者:勝浦、渋井、西山(徹)、 焼田(5名)
6	令和 2 年10月28日	第11回 FD 学習会「数理・データサイエンス・AI 教育の必要性と実践」 (大学教育開発センター)	FD·SD	講演者:勝浦 出席者:伊藤(健)、小泉、谷村、 斎藤、野口、焼田、山本(8名)
7	令和2年11月7日	第22回 FD フォーラム「コロナ禍に おける教育の質保証」(大学教育開発 センター)	FD·SD	伊藤(健)、太田、勝浦、川森、 岸野、佐土井、谷村、山本(8名)
8	令和 2 年12月17日	経済学部・経済学研究科SD懇談会 「テーマ:ハラスメント防止について」	SD	新井、李、伊藤(健)、伊藤(志)、 井内、太田、大瀧、折原、勝浦、川 森、岸川、岸野、小泉、斎藤、佐土 井、渋井、杉本、神野、谷村、名和、 西山(賢)、西山(徹)、野口、松尾、 蓑輪、焼田、山田、山本(28名)
9	令和3年1月14日	経済学部・経済学研究科 SD 懇談会「テーマ:ハラスメント防止についての DVD 上映について」	SD	新井、李、伊藤(健)、伊藤(志)、 井内、太田、大瀧、折原、勝浦、 川森、岸川、岸野、小泉、斎藤、 佐土井、渋井、杉本、神野、谷村、 名和、西山(賢)、西山(徹)、松尾、 蓑輪、焼田、山田、山本(27名)
10	令和3年2月15日	経済学部 FD・SD 懇談会「テーマ: 大学生調査(ジェイ・サープ)集計 結果から学部教育を考える」	FD·SD	新井、李、伊藤(健)、伊藤(志)、 井内、太田、大瀧、折原、勝浦、 川森、岸野、斎藤、佐土井、渋井、 杉本、谷村、名和、西山(賢)、 西山(徹)、松尾、蓑輪、焼田、 山本(23名)

口	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
11	令和3年3月1日	経済学部・経済学研究科FD・SD 懇談会「テーマ:遠隔授業アンケート(学生・教員)から学部・大学院教育を考える」	FD·SD	新井、李、伊藤(健)、井内、太田、 大瀧、折原、勝浦、川森、岸川、 岸野、小泉、斎藤、佐土井、渋井、 杉本、谷村、名和、西山(賢)、 西山(徹)、野口、松尾、蓑輪、 焼田、山本(25名)

学部・研究科・センター (経済学研究科) 推進組織名 (経済学研究科 FD・SD 委員会)

1. 令和2年度の活動報告

2019年度末から新型コロナ感染症の感染が拡大し、2020年度は授業開始時期を遅らせての遠隔 授業での開始となった。このような状況の中で、大学院経済学研究科では、FD・SD 活動に関す る今年度の活動方針・目標として、"誰一人取り残さない"という考え方で、「コロナ禍の状況に 対応して、大学院生に十分な教育を提供する」こととした。

研究科委員会では、学務センター・学部事務室・学内の様々な部署と協力して、継続的に状況 把握に努め、情報を共有しつつ対応を進めた。そのほか、5月14日、9月3日にFD・SD 懇談 会を開催して、集中的に意見交換をおこなった。10月7日には、リアルタイムで動画を配信する 具体的な方法について勉強会を開催した。

大学教育開発センターの主催で開催された第9~11回 FD 学習会、第22回 FD フォーラムに、それぞれ4名から7名の教員が参加した。第11回 FD 学習会では、勝浦教授が「数理・データサイエンス・AI 教育の必要性と実践」をテーマとして講師を務めた。

なお、積極的にSD活動にも取り組んでいくことをより明確にするため、経済学研究科FD委員会から経済学研究科FD·SD委員会に名称を変更した。

2. 今後の課題、方向性

今年度に引き続き、次年度も、コロナ禍という状況の中で、大学院生に必要な教育を提供することを FD・SD 活動においても最優先として対応していく。本研究科は大学院生の人数が多くないため、アンケート形式での集約は難しい。そのため、講義科目・演習科目の担当教員が日常的に連携することが、より重要と考えている。また、研究科での FD・SD 懇談会を継続的に開催して情報の収集や意見交換、対応の協議をしていく。

口	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和2年5月14日	経済学研究科 FD 懇談会「テーマ:コロナ禍における大学院生の研究モチベーションの維持」	FD·SD	李、伊藤(健)、伊藤(志)、井内、 太田、大瀧、折原、勝浦、川森、 岸川、斎藤、渋井、杉本、谷村、 名和、西山(賢)、野口、蓑輪、 松尾、山田、焼田、山本(22名)
2	令和2年8月7日	第9回FD学習会「遠隔授業における WebClass の活用」(大学教育開発センター)	FD	伊藤(健)、太田、佐土井、野口(4名)

回	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
3	令和2年9月3日	経済学部・経済学研究科 FD・SD 懇談会「テーマ:感染不安学生への対応、成績評価方法、前期の遠隔授業の振り返り」	FD·SD	李、伊藤(健)、伊藤(志)、井内、太田、大瀧、折原、勝浦、川森、岸川、渋井、杉本、谷村、名和、西山(徹)、蓑輪、松尾、焼田、山本(19名)
4	令和2年9月9日	第10回 FD 学習会「WebClass と Google サービスを用いた遠隔授業」 (大学教育開発センター)	FD	伊藤(健)、太田、斎藤、焼田、山本(5名)
5	令和 2 年10月 7 日	リアルタイム動画配信の勉強会	FD	講演者:杉本 出席者:勝浦、渋井、西山(徹)、 焼田(5名)
6	令和 2 年10月28日	第11回 FD 学習会「数理・データサイエンス・AI 教育の必要性と実践」 (大学教育開発センター)	FD·SD	講演者: 勝浦 出席者: 伊藤(健)、谷村、斎藤、 野口、焼田、山本(7名)
7	令和2年11月7日	第22回 FD フォーラム「コロナ禍に おける教育の質保証」(大学教育開発 センター)	FD·SD	伊藤(健)、太田、勝浦、川森、佐土井、谷村、山本(7名)
8	令和2年11月12日	経済学研究科 FD・SD 懇談会「テーマ:大学院3ポリシーの見直し」	FD·SD	新井、李、伊藤(健)、伊藤(志)、 井内、太田、大瀧、折原、勝浦、川森、 岸川、斎藤、佐土井、渋井、杉本、 谷村、名和、西山(賢)、西山(徹)、 松尾、蓑輪、焼田、山田、山本(24名)
9	令和 2 年12月17日	経済学部・経済学研究科 SD 懇談会 「テーマ: ハラスメント防止につい て」	SD	新井、李、伊藤(健)、伊藤(志)、 井内、太田、大瀧、折原、勝浦、 川森、岸川、斎藤、佐土井、渋井、 杉本、谷村、名和、西山(賢)、 西山(徹)、野口、松尾、蓑輪、 焼田、山田、山本(25名)
10	令和3年1月14日	経済学部・経済学研究科 SD 懇談会 「テーマ:ハラスメント防止について の DVD 上映について」	SD	新井、李、伊藤(健)、伊藤(志)、 井内、太田、大瀧、折原、勝浦、 川森、岸川、斎藤、佐土井、渋井、 杉本、谷村、名和、西山(賢)、 西山(徹)、松尾、蓑輪、焼田、 山田、山本(24名)
11	令和3年3月1日	経済学部・経済学研究科 FD・SD 懇談会「テーマ: 遠隔授業アンケート (学生・教員) から学部・大学院教育を考える」	FD·SD	新井、李、伊藤(健)、井内、太田、 大瀧、折原、勝浦、川森、岸川、 斎藤、佐土井、渋井、杉本、谷村、 名和、西山(賢)、西山(徹)、野口、 松尾、蓑輪、焼田、山本(23名)

学部・研究科・センター (理工学部) 推進組織名 (教育改善委員会)

1. 令和2年度の活動報告

例年通り、学部教育に必要な学生の基礎学力向上と教育改善を推進し、学生が満足できる教育体制の構築を目的とした。具体的な取り組みとして、基礎演習科目の履修促進、数学相談室・物理相談室の開設などを行い、目標とする基礎学力向上、教育改善への取り組みを引き続き進める。さらに、教員の学生指導能力向上に関わる教育フォーラム(FD フォーラム)への参加を促した。また、各学科のFD・SD 会議の活動を強化し、推進組織である本教育改善委員会で各学科のFD・SD 会議議事録を集約した。今後、各学科 FD・SD 会議の活動内容を検討し、連携を図る。

「学生の学修成果を可視化する取組」としては、JSAAP、PROGテスト、GPS-Academic を用いた外部機関による調査を行っている。ただし、理工学部には11の学科があり、統一的な外部調査を実施するのではなく、先にあげた3つの外部調査機関が実施する調査方法の有効性判断を含め、各学科が独自に外部調査方法を選択し、実施している。選択した外部調査方法はJSAAP(数学科、材料機能工学科、機械工学科:以上3年次実施)、PROGテスト(電気電子工学科、応用化学科、交通機械工学科、メカトロニクス工学科、社会基盤デザイン工学科、環境創造工学科、建築学科)、GPS-Academic(情報工学科)である。今年度はCOVID-19感染拡大防止策により前期講義がすべて遠隔講義実施となったため、予定していた調査の一部を取りやめた学科もあった。しかし、後期に順延するなどの措置を取り、すべての学科で最低1学年を対象として実施する予定である。将来的には理工学部全体として同一の学修成果調査方法を選定し、学科間で連携が取れるように各学科のFD・SD会議の母体となる教育改善委員会で検討を進めていきたい。

理工学部では基礎学力に自信がない新入学生向けに数学・物理学・化学・英語の基礎演習科目を置くとともに、数学・英語に関してはさらに発展的な内容を勉強できるよう基礎演習(アドバンストコース)科目も開講している。入学時に、数学習熟度診断テストを実施し、診断テストの点数により学生が自ら習熟度の判断を行い、これらの科目の活用を促すように指導した。

例年,数学相談室,物理相談室の運営状況は本委員会で報告され,今後の検討課題としている. しかし,今年度の前期は遠隔講義による授業実施が主体となったため,満足な運営ができなかった.後期は,対面と遠隔を取り交ぜた授業が実施されており,各相談室の運営が円滑にできるように今後,教育改善委員会で検討する必要がある.例年,このような相談室は定期試験前に利用率が上がる傾向がある.しかし,普段の学習でわからないところを日常的に質問に訪れ,相談をすることが望ましい.そのためには相談室のPR活動も重要であろう.

前期講義は遠隔により実施し、受講学生の学修成果が対面と同様に、もしくはそれ以上に、上がっているかどうかを検証していく必要がある。特に1年生は入学時に実施するフレッシュマンセミナー等による初動教育を実施することができず、高校での受講姿勢から、大学での受講姿勢への転換に支障をきたしている可能性がある。さらに単位認定においてもレポート、小テスト等

による自発的な学力チェックに頼らざるを得なかったため、学修成果が十分得られているかどうかを判断するためには、通常の試験との比較検討が必要であろう。そのような意味でもCOVID-19感染拡大防止策を徹底させた後期対面授業(一部)の実施は、意義があるものであろう。さらに実習科目等においての遠隔講義に関しては、各学科がそれぞれその有効性を十分検討したうえで、実習が過密状態にならないように、一部遠隔、一部実習等の割り振りを行い十分な学修効果があげられるような体制を急遽立ち上げ、実施した。このように2020年度(令和2年度)の理工学部のFD・SD活動は、各学科において個々に独自性・主体性を前面に出すように推進した。

今年度の大学教育開発センター主催の FD フォーラム, FD 学習会は昨今の状況を取り入れ「遠隔講義にかかわる議題」「コロナ禍における教育の質保証にかかわる議題」「AI 関係にかかわる議題」等をリモート会議にて意見交換する場が多く設けられ、理工教員への積極的な参加を呼び掛けた.しかし、教授会等の会議もメール審議等で行うことが多く、情報周知が十分であったかどうかは疑問であり、理工教員の参加は少ないように感じた.

推薦合格者入学前オリエンテーションにおける MEC プログラムの紹介について、今年度は COVID-19感染対策を万全にして実施するためビデオを作成し、実施した、さらに、後期定期試験が通常のように実施されることにあわせ、COVID-19感染対策を行いながら数学相談室を実施し、学部1年生の数学力確保に努めた.

2. 今後の課題、方向性

学修成果の追跡調査は、教育を改善していく上で重要な情報を与える。そのためには、複数年次にわたり個々の学生の調査を実施することが必要となる。現在、各学科が独自に外部調査を実施し、その有効性を判断している段階である。このような中で、FD・SD に取り組む教育改善委員会としては、学部全体としての方向性を示し、統一した学修成果可視化の調査が必要かどうかを検討する必要があり、今後の課題としたい。

現在,各学科のFD·SD会議は順調に機能しており,個々の課題解決に向けた検討がなされている.多様な学科から成る理工学部では,このような個別会議は重要な役割を果たす.そして,それらを取りまとめる教育改善委員会では,共通の課題を設定して理工学教育の改善に反映していきたい.

中間報告で課題とした理工学部全体で「統一した学修成果可視化の調査」に関する検討に関しては、ほとんどその検討が進んでおらず、各学科独自で学修成果可視化の調査方法の選定に至ってしまった。しかし、各学科独自のFD・SD活動は活発に実施されており、教育改善委員会として各学科で実施している活動内容を精査する場を設け、理工学部共通の活動課題の設定を急ぎたい。また、2020年度は理工学部主催の学部・大学院FDフォーラムが実施できなかった。一つの要因として、個々の学科の活動領域が多義にわたり、共通課題が不明瞭になっていることが考えられる。このような問題を解決し、理工学部・理工学研究科構成員が興味を持って参加できるFDフォーラム開催に向けて準備を進めていきたい。

日	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
1	令和2年7月3日	教育改善委員会名簿の確認について、 大学教育開発センター委員会報告に ついて、遠隔授業に関するアンケー ト実施について、学修成果の可視化 に係る外部調査について、WebClass での授業改善アンケート回答周知に ついて	FD·SD	原田,山中,來海,内村,字佐見,增山,岩谷,坂東,古川,前川,大原,溝口,三宅,吉永,中村,大久保(教員計16名)鈴木,北(職員計2名)
2	令和2年10月22日	令和3年度学修行動調査について、 附属高校特別推薦入学者への入学前 指導について、令和2年度後期数学 相談室について、令和2年度FD・ SD活動報告書(中間)について	FD·SD	原田,山中,内村,字佐見,增山,岩谷,坂東,古川,前川,大原,溝口,吉永,中村,大久保(教員計14名)藤井,鈴木(職員計2名)
3	令和2年1月30日	2021年度数学習熟度診断テストの実施について	FD	児玉,山中,來海,内村,宇佐見, 増山,岩谷,坂東,古川,前川, 大原,溝口,三宅,吉永,中村, 大久保(教員計16名)藤井,鈴木 (職員計2名)
		各学科 FD・SD 会記		
数学	科 FD・SD 会議			
1	令和2年7月23日	学修成果の可視化に係る外部調査について、前期数学相談室について、 WebClassでの授業改善アンケート について	FD·SD	植松,内村,大西,小澤,鍛治,加藤,許斐,鈴木,土田,富田,長郷,橋本,日比野,前野,三町,村瀬(計16名)
2	令和2年9月10日	授業科目間の成績評価基準の平準化について、第11回FD学習会について、令和2年度前期授業改善アンケートについて、「遠隔授業に関するアンケート(学生向け)」の集計結果(速報値)について	FD	植松, 内村, 江尻, 大西, 小澤, 鍛治, 加藤, 許斐, 鈴木, 土田, 冨田, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計15名)
3	令和2年10月15日	令和3年度学修行動調査について, 令和2年度学修行動調査の実施について,第11回 FD 学習会について, 第22回 FD フォーラムについて	FD·SD	内村, 江尻, 大西, 小澤, 鍜治, 加藤, 許斐, 鈴木, 土田, 冨田, 日比野, 橋本, 前野, 村瀬(計14名)
4	令和 2 年11月26日	令和3年度学修行動調査について、 附属高校特別推薦入学者への入学前 指導について、令和2年度後期数学 相談室について	FD·SD	植松,内村,江尻,大西,小澤, 鍜治,許斐,鈴木,土田,富田, 長郷,橋本,日比野,前野,三町, 村瀬(計16名)
5	令和 2 年12月24日	令和2年度後期数学相談室の開設日 程について	FD	植松, 内村, 江尻, 大西, 小澤, 鍜治, 加藤, 許斐, 鈴木, 土田, 冨田, 長郷, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬(計17名)
6	令和3年1月14日	令和2年度後期数学相談室の実施報 告	FD	植松,内村,大西,小澤,鍜治,加藤,許斐,鈴木,土田,富田, 長郷,橋本,日比野,前野,三町, 村瀬(計16名)

且	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
情報	_ 工学科 FD・SD 会請	上		
1	令和 2 年 9 月10日	科目間・教員間の成績評価基準の平 準化について、学修行動調査 (GPS- Academic) の結果について	FD·SD	田中, 旭, 字佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 水沼, 向井, 柳田, 山田 (啓), 山田 (宗), 山本, 吉川, 米澤 (計 18名)
2	令和 2 年12月 3 日	クラウドサービス等利用時に考えら れる社会的責任について	SD	田中, 旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田 (啓), 山田 (宗), 山本, 吉川, 米澤 (計19名)
電気	電子工学科 FD・SD	会議		
1	令和2年7月9日	遠隔授業に関するアンケート実施に ついて	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山﨑, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計19名)
2	令和2年7月23日	学修成果の可視化に係る外部調査について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山﨑, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計19名)
3	令和2年9月10日	第9回FD学習会参加報告, GPA を 用いた成績評価に関して	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山﨑, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計19名)
4	令和2年9月24日	第10回 FD 学習会参加報告	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山﨑, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計19名)
5	令和 2 年10月15日	三者面談実施報告,令和3年度学修 行動調査について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山﨑, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計19名)
6	令和2年11月12日	附属高校特別推薦入学者への入学前 指導について、ダッシュボードの活 用について	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山﨑, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計19名)
7	令和3年1月14日	三者面談について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山﨑, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計19名)
材料	機能工学科 FD・SD	会議		
1	令和2年5月28日	教育改善WGについて、授業再開に ついて、進路支援、入試関係	FD·SD	六田,成塚,宇佐美,上山,竹内,田中,岩谷,今井,服部,宮嶋,榎本(計11名)
	I	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>

口	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
2	令和2年8月18日	前期の講義のふりかえり,教育改善 に向けて,後期の講義の実施方法に 関する内容,地区懇談会や就職,入 試関係	FD·SD	六田,成塚,字佐美,上山,竹内,田中,岩谷,今井,服部,宮嶋, 榎本(計11名)
3	令和2年8月26日	教員間もしくは授業科目間の成績評 価基準に関して	FD·SD	六田, 成塚, 宇佐美, 上山, 竹内, 田中, 岩谷, 今井, 服部, 宮嶋, 榎本 (計11名)
4	令和 2 年11月29日	学部評価委員会(学生職員,外部評価委員会,JABEE申請に関して),同窓会,教務(シラバス,試験時間割,学生面談,応用化学との共同開講科目など),大学院ポリシー,入試関係,M1中間発表	FD·SD	六田,上山,成塚,竹内,岩谷,宫嶋,宇佐美,服部,今井,榎本,田中(計11名)
5	令和 2 年12月24日	入試に関して、大学院入試、就職、 学位授与式、卒業パーティー、教務 関係(定期試験、追試)、M1の中間 発表、卒業研究配属のエントリー、 MS-26の申請に関して、大学院入試	FD·SD	六田,服部,竹内,榎本,字佐美,宫嶋,成塚,今井,田中,岩谷,上山(計11名)
応用	化学科 FD・SD 会議	É		
1	令和2年4月9日	応用化学実験の安全対策について	FD·SD	永田, 坂, 坂東, 丸山, 池邉, 田中, 小澤, 才田, 大脇(計9名)
2	令和2年5月28日	大学院生、卒研生の研究活動にかか わる本学構内への入構申請方法・指 導について、先端化学 open lab の実 施(感染予防) について	FD·SD	永田, 丸山, 大脇, 才田, 坂, 池邉, 田中, 小澤, 坂東(計9名)
3	令和2年7月4日	遠隔授業単位認定指針について,不 正レポートについての学科対応	FD·SD	永田, 丸山, 才田, 坂東, 田中, 小澤, 池邉, 坂, 大脇(計9名)
4	令和2年7月5日	成績不振者面談について,非常勤講師依頼,卒業研究のスケジュールに ついて	FD·SD	永田, 丸山, 才田, 坂東, 田中, 小澤, 池邉, 坂, 大脇(計9名)
5	令和2年9月10日	後期の遠隔授業について、GP を用いた教員間・科目間での成績評価基準の平準化について	FD·SD	永田, 才田, 坂東, 田中, 池邉, 坂, 丸山, 大脇, 小澤(計9名)
6	令和2年10月15日	問題を抱える学生に対する情報共有 (FD・SD), 来年度 PROG テスト実 施について (FD)	FD·SD	永田, 才田, 坂東, 田中正, 池邉, 坂, 丸山, 大脇, 小澤(計9名)
7	令和 2 年11月26日	学籍移動 (SD), 来年度のシラバス について (FD·SD)	FD·SD	永田, 坂, 坂東, 丸山, 池邉, 田中, 小澤, 才田, 大脇(計9名)
8	令和 2 年12月 3 日	外部評価委員からの報告 (FD・SD), 数理・データサイエンス教育検討 (SD), 試験時における卓上計算機の性能について (SD), コロナ感染不安者に対する対応 (SD)	FD·SD	永田, 坂, 坂東, 丸山, 池邉, 田中, 小澤, 才田, 大脇(計9名)

日	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
9	令和 2 年12月24日	学位授与式の実施方法 (SD), MS-26 申請 (SD), フレッシュマンセミナー の実施方法 (SD・FD)	FD·SD	永田, 坂, 坂東, 丸山, 池邉, 田中, 小澤, 才田, 大脇(計9名)
機械	工学科 FD・SD 会議	台 艾		
1	令和2年9月10日	FD 学習会受講報告, FD 学習会を踏まえた今後の遠隔講義の在り方について, コロナ禍における講義の在り方につけて, 教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化について	FD	久保,池本,大島,川村,來海,清水,塚田,中西,成田,古川, 松田,横田,吉川(計13名)
2	令和 2 年11月26日	FD 学習会受講報告, FD 学習会を踏まえた今後の講義の在り方について	FD	久保, アブラハ, 池本, 大島, 川村, 來海, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川(計14名)
交通	機械工学科 FD・SD) 会議		
1	令和2年4月9日	講義内容の変更案について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎(計14名)
2	令和2年4月14日	遠隔授業を含めた講義内容の変更案 について	FD·SD	加鳥,鈴木,中島,西村,大藏,菅,横谷,菅野,村尾,早藤,山崎,宫田(計12名)
3	令和2年6月11日	遠隔授業を含めた講義内容の変更案 について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 大藏, 菅, 菅野, 村尾, 早藤, 山崎, 宮田 (計13名)
4	令和 2 年 6 月25日	遠隔授業を含めた講義における成績 評価について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎(計14名)
5	令和2年7月9日	授業改善アンケート調査内容につい て、学修成果可視化に関わる外部調 査方法について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎(計14名)
6	令和2年7月23日	遠隔授業を含めた講義における成績 評価について,履修系統図について, 学修成果可視化に関わる外部調査方 法について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎(計14名)
7	令和2年9月10日	授業科目間の成績評価基準の平準化 を目的とした GPA の現状把握につ いて	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎 (計14名)
8	令和2年9月24日	後期遠隔授業に伴うシラバス変更に ついて、来年度時間割について	FD·SD	加鳥,前川,鈴木,中島,西村, 横谷,大藏,菅,菅野,村尾,早藤, 山崎,宮田(計13名)
9	令和 2 年10月15日	次年度以降のPROGテスト実施について、外部評価委員の点検・評価結果に対する回答作成に関わる教員間ネットワークの実施について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 横谷, 大藏, 菅, 菅野, 村尾, 早藤, 山崎, 宮田(計14名)

□	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
10	令和2年12月3日	現カリキュラムでの自動車工学 I, 航空宇宙工学 I, 鉄道車両工学 Iが 選択科目であることの是非について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 横谷, 大藏, 菅, 菅野, 村尾, 早藤, 山崎, 宮田(計14名)
11	令和 2 年12月24日	次年度前期の初回3回講義の遠隔実 施に関わる科目選定について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 横谷, 大藏, 菅, 菅野, 村尾, 早藤, 山崎, 宮田(計14名)
12	令和3年1月14日	FD フォーラムの内容紹介および実施内容に対する意見について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 横谷, 大藏, 菅, 菅野, 村尾, 早藤, 山崎, 宮田(計14名)
メカ	トロニクス工学科 F	D·SD 会議		
1	令和2年7月9日	授業改善アンケートについて, 遠隔 授業に関するアンケートについて, 学修成果の可視化に関わる外部調査 について	FD·SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
2	令和 2 年 7 月22日	授業改善アンケートについて,遠隔 授業に関するアンケートについて, 学修成果の可視化に関わる外部調査 について	FD·SD	楊, 井上, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原(計9名)
3	令和2年9月10日	授業改善アンケートへの回答について, 教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化について	FD·SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
4	令和2年9月24日	授業改善アンケートへの回答について、PROGテストの実施について	FD·SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
5	令和 2 年10月15日	PROG テストの実施について	FD·SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
6	令和 2 年11月26日	附属高校特別推薦入学者への入学前 指導における学生対応について	FD·SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
7	令和 2 年12月 3 日	附属高校特別推薦入学者への入学前 指導について、カリキュラム検討会 議の開催について	FD·SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
8	令和 2 年12月24日	カリキュラム検討会議について	FD·SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
社会	基盤デザイン工学科	· FD·SD 会議		
1	令和2年4月23日	遠隔授業の方法に関する確認, 意見 交換	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
2	令和2年5月7日	遠隔授業の方法に関する意見交換	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)

			FD · SD	
口	日程	議題	区分	出席者氏名
3	令和 2 年 5 月28日	「今年度社会基盤デザインセミナー Ⅱ」の実施方法の検討	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
4	令和 2 年 6 月25日	第1回教育改善委員会報告	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
5	令和2年7月23日	教育担当者懇談会の開催方針について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
6	令和2年9月10日	各科目の GPA 状況の確認と意見収 集	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計12名)
7	令和 2 年10月15日	遠隔授業の方法に関する確認, 意見 交換	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
8	令和 2 年11月26日	科研費申請率向上に係る意見交換	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計12名)
9	令和 2 年12月 3 日	学生指導に関する意見交換	FD·SD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計12名)
環境	創造工学科 FD・SD	会議		
1	令和2年9月10日	前期授業改善アンケートについて、 PROGテストの実施について、GPA の成績評価について	FD	垣鍔, 道正, 西山, 三宅, 小塩, 日比, 広瀬, 武藤, 片桐(計9名)
2	令和 2 年11月26日	PROG テスト実施の報告 FD 講習参加の呼びかけ	FD	垣鍔, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 日比, 広瀬, 武藤 (計8名)
3	令和 2 年12月24日	後期授業改善アンケートについて	FD	垣鍔, 道正, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 日比, 広瀬, 武藤(計9名)
4	令和3年1月28日	PROG テスト返却について	FD	垣鍔, 西山, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 日比, 広瀬, 武藤 (計9名)
建築	学科 FD・SD 会議			
1	令和2年4月9日	学修成果の把握に向けた外部調査の 実施について	FD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,寺西, 武藤,岡田,石井,大塚,生田, 吉永,平岩,谷田,三浦,松田, 米澤,佐藤,高橋(計18名)
2	令和2年4月23日	一級建築士エクステンション講座に ついて	FD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,寺西, 武藤,岡田,石井,大塚,生田, 吉永,平岩,谷田,三浦,松田, 米澤,佐藤,高橋(計18名)
3	令和2年7月2日	1年生を対象とする企画について	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,寺西, 武藤,岡田,石井,大塚,生田, 吉永,平岩,谷田,三浦,松田, 米澤,佐藤,高橋(計18名)

田	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
4	令和2年7月30日	1年生パワーアップ作戦について	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,寺西,武藤,岡田,石井,大塚,生田,吉永,平岩,谷田,三浦,松田,米澤,佐藤,高橋(計18名)
5	令和2年9月10日	MEC プログラムの学科別輪番体制について、教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化について、「学修成果の可視化のための外部調査」の2020年度実施計画について	FD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,寺西, 武藤,岡田,石井,大塚,生田, 吉永,平岩,谷田,三浦,松田, 米澤,佐藤,高橋(計18名)
6	令和2年10月15日	PROG テストの実施について	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,寺西, 武藤,岡田,石井,大塚,生田, 吉永,平岩,谷田,三浦,松田, 米澤,佐藤,高橋(計18名)
7	令和2年11月12日	卒業設計追い込み期における制作室 の扱いに関して	FD·SD	高井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 寺西, 武藤, 岡田, 石井, 大塚, 生田, 吉永, 平岩, 谷田, 三浦, 松田, 米澤, 佐藤, 高橋(計18名)
8	令和 2 年12月24日	イヤーブックについて	FD·SD	高井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 寺西, 武藤, 岡田, 石井, 大塚, 生田, 吉永, 平岩, 谷田, 三浦, 松田, 米澤, 佐藤, 高橋(計18名)
9	令和3年1月14日	PROG テストの結果について	FD·SD	高井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 寺西, 武藤, 岡田, 石井, 大塚, 生田, 吉永, 平岩, 谷田, 三浦, 松田, 米澤, 佐藤, 高橋(計18名)
教養	教育 FD·SD 会議			
1	令和2年6月25日	前期授業改善アンケートについて	FD	松村,加藤,中山,大久保,田中,景山,神藤,本田,鈴木,内田,中村,榎本,長澤,大知,齊藤,森口,土屋(計17名)
2	令和2年7月23日	前期授業改善アンケートについて, 第9回FD学習会の開催について, 教員業績評価について	FD·SD	松村,加藤,齊藤,森口,田中,鈴木,内田,中山,榎本,大知,中村,大久保,神藤,本田,土屋,長澤,景山(計17名)
3	令和2年9月10日	GPA を用いた成績評価平準化の検討について、遠隔授業の実施に関するアンケートについて、MEC プログラム教材の内容チェックの依頼、JABEE の資料提出について	FD·SD	松村,加藤,景山,大久保,鈴木,齊藤,大知,森口,本田,長澤,神藤,中山,中村,土屋,榎本,宮北,内田(計17名)
4	令和2年9月24日	パワハラ・アカハラ防止に向けた研 修の実施について	SD	松村,加藤,大久保,齊藤,森口,中村,中山,本田,土屋,長澤,榎本,景山,田中,鈴木,神藤(計15名)
5	令和 2 年10月15日	遠隔授業の実施に関するアンケートについて、第11回FD学習会の開催について、第22回FDフォーラムの開催について	FD·SD	松村,加藤,長澤,中山,中村,田中,景山,鈴木,齊藤,内田,神藤,大久保,大知,森口,本田(計15名)

口	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
6	令和 2 年10月22日	第11回 FD 学習会の開催について	SD	松村, 加藤, 齊藤, 景山, 内田, 鈴木, 中山, 森口, 本田, 神藤, 榎本, 大知, 長澤, 田中, 中村, 土屋, 大久保(計17名)
7	令和 2 年11月26日	後期授業改善アンケートの実施について,前期授業改善アンケート結果 の確認について	FD	松村,加藤,田中,神藤,鈴木, 内田,榎本,中村,長澤,土屋, 大久保,齊藤,森口,宮北,本田, 大知(計16名)
8	令和 2 年12月24日	後期授業改善アンケートの協力依頼 について	FD	松村,加藤,齊藤,大知,森口,神藤,本田,大久保,中山,景山,中村,宮北,榎本,長澤,内田,鈴木(計16名)
9	令和3年1月14日	後期授業改善アンケートの回答率について、第12回 FD 学習会の開催について	FD	松村,加藤,大知,森口,神藤, 本田,大久保,中山,景山,中村, 榎本,長澤,内田,齊藤(計14名)

学部・研究科・センター (理工学研究科) 推進組織名 (教育改善委員会 (大学院教育WG))

1. 令和2年度の活動報告

高等教育の改革に伴い、大学院博士(後期)課程において授業科目の単位制が求められ、本研究科においても改組検討委員会で審議し、本年度から単位制を導入した。これによりリサーチワークだけでなくコースワークとして特殊講義科目を設定し、博士(前期)課程・特論科目との連携体制を敷いた。このような連携により修士(博士前期)課程と博士(後期)課程が密接に関わり合い、学生の多様な要望に応える基盤となりうる。また、各専攻科の大学院 FD・SD 活動については、各学科の FD・SD 会議において、合同で大学院 FD・SD に関する議題の報告および審議を行っている。

本年度はCOVID-19感染拡大防止のため、学生に対して例年通りの教育、研究指導を実施することができない。このような状況に対処するため、各専攻科FD·SD会議を中心として、修士課程の特論講義の実施方法、COVID-19感染拡大を予防する実験活動推進方法を検討し、実施してきた。理工学研究科においては、研究室へ入室できる最大人数を制限した時分割や日分割方式を実施し、研究活動の遅滞を防ぐ方策を取った。

大学院生は国内外での積極的な学会発表により、大きな成長を遂げることが多い. しかし、本年度は COVID-19感染拡大防止により各種学会が中止されたり、リモート開催されたりと学生の士気が落ち込みがちであった. このような事態を踏まえ、リモート開催される学会での発表方法や質疑応答などの指導について各専攻 FD・SD 会議を中心として検討を行っている.

理工学分野における英語教育の重要性は、学際的情報を全世界に発信するという観点から必要不可欠である。大学院への入学条件としても TOEIC 受験を課し、理工学部 3 年在籍時に全学生が受験している。幅広くコミュニケーションを行う能力を追求する TOEIC は、学際的情報発信という観点に立ち学生たちに大学院進学を意識させ、大学院の英語教育へと円滑に導く一翼を担うものである。このことに加え、各専攻で独自に開設する科学技術英語は、専門性を高めるとともに国際的に活動できる知識・能力をもつ若手研究者・技術者養成の礎となる。このように学部から大学院教育へと円滑に導く体制の整備活動を継続して実施している。

後期では大学院の特論科目においても対面授業となり、学生の士気を確認しながら講義を実施することが可能となった.資料提供が主となった前期に比べ、学修効率は上がったようである.しかし、大学院においては、本来学修意識が高い学生が多く、Real-time online 講義を円滑に行うことができる環境が整っていれば、リモートでも対面でも学修効果に大きな差は生じないとも考えられる.ただし、実験室における活動では活動時間帯などの制約を強いられることが多く、例年通りという訳にはいかなかった.

国際会議等の学会活動はほとんどがリモート開催となり、学外の研究者等との議論が進んだとは言い難い状況であった。リモート開催される学会への対応として、各専攻科では指導教員が中

心となり、発表方法や質疑応答方法などの指導に力を注ぎ、円滑に発表を行うことができたが、深い議論まで発展したかどうかという点について検討する必要がある.これに関連して、最近の学生は自ら進んで他者と議論をし、研究計画を立てるということが少なくなっているように感じる.

また、院生の教育力向上を目指し、学部学生(特に1年生)に対する数学相談室開設にあたり 講師を大学院生にお願いした。

2. 今後の課題、方向性

大学院 FD・SD の中心組織は、大学院理工学研究科教育改善委員会であり、各専攻科 FD・SD 会議(各学科 FD・SD 会議と合同)と連絡を密にしながら理工学専攻科としての大学院 FD・SD 活動を推進する。昨年度の「集中講義」については、専攻横断的な研究プロジェクトとして始め、教員間の研究プロジェクトを基盤として発足させ、学生に対する啓蒙を行い学生が自主的に参加して行くという方向性を出したが、昨今の COVID-19感染拡大防止の方策に追われ、具体的な実施方法の議論がなされていない状況である。今後、議論を進め、学生の自主的な研究活動をバックアップするための体制作りを優先させなければならない。このため単位制度のみに注目するのではなく、大学院生が早い段階で研究方針を立て、自ら実践して結果を得ることができる能力を身につけさせることが重要であり、教育偏重にならないように検討し、方向性を打ち出す必要がある。

学生が自ら研究方針を立案できるようにするためには、同年代の他大学に在籍する大学院生との対面による意見交換は重要な活動である。しかし、このような対面活動はしばらくの間、制限される可能性が高いため、他大学の研究室と online による informal meeting 等の開催推進を検討していく必要がある。このような会を top down 方式で教員が準備することは方策の一つであろうが、研究領域の近い大学院生同士が集まり、学生が主体的に informal meeting を企画できるような予算措置を含めた体制作りも検討していく必要がある。

理工学研究科からの大学院生研究助成 A, Bへの応募は多数ある.しかし、研究室単位で類似した研究計画・予算執行計画が記載されていることが多い.研究領域が同じであるため、ある程度の重複は避けられないが、学生間で意見調整等を行い、できるだけ重複せずに独自性を出した計画書を作成する必要がある.研究助成制度へ「とりあえず応募しておこう」から「予算を自ら獲得するために応募しよう」という意識を前面に出させることが必要であり、このような指導も教員が注意喚起して行っていく必要がある.

口	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
1	令和2年7月3日	教育改善委員会名簿の確認について、 大学教育開発センター委員会報告に ついて、遠隔授業に関するアンケー ト実施について、学修成果の可視化 に係る外部調査について、WebClass での授業改善アンケート回答周知に ついて	FD·SD	原田,山中,來海,內村,字佐見,增山,岩谷,坂東,古川,前川,大原,溝口,三宅,吉永,中村,大久保(教員計16名)鈴木,北(職員計2名)
2	令和2年10月22日	令和3年度学修行動調査について、 附属高校特別推薦入学者への入学前 指導について、令和2年度後期数学 相談室について、令和2年度FD・ SD活動報告書(中間)について	FD·SD	原田,山中,内村,字佐見,增山,岩谷,坂東,古川,前川,大原,溝口,吉永,中村,大久保(教員計14名)藤井,鈴木(職員計2名)
3	令和3年1月30日	2021年度数学習熟度診断テストの実施について	FD	児玉,山中,來海,內村,宇佐見, 増山,岩谷,坂東,古川,前川, 大原,溝口,三宅,吉永,中村, 大久保(教員計16名)藤井,鈴木 (職員計2名)
		各専攻 FD·SD 会認	義	
数学	専攻 FD・SD 会議			
1	令和2年7月23日	学修成果の可視化に係る外部調査について、前期数学相談室について、WebClassでの授業改善アンケートについて	FD·SD	植松,内村,大西,小澤,鍛治,加藤,許斐,鈴木,土田,冨田,長郷,橋本,日比野,前野,三町,村瀬(計16名)
2	令和2年9月10日	授業科目間の成績評価基準の平準化について、第11回FD学習会について、令和2年度前期授業改善アンケートについて、「遠隔授業に関するアンケート(学生向け)」の集計結果(速報値)について	FD	植松,内村,江尻,大西,小澤,鍛治,加藤,許斐,鈴木,土田,富田,日比野,前野,三町,村瀬(計15名)
3	令和 2 年10月15日	令和3年度学修行動調査について, 令和2年度学修行動調査の実施について,第11回 FD 学習会について, 第22回 FD フォーラムについて	FD·SD	内村, 江尻, 大西, 小澤, 鍜治, 加藤, 許斐, 鈴木, 土田, 冨田, 日比野, 橋本, 前野, 村瀬(計14名)
4	令和 2 年11月26日	令和3年度学修行動調査について, 附属高校特別推薦入学者への入学前 指導について,令和2年度後期数学 相談室について	FD·SD	植松,内村,江尻,大西,小澤, 鍜治,許斐,鈴木,土田,富田, 長郷,橋本,日比野,前野,三町, 村瀬(計16名)
5	令和 2 年12月24日	令和2年度後期数学相談室の開設日 程について	FD	植松, 内村, 江尻, 大西, 小澤, 鍜治, 加藤, 許斐, 鈴木, 土田, 冨田, 長郷, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬(計17名)
6	令和3年1月14日	令和2年度後期数学相談室の実施報 告	FD	植松,内村,大西,小澤,鍜治,加藤,許斐,鈴木,土田,冨田, 長郷,橋本,日比野,前野,三町,村瀬(計16名)

日	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名	
情報	情報工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和2年9月10日	科目間・教員間の成績評価基準の平 準化について、学修行動調査 (GPS- Academic) の結果について	FD·SD	田中, 旭, 字佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 水沼, 向井, 柳田, 山田 (啓), 山田 (宗), 山本, 吉川, 米澤 (計 18名)	
2	令和2年12月3日	クラウドサービス等利用時に考えら れる社会的責任について	SD	田中, 旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田 (啓), 山田 (宗), 山本, 吉川, 米澤 (計 19名)	
電気	電子工学専攻 FD・S	SD 会議			
1	令和2年7月9日	遠隔授業に関するアンケート実施に ついて	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山﨑, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計19名)	
2	令和2年7月23日	学修成果の可視化に係る外部調査について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山﨑, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計19名)	
3	令和2年9月10日	第9回FD学習会参加報告, GPAを 用いた成績評価に関して	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山﨑, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計19名)	
4	令和2年9月24日	第10回 FD 学習会参加報告	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山﨑, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計19名)	
5	令和2年10月15日	三者面談実施報告,令和3年度学修 行動調査について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山﨑, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計19名)	
6	令和2年11月12日	附属高校特別推薦入学者への入学前 指導について、ダッシュボードの活 用について	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山﨑, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計19名)	
7	令和3年1月14日	三者面談について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山﨑, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計19名)	
材料機能工学専攻 FD·SD 会議					
1	令和2年5月28日	教育改善WGについて、授業再開に ついて、進路支援、入試関係	FD·SD	六田,成塚,宇佐美,上山,竹内,田中,岩谷,今井,服部,宮嶋,榎本(計11名)	

回	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
2	令和2年8月18日	前期の講義のふりかえり,教育改善 に向けて,後期の講義の実施方法に 関する内容,地区懇談会や就職,入 試関係	FD·SD	六田,成塚,宇佐美,上山,竹内,田中,岩谷,今井,服部,宮嶋,榎本(計11名)
3	令和2年8月26日	教員間もしくは授業科目間の成績評 価基準に関して	FD·SD	六田,成塚,宇佐美,上山,竹内,田中,岩谷,今井,服部,宮嶋, 榎本(計11名)
4	令和2年11月29日	学部評価委員会(学生職員,外部評価委員会,JABEE申請に関して),同窓会,教務(シラバス,試験時間割,学生面談,応用化学との共同開講科目など),大学院ポリシー,入試関係,M1中間発表	FD·SD	六田,上山,成塚,竹内,岩谷,宫嶋,宇佐美,服部,今井,榎本,田中(計11名)
5	令和2年12月24日	入試に関して、大学院入試、就職、 学位授与式、卒業パーティー、教務 関係(定期試験、追試)、M1の中間 発表、卒業研究配属のエントリー、 MS-26の申請に関して、大学院入試	FD·SD	六田,服部,竹内,榎本,宇佐美,宫嶋,成塚,今井,田中,岩谷,上山(計11名)
応用	化学専攻 FD・SD 会	注議		
1	令和2年5月28日	大学院生、卒研生の研究活動にかか わる本学構内への入構申請方法・指 導について、先端化学 open lab の実 施(感染予防) について	FD·SD	永田, 丸山, 大脇, 才田, 坂, 池邉, 田中, 小澤, 坂東(計9名)
2	令和 2 年11月26日	来年度のシラバスについて	FD·SD	永田, 坂, 坂東, 丸山, 池邉, 田中, 小澤, 才田, 大脇 (計9名)
3	令和2年12月3日	外部評価委員からの報告	FD·SD	永田, 坂, 坂東, 丸山, 池邉, 田中, 小澤, 才田, 大脇(計9名)
4	令和2年12月24日	学位授与式の実施方法, MS-26申請	SD	永田, 坂, 坂東, 丸山, 池邉, 田中, 小澤, 才田, 大脇(計9名)
機械	工学専攻 FD・SD 会	注議		
1	令和2年9月10日	FD 学習会受講報告, FD 学習会を踏まえた今後の遠隔講義の在り方について, コロナ禍における講義の在り方について, 教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化について	FD	久保, 池本, 大島, 川村, 來海, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川 (計13名)
2	令和2年11月26日	FD 学習会受講報告, FD 学習会を踏まえた今後の講義の在り方について	FD	久保, アブラハ, 池本, 大島, 川村, 來海, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川(計14名)
交通機械工学専攻 FD·SD 会議				
1	令和2年4月9日	講義内容の変更案について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎(計14名)
		1		1

			FD · SD	
口	日程	議題	区分	出席者氏名
2	令和2年4月14日	遠隔授業を含めた講義内容の変更案 について	FD·SD	加鳥,鈴木,中島,西村,大藏,菅,横谷,菅野,村尾,早藤,山崎,宫田(計12名)
3	令和2年6月11日	遠隔授業を含めた講義内容の変更案 について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 大藏, 菅, 菅野, 村尾, 早藤, 山崎, 宮田 (計13名)
4	令和2年6月25日	遠隔授業を含めた講義における成績 評価について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎(計14名)
5	令和2年7月9日	授業改善アンケート調査内容につい て,学修成果可視化に関わる外部調 査方法について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎(計14名)
6	令和 2 年 7 月23日	遠隔授業を含めた講義における成績 評価について、履修系統図について、 学修成果可視化に関わる外部調査方 法について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎(計14名)
7	令和2年9月10日	授業科目間の成績評価基準の平準化 を目的とした GPA の現状把握につ いて	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎(計14名)
8	令和2年9月24日	後期遠隔授業に伴うシラバス変更に ついて、来年度時間割について	FD·SD	加鳥, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 横谷, 大藏, 菅, 菅野, 村尾, 早藤, 山崎, 宮田 (計13名)
9	令和 2 年10月15日	次年度以降のPROGテスト実施について、外部評価委員の点検・評価結果に対する回答作成に関わる教員間ネットワークの実施について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 横谷, 大藏, 菅, 菅野, 村尾, 早藤, 山崎, 宮田(計14名)
10	令和2年12月3日	現カリキュラムでの自動車工学 I, 航空宇宙工学 I, 鉄道車両工学 I が 選択科目であることの是非について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 横谷, 大藏, 菅, 菅野, 村尾, 早藤, 山崎, 宮田(計14名)
11	令和 2 年12月24日	次年度前期の初回3回講義の遠隔実 施に関わる科目選定について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 横谷, 大藏, 菅, 菅野, 村尾, 早藤, 山崎, 宮田(計14名)
12	令和3年1月14日	FDフォーラムの内容紹介および実施内容に対する意見について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 横谷, 大藏, 菅, 菅野, 村尾, 早藤, 山崎, 宮田(計14名)
メカトロニクス工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和2年7月9日	授業改善アンケートについて,遠隔 授業に関するアンケートについて, 学修成果の可視化に関わる外部調査 について	FD·SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原(計11名)
2	令和 2 年 7 月22日	授業改善アンケートについて, 遠隔 授業に関するアンケートについて, 学修成果の可視化に関わる外部調査 について	FD·SD	楊, 井上, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原(計9名)

口	日 程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
3	令和2年9月10日	授業改善アンケートへの回答につい て,教員間もしくは授業科目間の成 績評価基準の平準化について	FD·SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
4	令和2年9月24日	授業改善アンケートへの回答について、PROGテストの実施について	FD·SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
5	令和 2 年10月15日	PROG テストの実施について	FD·SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
6	令和 2 年11月26日	附属高校特別推薦入学者への入学前 指導における学生対応について	FD·SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
7	令和 2 年12月 3 日	附属高校特別推薦入学者への入学前 指導について、カリキュラム検討会 議の開催について	FD·SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
8	令和 2 年12月24日	カリキュラム検討会議について	FD·SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
社会	基盤デザイン工学専	攻 FD·SD 会議		
1	令和2年4月23日	遠隔授業の方法に関する確認, 意見 交換	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
2	令和2年5月7日	遠隔授業の方法に関する意見交換	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
3	令和 2 年 5 月28日	「今年度社会基盤デザインセミナー Ⅱ」の実施方法の検討	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
4	令和 2 年 6 月25日	第1回教育改善委員会報告	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
5	令和2年7月23日	教育担当者懇談会の開催方針について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
6	令和2年9月10日	各科目の GPA 状況の確認と意見収 集	FD	石川, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計12名)
7	令和 2 年10月15日	遠隔授業の方法に関する確認, 意見 交換	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
8	令和 2 年11月26日	科研費申請率向上に係る意見交換	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計12名)

			FD · SD	
□	日程	議題	区分	出席者氏名
9	令和2年12月3日	学生指導に関する意見交換	FD·SD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計12名)
環境	創造工学専攻 FD・S	SD 会議		
1	令和2年9月10日	前期授業改善アンケートについて、 PROGテストの実施について、GPA の成績評価について	FD	垣鍔, 道正, 西山, 三宅, 小塩, 日比, 広瀬, 武藤, 片桐(計9名)
2	令和 2 年11月26日	PROG テスト実施の報告 FD 講習参加の呼びかけ	FD	垣鍔, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 日比, 広瀬, 武藤(計8名)
3	令和 2 年12月24日	後期授業改善アンケートについて	FD	垣鍔, 道正, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 日比, 広瀬, 武藤(計9名)
4	令和3年1月28日	PROG テスト返却について	FD	垣鍔, 西山, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 日比, 広瀬, 武藤(計9名)
建築	学専攻 FD・SD 会議	套		
1	令和2年4月9日	学修成果の把握に向けた外部調査の 実施について	FD	高井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 寺西, 武藤, 岡田, 石井, 大塚, 生田, 吉永, 平岩, 谷田, 三浦, 松田, 米澤, 佐藤, 高橋 (計18名)
2	令和2年4月23日	一級建築士エクステンション講座に ついて	FD	高井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 寺西, 武藤, 岡田, 石井, 大塚, 生田, 吉永, 平岩, 谷田, 三浦, 松田, 米澤, 佐藤, 高橋 (計18名)
3	令和2年7月2日	1年生を対象とする企画について	FD·SD	高井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 寺西, 武藤, 岡田, 石井, 大塚, 生田, 吉永, 平岩, 谷田, 三浦, 松田, 米澤, 佐藤, 高橋(計18名)
4	令和2年7月30日	1年生パワーアップ作戦について	FD·SD	高井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 寺西, 武藤, 岡田, 石井, 大塚, 生田, 吉永, 平岩, 谷田, 三浦, 松田, 米澤, 佐藤, 高橋 (計18名)
5	令和2年9月10日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化について、「学修成果の可視化のための外部調査」の2020年度実施計画について	FD	高井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 寺西, 武藤, 岡田, 石井, 大塚, 生田, 吉永, 平岩, 谷田, 三浦, 松田, 米澤, 佐藤, 高橋(計18名)
6	令和2年10月15日	PROG テストの実施について	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,寺西, 武藤,岡田,石井,大塚,生田, 吉永,平岩,谷田,三浦,松田, 米澤,佐藤,高橋(計18名)
7	令和2年11月12日	卒業設計追い込み期における制作室 の扱いに関して	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,寺西,武藤,岡田,石井,大塚,生田,吉永,平岩,谷田,三浦,松田,米澤,佐藤,高橋(計18名)

口	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
8	令和 2 年12月24日	イヤーブックについて	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,寺西,武藤,岡田,石井,大塚,生田,吉永,平岩,谷田,三浦,松田,米澤,佐藤,高橋(計18名)
9	令和3年1月14日	PROG テストの結果について	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,寺西,武藤,岡田,石井,大塚,生田,吉永,平岩,谷田,三浦,松田,米澤,佐藤,高橋(計18名)

学部・研究科・センター (農学部) 推進組織名 (農学部 FD 委員会)

1. 令和2年度の活動報告

農学部は生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科の各学科会議および農場教員会議を 分科会と位置づけ、それぞれに課題を設け取り組んでいる。これらの分科会および教授会におい て、学生の修学および生活について、学科や各委員会等の会議の時間を利用して教職員間で意見 交換を行い、農学部のディプロマ・ポリシーに基づく教育および研究活動の充実を行っている。 具体的な取り組みとして、定例で行われている学科会議や農場教員会議等において、教育改善の ための意見交換を行い、授業満足度調査からの授業内容の検討のほかに、研究活動や実験実習、 キャリア教育などの充実も視野に入れ、総合的な教育改善を推進している。そのために、学部 FD 委員を中心に現状を分析し、各学科にて改善策を講じ、学務委員会や学部 FD 委員会でそれ らをまとめてカリキュラムの検証および検討や同系の講義群の目標の設定を行い、それらを各教 員が教育や研究に反映する。各学科および附属農場に共通する案件については学部教授会等の時 間を利用するなどして学部全教員で情報交換を行い、教育改善への具体的取り組みについてのイ メージを共有できるようにする。下記活動記録に記述の通り、生物資源学科では事実を正確に伝 え、かつ豊かな表現力を育む手法の探索、応用生物化学科では各講義・実験の内容紹介と意見交 換を通じた教員間の連携強化と教育効果向上、生物環境科学科では学科の取り組みを含む「生物 多様性 | の意義を広く一般に理解してもらうための教育活動の強化、附属農場では農学に関わる 動植物への求知心の創起法の開発を直近の課題としているところである。

- ①本年度は、学修成果を可視化する取組に基づく教育改善のために、外部調査として1年次を対象にGPS-Academicを継続採用した。外部調査した学生が3年次になった時、再びアンケートを行うことで学修成果の可視化に成果を生かす予定である。
- ②各学科ともに「履修系統図」「ポートフォリオ」への取り組みに加え、完成年度後の新たなカリキュラム改正に向けた議論を進め、生物資源学科の実験科目の材料を学生が農場実習で育てる共同カリキュラムに取り組み、農場の教育環境改善を実施中である。また本年度は新型コロナウイルス感染症の世界的拡大に伴い、特に遠隔授業の実施体制を整えると同時に、ソーシャルディスタンスを確保するため、特に実験授業における少人数受講体制を整えることに大きなウェイトを置く必要がある事態となった。

2. 今後の課題、方向性

遠隔授業の具体的な大規模実施を経て、学部や学科等の組織単位ならびに教員個々の単位でメリットとデメリットが議論できる体制になった。緊急事態の渦中であることもあり、これまでデメリットが強調されることが多いなか、今後はメリットを発展させ情報や技術の共有をはかるための議論の場を積極的に設定していく必要があると考えられる。

経常的な課題として、入試区分や入学時の成績、在学中のGPAベースでの成績、キャリア形成支援に至る学生個別のポートフォリオを作成することで、より学修行動に限定せず、学生そのものの属性と動向を紐付け調査し、教育効果を高める方法について検討する必要がある。そのため、入試委員会、学務委員会、キャリア委員会との連携が強く要請される。

今後も学科会議および農場教員会議単位での検討体制は変わりなく、従来からの一貫性と継続性を強く意識した対応のあり方を模索する。また、個別の学科に限定せず、学科横断的に検討すべき、ならびに学部全体で取り組むべき、ひいては大学院教育ともリンケージさせた対応を提言する、という立場から、農学部 FD 委員会で積極的に情報交換を行うこととする。

回	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和2年4月3日	第1回生物資源学科会議 ・令和2年度の授業実施について(新型コロナウイルス感染症拡大防止対応) ・フレッシュマンミキサー(新入生ガイダンス)の実施手順について	FD·SD	磯前、山岸、寺田、鈴木(茂)、 平野、荒川、鈴木(康)、平児、 上船、塚越、黒川、津呂
2	令和2年4月3日	第1回応用生物化学科会議 ・講義が WebClass になった場合の 実験の対応について ・他学科履修に関して	FD·SD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林(利)、前林、 松儀、湊、山口(秀)
3	令和2年4月3日	第1回生物環境科学科会議 ・授業の新型コロナウイルス感染症 対策について	FD	汪、礒井、大浦、橋本、長田、日野、 近藤、田村、藤、新妻
4	令和2年4月3日	第1回農場教員会議 ・新型コロナウイルス感染症に係る 農場実習などでの対策について ・農場本館リファイニングについて	FD·SD	平野、中尾、森田(隆)、森田(裕)、 片山
5	令和2年4月9日	第2回生物資源学科会議 ・教員の編成方針について ・WebClass 対応について	FD·SD	磯前、山岸、寺田、鈴木(茂)、 平野、荒川、鈴木(康)、平児、 上船、塚越、黒川、津呂
6	令和2年4月9日	第2回応用生物化学科会議 ・「ディプロマポリシー対応ポートフォリオ(確定版を後日配信)」、「授業科目履修系統図」および「学位授与方針対応表」に関して・2021年度農学部教員編成方針について	FD·SD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林(利)、前林、 松儀、湊、山口(秀)
7	令和2年4月9日	第2回生物環境科学科会議 ・教員組織編成について	SD	汪、日野、礒井、大浦、橋本、長田、 日野、近藤、田村、藤、新妻
8	令和2年4月9日	第1回生物環境科学科 FD 会議 ・障がい学生対応について	SD	汪、日野、礒井、大浦、橋本、長田、 日野、近藤、田村、藤、新妻

田	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
9	令和2年4月15日	第3回生物資源学科会議 ・緊急事態宣言を受けた休校措置解 除後の特に実験授業再開の方式に ついて	SD	磯前、山岸、寺田、森上、鈴木(茂)、 平野、荒川、鈴木(康)、平児、 上船、塚越、黒川、津呂
10	令和2年4月23日	第4回生物資源学科会議 ・教員組織編成について	SD	山岸、寺田、森上、平野、荒川、 鈴木(康)、平児、上船、塚越、 黒川、津呂
11	令和2年5月8日	第2回農場教員会議 ・新型コロナウイルス感染症対策に 関わる農場実習のスケジュールに ついて	FD	平野、中尾、森田(隆)、林、森田(裕)、片山
12	令和2年5月14日	第3回農学部教授会 ・大学教育開発センター委員会(第 1回)報告について	FD·SD	議井、磯前、氏田、汪、大浦、加藤、木岡、鈴木(茂)、田村、津呂、寺田、新妻、林(利)、日野、平野、前林、松儀、湊、森上、山岸、山口(秀)、天野、荒川、上船、奥村、長田、香村、近藤、志水、鈴木(康)、塚越、中尾、橋本、濱本、林(義)、平児、細田、村野、森田(隆)、森田(裕)、安原、近澤、藤、長澤
13	令和2年5月14日	第5回生物資源学科会議 ・教員組織編成について ・1年生の連絡状況について ・新型コロナウイルス感染症規制緩和後の授業実施方針について	FD·SD	鈴木(茂)、磯前、山岸、寺田、 平野、荒川、鈴木(康)、平児、 塚越、上船、黒川、津呂
14	令和2年5月14日	第3回応用生物化学科会議 ・研究室配属について ・学位授与方針について ・2年生ミキサーについて ・学生実験テキストについて	FD·SD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林(利)、前林、 松儀、湊、山口(秀)
15	令和2年5月14日	第3回生物環境科学科会議 ・障がい学生対応について ・来年度新設科目について ・新型コロナウイルス感染症対策下 の実験実習について	FD·SD	汪、長田、日野、礒井、村野、大浦、 日野、田村、細田、近藤、藤、橋本、 新妻
16	令和2年5月21日	第4回生物環境科学科会議 ・遠隔授業が困難な科目に関する調 査票の見直しについて ・活動制限レベル2における研究活 動について	FD·SD	汪、長田、日野、礒井、村野、大浦、 日野、田村、細田、近藤、藤、橋本、 新妻
17	令和2年5月22日	第4回応用生物化学科会議 ・遠隔授業が困難な科目に関する調査表の見直しについて ・活動制限レベル2における研究活動について ・応用生物化学実験∇~Ⅷについて	FD·SD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林(利)、前林、 松儀、湊、山口(秀)

□	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
18	令和 2 年 5 月28日	第4回農学部教授会 ・大学教育開発センター委員会(第2回)報告について ・FD・SDの共通課題について ・令和2年度前期授業改善アンケートについて	FD·SD	議井、磯前、氏田、汪、大浦、加藤、木岡、鈴木(茂)、田村、津呂、寺田、新妻、林(利)、日野、平野、前林、松儀、湊、森上、山岸、天野、荒川、上船、奥村、長田、香村、近藤、志水、鈴木(康)、塚越、中尾、橋本、濱本、林(義)、平児、細田、村野、森田(隆)、森田(裕)、安原、近澤、藤、長澤
19	令和 2 年 5 月28日	第6回生物資源学科会議 ・名城大学における活動制限レベル 低下措置後の4年生、院生の研究 活動について	FD·SD	鈴木(茂)、磯前、山岸、寺田、 平野、荒川、鈴木(康)、平児、 塚越、上船、黒川、津呂
20	令和 2 年 5 月29日	第5回生物環境科学科会議 ・卒業研究、修士学生の研究について ・研究室配属について	FD·SD	汪、長田、日野、礒井、村野、大浦、 日野、田村、細田、近藤、藤、橋本、 新妻
21	令和 2 年 5 月29日	第3回農場教員会議 ・6月3日以降の新型コロナウイルス感染症対策における院生・卒研生の出校対応について・農場実習1での新型コロナウイルス感染症対策について	FD	平野、中尾、森田(隆)、林、森田(裕)、片山
22	令和2年6月4日	第2回生物環境科学科 FD 会議 ・障がい学生対応について	SD	汪、日野、大浦、橋本、長田、日野、 近藤、田村、藤、新妻
23	令和2年6月4日	第6回生物環境科学科会議 ・実験実習科目の新型コロナウイル ス感染症対策の対応について	FD·SD	汪、長田、日野、村野、大浦、日野、 田村、細田、近藤、藤、橋本、礒井、 新妻
24	令和2年6月11日	第7回生物資源学科会議 ・TAの取り扱いについて ・研究室への学生の入構について ・2021年度授業時間割確認について	FD·SD	山岸、寺田、森上、平野、荒川、 鈴木(康)、平児、塚越、上船、 黒川、津呂
25	令和2年6月11日	第7回生物環境科学科会議 ・宿泊を伴う実験実習について ・TA予算について ・活動制限レベル2における研究活動について ・教員編成について ・実験・実習のメニューの再編成について	FD·SD	汪、長田、日野、村野、大浦、日野、 田村、細田、近藤、藤、橋本、礒井、 新妻
26	令和2年6月18日	第8回生物環境科学科会議 ・夏季集中講義の開講について ・生物環境科学実習の運営について ・人事について	FD·SD	汪、長田、日野、村野、大浦、日野、 田村、細田、近藤、藤、橋本、礒井、 新妻

田	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
27	令和2年6月25日	第8回生物資源学科会議 ・2021年度授業時間割の確認について ・成績不振者対応について ・専任教員の人事について	FD·SD	山岸、寺田、平野、荒川、鈴木 (康)、 平児、塚越、上船、黒川、津呂
28	令和2年6月25日	第9回生物環境科学科会議 ・基軸科目について ・時間割変更について ・シラバスの変更について ・非常勤講師の確認 ・人事案について	FD·SD	汪、長田、日野、村野、大浦、日野、 田村、細田、近藤、藤、橋本、礒井、 新妻
29	令和2年7月2日	第7回農学部教授会 ・大学教育開発センター委員会(第4回)報告について ・遠隔授業に関するアンケートの実施について ・学修成果の可視化に係る外部調査について	FD·SD	議井、磯前、氏田、汪、大浦、加藤、 鈴木(茂)、田村、津呂、寺田、 新妻、林(利)、平野、前林、松儀、 湊、山岸、天野、荒川、上船、奥村、 長田、香村、近藤、志水、鈴木(康)、 塚越、中尾、橋本、濱本、林(義)、 平児、細田、村野、森田(隆)、 森田(裕)、黒川、近澤、藤
30	令和2年7月3日	第4回農場教員会議・農場施設・設備の更新計画について・農場本館リファイニングについて・農場実習における健康チェックシートの提出について	FD·SD	平野、中尾、森田(隆)、林、森田(裕)、片山
31	令和2年7月9日	第3回生物環境科学科 FD 会議 ・障がい学生対応について	SD	汪、礒井、大浦、橋本、長田、近藤、 田村、藤、新妻
32	令和2年7月9日	第10回生物環境科学科会議・科学英語について・ミキサーについて・基軸科目について・学生便覧の確認	FD·SD	汪、長田、村野、大浦、田村、細田、 近藤、藤、橋本、礒井、新妻
33	令和2年7月16日	第5回応用生物化学科会議 ・後期の学生実験等について ・化学実験について	FD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林(利)、前林、 松儀、湊
34	令和2年7月17日	第10回生物資源学科会議 ・本年度後期の授業実施体制について ・2021年度の授業実施体制について	FD·SD	鈴木(茂)、山岸、寺田、平野、 荒川、鈴木(康)、平児、塚越、 上船、黒川、津呂
35	令和2年7月27日	第11回生物資源学科会議 ・本年度後期の授業実施体制につい て	FD·SD	鈴木(茂)、磯前、山岸、寺田、 森上、平野、荒川、平児、塚越、 上船、黒川、津呂

田	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
36	令和2年7月27日	第6回応用生物化学科会議 ・後期の授業等について ・専門講義科目の実施方法について ・大学院の講義科目について ・基軸科目(生命・食料・環境)の 実施方式とシラバスについて	FD	天野、氏田、奥村、加藤、近澤、 長澤、濱本、林(利)、前林、松儀、 湊
37	令和2年7月30日	第12回生物資源学科会議 ・農場本館改修にともなう授業の実 施計画について	FD·SD	鈴木(茂)、磯前、山岸、寺田、 平野、鈴木(康)、平児、塚越、 上船、津呂
38	令和2年7月30日	第7回応用生物化学科会議 ・応用生物化学概説の成績について ・基軸科目(生命・食料・環境)の 実施方式とシラバスについて	FD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林(利)、前林、 松儀、湊
39	令和2年7月30日	第11回生物環境科学科会議 ・実習の運営について ・後期の対面授業の実施について	FD·SD	汪、長田、村野、大浦、日野、田村、細田、近藤、藤、礒井、日野、新妻
40	令和2年8月7日	第5回農場教員会議 ・農場本館リファイニングについて	SD	平野、中尾、森田(隆)、林、森田(裕)、片山、大塚
41	令和2年9月7日	第6回農場教員会議 ・後期の実習について ・社会人入学希望者について ・農場本館リファイニングについて	FD·SD	平野、中尾、森田(隆)、林、森田(裕)、片山、大塚
42	令和2年9月10日	第1回生物資源学科 FD 活動会議 ・学修成果可視化のための外部テス トの申し込み内容について	FD	磯前、山岸、鈴木(茂)、森上、 寺田、平野、鈴木(康)、荒川、 上船、塚越、黒川、津呂
43	令和2年9月10日	第4回生物環境科学科FD会議 ・障がい学生対応について	SD	汪、礒井、日野、大浦、橋本、長田、 日野、近藤、田村、藤、新妻
44	令和2年9月10日	第12回生物環境科学科会議 ・大学院入試科目について ・公開講演会について ・学生の出張について ・学生の入構管理について	FD·SD	汪、長田、大浦、日野、田村、細田、 近藤、藤、礒井、日野、橋本、 新妻
45	令和2年9月10日	第8回応用生物化学科会議 ・化学実験について ・応化実験3と4の日程について	FD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林(利)、前林、 松儀、湊
46	令和 2 年10月 1 日	第14回生物資源学科会議 ・学生所有 PC の推奨スペックについて ・2021年度時間割について	FD·SD	鈴木(茂)、磯前、山岸、寺田、 平野、鈴木(康)、荒川、平児、 塚越、上船、津呂
47	令和2年10月1日	第9回応用生物化学科会議 ・各研究室における新型コロナウイ ルス感染症対策について	FD·SD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林(利)、前林、 松儀、湊

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
48	令和2年10月1日	第13回生物環境科学科会議 ・人事について ・非常勤講師について ・来年度の実験実習のスケジュール について ・来年度の時間割について ・附属農場での生物環境科学実習に ついて ・「生命・食料・環境」の担当につい て ・他学部・他学科履修の制限につい	FD·SD	汪、長田、大浦、田村、細田、近藤、藤、礒井、橋本、村野、新妻
49	令和2年10月2日	第7回農場教員会議 ・農場本館リファイニングに関する意見のとりまとめについて ・令和3年度開講予定のフィールド生産学特論の開講場所について ・2021年度教務日程について ・来年度に向けての農場教員編成方針の検討について	FD·SD	平野、中尾、森田(隆)、林、森田(裕)、片山、大塚
50	令和2年10月15日	第11回農学部教授会 ・大学教育開発センター委員会(第7回)報告 ・令和2年度後期授業改善アンケートの実施について ・令和3年度学修成果の可視化に係る外部調査実施の希望聴取について ・遠隔授業アンケート(教員向け、学生向け)の集計結果について	FD·SD	磯井、磯前、氏田、汪、大浦、加藤、鈴木 (茂)、田村、津呂、寺田、新妻、林 (利)、日野、平野、前林、松儀、湊、森上、山岸、山口 (秀)、天野、荒川、上船、奥村、長田、香村、近藤、志水、鈴木 (康)、塚越、中尾、橋本、濱本、林 (義)、平児、細田、村野、森田 (隆)、森田 (裕)、近澤、藤、長澤
51	令和2年10月15日	第10回応用生物化学科会議 ・新型コロナウイルス感染症にかか わる欠席について	FD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林(利)、前林、 松儀、湊、山口(秀)
52	令和2年10月15日	第14回生物環境科学科会議 ・MS26の予算について ・「生命・食料・環境」の開講について ・ 附属農場での生物環境科学実習について ・公開講演会について	FD·SD	汪、長田、大浦、田村、細田、近藤、藤、礒井、日野、橋本、新妻
53	令和2年11月6日	第8回農場教員会議 ・2022年度からの農場実習検討WG について ・2021年度教務事項に関する検討課 題について	FD·SD	平野、中尾、森田(隆)、林、森田(裕)、片山、大塚

□	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
54	令和2年11月19日	第14回生物資源学科会議 ・障がい者受験の対応について ・2021年度時間割について	FD·SD	鈴木(茂)、磯前、森上、山岸、 寺田、平野、鈴木(康)、荒川、 平児、塚越、上船、津呂
55	令和2年11月19日	第16回生物環境科学科会議 ・2021年度時間割について ・受験上の配慮申請を提出した受験 生への対応 ・附属農場での生物環境科学実習に ついて ・公開講演会について	FD·SD	汪、長田、大浦、田村、細田、近藤、藤、礒井、日野、橋本、村野、新妻
56	令和 2 年11月20日	第9回農場教員会議 ・MS26戦略プランについて	FD	平 野、 中 尾、 森 田 (隆)、 林、 森田 (裕)、片山、大塚
57	令和2年12月3日	第11回応用生物化学科会議 ・化学実験、応化実験の日程について ・オムニバス科目(応用生物化学概説および生命・食料・環境)のシラバスについて	FD·SD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林 (利)、前林、 松儀、湊、山口 (秀)
58	令和2年12月3日	第17回生物環境科学科会議 ・指導教員担当制度による学生面談について ・令和3年度 ゼミナールで使用する教室について ・「実務経験のある教員の科目一覧」の確認 ・2021年度時間割について ・教室の確保について	FD·SD	汪、長田、大浦、田村、細田、近藤、 藤、礒井、日野、村野、新妻
59	令和2年12月16日	第10回農場教員会議 ・2021年度教務事項に関する検討課題について ・農場本館改修工事について	FD·SD	平野、中尾、森田(隆)、林、森田(裕)、片山、大塚
60	令和2年12月17日	 第14回農学部教授会 ・大学教育開発センター委員会(第10回)報告 ・後期授業改善アンケートの実施について ・第22回 FD フォーラムの実施報告について 	FD·SD	議井、氏田、汪、大浦、加藤、木岡、鈴木 (茂)、田村、津呂、寺田、新妻、林 (利)、日野、平野、前林、松儀、湊、森上、山岸、山口 (秀)、天野、荒川、上船、奥村、長田、香村、近藤、志水、鈴木 (康)、塚越、中尾、橋本、濱本、林 (義)、平児、細田、村野、森田 (隆)、森田 (裕)、黒川、近澤、藤、長澤、安原
61	令和2年12月17日	第12回応用生物化学科会議 ・非常勤講師の担当科目について ・応用生物化学実験および化学実験 の来年度スケジュールの確認	FD·SD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林(利)、前林、 松儀、湊、山口(秀)

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
62	令和3年1月8日	第11回農場教員会議 ・在外研究期間中の非常勤講師依頼 について ・農場本館リファイニングについて	FD·SD	平野、中尾、森田(隆)、林、森田(裕)、片山、大塚
63	令和3年1月14日	第20回生物資源学科会議 ・令和3年度2年生、新入生ミキサー について ・新2年生の指導教員の割り振りに ついて	FD·SD	鈴木(茂)、磯前、森上、山岸、 寺田、平野、荒川、平児、塚越、 上船、黒川、津呂
64	令和3年1月14日	第13回応用生物化学科会議 ・化学実験の成績について ・2年生向けミキサーおよび応用生 物化学実験のガイダンスに関して	FD·SD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林(利)、前林、 松儀、湊、山口(秀)
65	令和3年1月14日	第18回生物環境科学科会議 ・生物環境科学概説の講義方式・開 講曜日時限について ・学科ミキサーについて ・指導教員の取り扱いについて ・追再試試験の形式について	FD·SD	汪、長田、大浦、藤、礒井、橋本、 大浦、細田、近藤、日野、村野、 新妻
66	令和3年1月28日	第16回農学部教授会 ・ハラスメント防止に関する DVD 視聴による教職員の意識向上 ・農場本館リファイニング計画につ いて	FD·SD	議井、磯前、氏田、汪、大浦、加藤、 鈴木(茂)、田村、津呂、寺田、 新妻、林(利)、日野、平野、前林、 松儀、湊、森上、山岸、山口(秀)、 天野、荒川、上船、奥村、長田、 香村、近藤、志水、鈴木(康)、 塚越、中尾、橋本、濱本、林(義)、 平児、細田、村野、森田(隆)、 森田(裕)、近澤、藤、長澤、安原

学部・研究科・センター (農学研究科) 推進組織名 (農学研究科大学院運営委員会)

1. 令和2年度の活動報告

活動方針:令和2年度は新カリキュラム2年目となり、新たな試みである指導教員グループ制や 修士課程の中間発表などの実施に向けてさらなる創意工夫を重ねる。

活動目標:新カリキュラムを確実に実施

活動内容:

①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善

大学院生全員が受講する農学特別演習において、一昨年度に改善を行った毎回提出を義務づけているレポートの取り扱いについてこれを着実に遂行している。すなわち、発表者の発表内容に対して、その「価値」、「質疑」、「触発」、「質問」に分けてコメント、さらに、発表全体に対する意見を報告させ、特任助手の協力により集まったレポートに記されたコメントを発表者にフィードバックしている。

②その他研究科独自の取組

副指導教員による最終審査時以外の指導が総じて行われていない現状を鑑み、新カリキュラムが始まった昨年度より副指導教員を含む指導教員グループによる修士課程あるいは博士後期課程の中間段階における研究進捗状況の確認作業を実施している。修士課程においては、初めての取組である中間発表を実施した。なお、中間発表は当初ポスター発表として行う予定であったが、新型コロナウイルス感染を危惧し、WebClass および Web 会議システムを用いて遠隔で行った。これらの取組の実施に際し、職員もそのメンバーである大学院運営委員会にて検討を行いながら実施している。最終発表は、新型コロナウイルス感染症対策を施した上で口頭にて実施予定である。

2. 今後の課題、方向性

農学研究科も社会人入学制度を設けたが、社会人が入学した場合の教育について詳細に検討する必要がある。

田	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和2年 6月11日~23日 (メール会議)	・修士課程中間発表についての検討	FD·SD	礒井・津呂・山口・新妻・平野・ 河村
2	令和2年9月3日	・奨学生候補者選出についての検討 ・研究進捗状況報告についての確認	SD FD	礒井·津呂·林 (利)·新妻·平野· 河村
3	令和2年9月10日	・奨学生候補者選出についての検討	SD	礒井·津呂·林 (利)·新妻·平野· 河村
4	令和2年9月24日	・2020年度閉講科目についての確認・2021年度開講予定科目についての確認・学修計画書についての検討	FD·SD FD·SD	礒井·津呂·林 (利)·新妻·平野· 河村
5	令和 2 年10月13日	 ・3ポリシーの見直しについての検討 ・後期「学外での実施が不可欠な授業」についての検討 ・2021年度在学生ガイダンスと新入生オリエンテーションの実施方法の検討 	FD·SD FD·SD FD·SD	磯井・津呂・山口・新妻・平野・ 奥田
6	令和2年 12月10日~16日 (メール会議)	・3ポリシーの見直しについての検討・修士論文発表会についての検討	FD·SD FD·SD	礒井・津呂・山口・新妻・平野・ 河村・奥田
7	令和 2 年12月24日 (メール会議)	・非常勤講師の資格確認・大学院奨学金の支給についての検討	FD·SD FD·SD	礒井・津呂・山口・新妻・平野・ 河村
8	令和3年1月7日	・修士論文発表会についての検討 ・研究指導計画についての検討 ・非常勤講師の資格確認	FD·SD FD·SD FD·SD	礒井・津呂・山口・新妻・平野・ 河村
9	令和3年 1月20日~25日 (メール会議)	・3ポリシーの見直しの確認・研究指導計画の確認	FD·SD FD·SD	礒井・津呂・山口・新妻・平野・ 河村・奥田

学部・研究科・センター(薬学部)
推進組織名(薬学部 FD・SD 委員会)

1. 令和2年度の活動報告

1) 薬学部 FD・SD 委員会活動目標及び活動項目

FD 活動の定義:薬学部の教育理念、目標に到達するために、教職員組織で取り組む教育改善をサポートする。

- A. 実質的な授業改善
 - ①授業改善アンケートによる学生の学びの問題点の抽出
 - ②学びの問題点に対する教育改善方法の検討・提案
- B. 学生の主体的な学びの促進
 - ①学生の主体的活動のサポート
 - ②学びの成果の可視化→全学共通 FD 課題:①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育 改善
- C. 教育活動の可視化と IR の実施
 - ①教育活動の可視化
 - ② IR の実施と教育改善の提案→全学共通 SD 課題:遠隔講義への対応、IR

2) 令和2年度活動内容

A. 実質的な授業改善

①授業改善アンケートによる学生の学びの問題点の抽出

アンケート回答率平均(薬学部実施科目での集計)

前期72科目実施 最終回答率92.3% (昨年度78.1%)

後期52科目実施 最終回答率91.9% (昨年度72.9%)

遠隔授業によるポートフォリオへのアクセスが日常的になったこともあり、回答率が非常に高かった。後期についても、ほぼ同等の回答率であった。前期は、遠隔授業が多かったため、特に全体的に予習、復習、勉強時間、理解感は向上した。一方、全体的に目標達成、成長実感、満足度は学習時間が向上した割に対し、大きな上昇は見られなかった。遠隔の利点欠点を踏まえ、分析した。

- ・学生へのフィードバックとして、授業改善アンケートの自己評価部分をレーダーチャート 化し、当該学年の平均を含めて可視化した。
- ・教員へのフィードバックでは、授業改善のヒントとなるように、下記のデータを IR の一環として作成し、フィードバックした。

フィードバック内容: 当該科目の各アンケート項目の単純集計グラフ、学生の当該科目の 授業スキル及び自己評価についてのレーダーチャート(全科目平均及び当該学年平均含む)、 当該科目成績と満足度の関係、当該科目成績と各指標の関連の散布図(基礎学力、授業外学 習時間、授業集中、理解度、到達度、満足度)、各系列の科目の各指標の分布グラフ

・教員から各科目履修学生への授業改善アンケートについてのフィードバックは、専任教員で95.0%と高かった(前期)。

②学びの問題点に対する教育改善方法の検討・提案

下記内容で検討及び FD 講演会を行った。

・「成績評価の平準化についての検討 |

実施日:2020年9月17日

薬学部教務委員会と合同開催

・FD・SD 講演会

実施日:2021年3月8日

内容:オンライン試験について

講師:鶴見太郎氏

東京大学教養学部 准教授

・FD 報告

実施日:2021年3月11日(拡大教授会予定)

B. 学生の主体的な学びの促進

①学生フォーラムのサポート

・4/18に学生が主体となり、第10回学生フォーラムを開催予定であったが、緊急事態宣言下であり、開催を中止した。

②学びの成果の可視化→全学共通 FD 課題:①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育 改善

1-4年生を対象に、ディプロマ・ルーブリックと学修成果サマリーを利用した振り返りを半期毎に行った。1-3年生については、指導教員の面談時に利用した。

1、4年生を対象に、外部指標としてGPS-Academicを実施。

6年生については、国家試験模擬試験の推移をレーダーチャートとし、努力を可視化する と共に、教員からのアドバイスのサポートを行った。

C. 教育活動の可視化と IR の実施→全学共通 SD 課題:遠隔講義への対応、IR

①教育活動の可視化

教育活動の可視化として、昨年度より行っているディプロマ・ルーブリックによる振り返りを半期毎に実施すると共に、半期の学びを振り返る学習成果サマリーの作成を行い、学生の学修のサポートを行なった。

○振り返りの実施時期

前期:8月中(未実施は、再実施メールにて督促)

後期:3月中(未実施は、再実施メールにて督促)

前期実施率は下表の通り。

○内容

- ・ディプロマ・ルーブリックを用いた振り返り
- ・半期の学びを振り返り、「満足な成果」、「不満足な成果」について2科目ずつ選択し、 以下の様な振り返りを行う。 ディプロマルーブ 学習成果サマリー

思うように行ったこと、・思うように行かなかったこと、・で

きるようになったこと

・まだ不十分なこと、・次に活か すこと

Do兴即	ディプロマルーブ	学習成果サマリー
R2前期	リック実施率(%)	実施率(%)
1 年生	97.0	92.0
2年生	92.4	84.1
3年生	91.5	84.2
4年生	97.1	90.6
5 年生	85.7	_
6 年生	85.4	_

② IR の実施と教育改善の提案

・令和2年度遠隔授業アンケート結果について

回収率平均 1年93%、2年86%、3年78%、4年89%、5年58%、6年42% コロナ禍により前期に行った遠隔授業についての全学アンケート調査について、薬学部に ついての分析を行い、改善に向けての提案を行った。

- ・令和元年度学位授与方針対応表の検証について
 - a. 領域、順次性、難易度を踏まえた体系性
 - b. ディプロマ・ポリシーでうたっている能力の育成とカリキュラムの整合性
 - c. 学生の学修成果の確認
 - d. アセスメントポリシーに基づく評価(学位プログラムの評価)

材料:

間接データ:ディプロマ・ルーブリック、授業評価アンケートなど

直接データ:PROG テスト、ディプロマ・ルーブリック毎の成績、修得度など

上記の情報を材料として、分析を行い、学位授与方針対応表にもとづく学修成果が得られているか、また、学修成果を評価し、課題と改善点を提案した。

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和2年7月3日	第1回FD・SD委員会 (メール審議)1.授業評価アンケートについて2.大学教育開発センターよりの遠隔授業についてFDアンケートについて	FD	大津委員長、飯田、井藤、黒野、 神野、田口、能勢、中村文(事務)
2	令和2年9月10日	第2回FD・SD委員会 1. 令和2年度FD・SD委員会活動について 2. 令和2年度前期授業改善アンケート結果について 3. 令和2年度遠隔授業アンケート結果について 4. 学位授与方針対応表を用いた教育課程の自己点検及びアセスメントポリシーに基づく評価	FD	大津委員長、井藤、黒野、神野、 田口、能勢、贄(事務)
3	令和2年9月3日	成績評価の平準化についての 検討①	FD·SD	飯田、井藤、打矢、梅田、大津、 岡本(浩)、小田、金田、亀井、 北垣、黒野、小森、神野、田口、 築山、灘井、丹羽、能勢、野田、 長谷川、早川、原、原田、平松、 松本、森、柳澤、山田、湯川、脇田、 伊東、衣斐、今西、牛田、岡本(誉)、 奥田、加藤、金子、川村、栗本、 小島、坂井、高谷、武田、根岸、 半谷、マーク、村田、青木、植田、 近藤(啓)、近藤(梨)、酒井(隆)、 榊原、武永、都築、西川、日坂、 守屋、吉田、吉見、疋田、酒井(達)、 高橋
4	令和2年9月17日	成績評価の平準化についての検討②	FD·SD	飯田、井藤、打矢、梅田、大津、岡本(浩)、小田、小森、神野、築山、灘井、丹羽、能勢、野田、長谷川、早川、原、平松、柳澤、山田、脇田、伊東、衣斐、牛田、岡本(誉)、奥田、金子、栗本、小島、マーク、村田、青木、近藤(啓)、近藤(梨)、酒井(隆)、西川、日坂、守屋、吉田、疋田、酒井(達)、高橋

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
5	令和3年1月7日	 第3回 FD・SD 委員会 (メール審議) 1. 後期授業改善アンケート 実施状況 2. 薬学部 FD フォーラム案 3. 本部 FD 学習会予定 4. 学びのコミュニティー申請 	FD	大津委員長、飯田、井藤、黒野、 神野、田口、能勢、贄(事務)
6	令和3年2月8日	第4回FD·SD委員会	FD	大津委員長、飯田、井藤、黒野、 神野、田口、能勢、贄(事務)
7	令和3年3月8日	FD·SD 講演会 日時:3月8日 午後1:30 オンライン開催 講師:鶴見 太郎 氏 (東京大学教養学部 准 教授) 演題:試験という試練 一東京大学におけるオ ンライン定期試験の実 践一	FD·SD	大津委員長、飯田、井藤、打矢、岡本(浩)、北垣、黒野、小森、神野、田口、永松、灘井、能勢、野田、長谷川、松本、柳澤、山田、伊東、今西、牛田、加藤、豊田、根岸、半谷、間宮、水本、青木、植田、酒井、榊原、武永、日坂、福井、守屋、吉見
8	令和3年3月15日	第 5 回 FD 委員会	FD	大津委員長、飯田、井藤、黒野、 神野、田口、能勢、贄(事務)
9	令和3年3月18日	FD 報告会	FD·SD	飯田、井藤、打矢、梅田、大津、 岡本(浩)、小田、金田、亀井、 北垣、黒野、小森、神野、田口、 築山、永松、灘井、丹羽、能勢、 野田、長谷川、早川、原、湯川、 平松、松本、森、柳澤、山田、浩田、 一野、八里田、神野、 田、(誉)、奥田、加藤、 果中、 一川、 大田、(一川、 大田、 一川、 大田、 村田、 一川、 西井、 西川、 田、 一川、 西井、 西川、 西川、 一川、 西川、 西川、 西川、 西川、 西川、 西川、 西川、 西川、 西川、 西

学部・研究科・センター (薬学研究科) 推進組織名 (大学院薬学研究科 FD・SD 委員会)

1. 令和2年度の活動報告

1) 大学院薬学研究科 FD·SD 委員会の活動方針と目標

薬学研究科における教育の質の向上を図るため、薬学研究科 FD·SD 委員会が中心となって FD·SD 活動を推進する。この活動を通じて研究科全教員が実効性の高い授業改善を進めるとともに、所属学生の研究活動が活性化されるよう教育遂行能力や指導力の向上を図る。

2) 令和2年度のFD·SD委員会の活動内容

以下について活動を行った。(行っている。)

- 教員・学生に対する授業評価アンケートの実施と評価のフィードバック
- 教員・学生に対する特殊研究評価アンケートの実施と評価のフィードバック
- 副指導教員との面談の実施
- 3) FD·SDの取り組みを推進する具体的な活動実績
 - I. 授業評価アンケートを活用した今後の授業改善について

令和2年度「特論」科目(講義)に関するアンケートを前期・後期の終了時にそれぞれ実施した。アンケート結果を担当教員に配布し、次年度のシラバスや授業内容・方法の改善へ向けた情報としての利用を促した。

Ⅱ. 特殊研究評価アンケートについて

3月初旬に実施する特殊研究成果発表会の後に特殊研究評価アンケート調査を予定しており、結果を教員・学生双方にフィードバックする予定である。

Ⅲ、副指導教員との面談について

昨年度に引き続き、副指導教員との面談機会を設け、主指導教員とは異なる多様な助言が 得られるような環境づくりを推進した。

IV.特論(大学院講義)の開講時期の変更について

平成29年度まで毎年開講していた全5専修分野の特論を、一昨年度から3専修分野と2専修分野に分けて隔年開講とし、取得年次を単年から複数年に変更した。学生からは、各講義に2学年の学生が受講することで学年を越えた交流や学び合いの機会が増え、業務都合による単位取得機会を逸する不安が解消できたとの声を聞いている(特に社会人学生の場合)。

一方、教員からは、受講学生数が倍増し講義が活性化したと好評のようである。

2. 今後の課題、方向性

(1) 授業改善へ向けたアンケートの実施

次年度も今年度と同様に大学院講義に対するアンケートを実施する。学生・教員双方からの要望や改善点を大学院運営委員会で報告・共有化し、講義が学生にとっての継続的な学びの場となるよう講義内容や実施方法を改善していく。また、必要に応じて、大学院講義の在り方について、学部FD委員会と協同し、FDワークショップの実施を検討する。

(2)「教育」の工夫や実践を知る機会の提案、提供

FD 講演会の開催と教員への研修機会の提供は、今後の検討課題である。学部との共催も視野に入れ検討したい。

(3) 特論の開講時期を変更したことに対するアンケートの実施

特論の開講時期を隔年としたのち、昨年度で開講科目が一巡し、学生と教員の双方ともおおむね好評のようである。今後も学生及び教員に対してアンケート調査を実施し、不具合などがあれば次々年度へ向け、さらなる改良を図っていく。

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和2年9月3日	令和2年度 前期授業評価アンケートについて	FD·SD	全学生 平松正行、大津史子、岡本浩一、 亀井浩行、丹羽敏幸、北垣伸治、 築山郁人、永松 正、灘井雅行、 能勢充彦、野田幸裕、原 脩、 柳澤 聖、脇田康志、衣斐大祐、 奥田知将、加藤美紀、小島良二、 坂井健男、田辺公一、半谷眞七子、 間宮隆吉
2	令和2年 9月~10月	副指導教員との面談	FD·SD	全学生 平松正行、井藤千裕、岡本 浩一、 永松 正、灘井雅行、早川伸樹、 山田修平、柳澤 聖、脇田康志、 衣斐大祐、加藤美紀、栗本英治、 半谷眞七子、高谷芳明、根岸隆之
3	令和3年 2月初旬(予定)	令和2年度 後期授業アンケートについて	FD·SD	全学生 柳澤 聖、築山郁人
4	令和3年 3月初旬(予定)	令和2年度 特殊研究評価アンケートについて	FD·SD	全学生 【主指導教員】 井藤千裕、大津史子、小田彰史、 金田典雄、亀井浩行、神野透人、 灘井雅行、丹羽敏幸、能勢充彦、 野田幸裕、平松正行、湯川和典

学部・研究科・センター (都市情報学部) 推進組織名 (都市情報学部 FD・SD 委員会)

1. 令和2年度の活動報告

≪活動方針≫

社会人基礎力診断テストを継続的に実施することにより、学生の成長度合いを組織的に確認 し、学生の修学意欲を向上させる取組として活用していく。

社会人基礎力診断テストにおける入学から卒業までの推移把握を実施し、経年比較による在 学生の傾向を分析し、その結果を全教員に共有する。

外部調査(アセスメントテスト(GPS-Academic))により、学生の学修成果を可視化し、 学年間での比較、学年進行による学修進捗確認を通じて、専門科目、ゼミナール等での学生指 導に役立てる。

≪目標≫

学生の成長推移、学修進捗を組織的に分析確認することにより、全教員が授業における課題、 工夫を明確にし、特にゼミナール運営の工夫に取り組み、改善に繋げることによって学生の成 長に役立てる。

≪活動内容≫

①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善

全学年の学生を対象に社会人基礎力診断テストを実施し、集計結果を教授会で共有した。 各教員が集計結果を活かしてゼミナール実施方法を工夫し、ゼミナールでの指導による学生 の研究力向上、プレゼンテーション能力向上に繋げる。

②その他学部独自の取組(SD 含む)

授業改善アンケートの対象科目を1教員2科目以上で実施し、フィードバックされた結果 を各教員が授業改善に繋げる。

ゼミナールにおいては、中間発表会、卒業論文発表会を実施することで、研究力、プレゼンテーション能力等の成長度についての検証をする。

在学生の状況や様子、講義受講状況を報告しあうことで、情報共有、情報交換を活発に行うことによって、学生の修学支援に繋げる。

2. 今後の課題、方向性

都市情報学部 FD・SD 委員会を中心として、学部内関連委員会との連携による系統的な取組の検討・実施を実現する。具体的には、講義・ゼミナール運営の工夫・改善点についての意見交換、学生の受講状況等についての情報共有を通して、教育の組織的な改善に繋げていくための取組の場とする。

本学部が求める人材養成目的を達成できる、全員参加型の柔軟的な教育プログラムの構築を

目指す。1年次に実施するアセスメントテスト(GPS-Academic)後にこのプログラムを実施することにより、次の受検機会(3年次後期)までの間に、受検者自身に成長度合いを実感させられる材料となり、進路選択の志向が明確になること、各種活動に対して自信を持つことなどが期待できる。

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和2年4月6日	社会人基礎力診断テストを WebClass で実施することを検討し、教授会 (4/9) へ提案した。	FD	酒井、亀井、赤木
2	令和 2 年 5 月28日	社会人基礎力診断テストの回収率の 説明、未受検者への督促を確認した。 授業改善アンケートの実施、シラバ スの見直しを報告した。	FD·SD	鎌田、赤木、稲葉、宇野、大野、 亀井、酒井、杉浦(真)、鈴木(淳)、 張、手嶋、西野、昇、福島、水野、 森杉、山谷、若林、杉浦(伸)、 鈴木(千)、田口
3	令和2年6月2日	社会人基礎力診断テスト(1年次) 分析結果の共有、前期授業改善アン ケート実施について検討し、教授会 (6/25) へ提案した。	FD	酒井、亀井、赤木
4	令和2年7月20日	社会人基礎力診断テスト (2・3・4年次) の回収率と分析結果を確認し、教授会 (7/30) へ共有した。	FD·SD	酒井、亀井、赤木
5	令和2年8月7日	第9回FD学習会 「遠隔授業におけるWebClassの活 用」へ参加した。	FD	宇野、亀井、昇、酒井、張、杉浦(真)、 手嶋、福島、西野、鈴木、杉浦(伸)
6	令和2年9月3日	3年次生対象アセスメントテスト (GPS-Academic)の実施を確認し教 授会(9/3)へ提案した。 令和3年度入学前教育の実施につい て検討した。	FD	酒井、亀井、赤木
7	令和2年9月9日	第10回 FD 学習会 「WebClass と Google サービスを用 いた遠隔授業」へ参加した。	FD	酒井、鎌田、西野、杉浦(伸)
8	令和 2 年 9 月24日	令和3年度入学前教育の実施方法を 提案し、教授会(9/24)で報告した。	FD	酒井、亀井、赤木
9	令和 2 年10月 8 日	令和3年度入学前教育の実施方法を確認した。 アセスメントテスト (GPS-Academic) の受検状況を共有した。 大学教育開発センター委員会による遠隔授業に関するアンケート実施結果を確認し、教授会 (10/22) で共有した。	FD·SD	酒井、亀井、赤木

回	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
10	令和 2 年10月28日	第11回 FD 学習会 「数理・データサイエンス・AI 教育 の必要性と実践」へ参加した。	FD	赤木、酒井、昇、鎌田、手嶋、大野、 島田、山谷、宮本、杉浦(伸)
11	令和2年11月7日	第22回 FD フォーラム 「コロナ禍における教育の質保証」へ 参加した。	FD	酒井、杉浦 (伸)
12	令和 2 年12月17日	事業計画書における内部質保証関連 項目の進捗・達成度を確認した。	FD	酒井、亀井、赤木
13	令和3年1月14日	『授業改善の達成度に関する評価アンケート』の項目を確認し、専任教員に教授会(1/21)での回答を依頼した。	FD	酒井、亀井、赤木
14	令和3年1月21日	ベネッセ担当者によるアセスメント テスト (GPS-Academic) の受検結果 と分析結果についての解説を受けて、 組織的な教育への展開について確認 した。	FD·SD	鎌田、赤木、稲葉、宇野、大野、 亀井、柄谷、雑賀、酒井、杉浦(真)、 鈴木(淳)、張、手嶋、西野、昇、 福島、水野、森杉、山谷、若林、 杉浦(伸)、鈴木(千)、田口
15	令和3年2月4日	『授業改善の達成度に関する評価アンケート』を集計し、分析結果を確認した。アセスメントテスト(GPS-Academic)の受検結果と分析結果について、配付資料により振り返りと課題を確認した。	FD·SD	酒井、亀井、赤木

学部・研究科・センター	(都市情報学研究科	
推進組織名	(大学院学務委員会)

1. 令和2年度の活動報告

≪活動方針≫

- 1) 大学院生の専門知識や問題解決力の向上と社会人基礎力のスキルアップを目指し、「社会 人基礎力育成プログラム」への参加を促すとともに、社会人基礎力調査を継続的に実施す る。
- 2) 成績評価・研究進捗の評価・論文審査など、大学院修了に向けた研究プロセスの中で、研究指導担当者としての関わり方、研究指導の効果・適切性などを確認するとともに、研究者養成における課題の検討と改善について FD 活動の継続的な取り組みとする。
- 3) 個別の研究指導のなかでは、研究者として研究推進に関わりながら、研究発表の活性化を 促し、修士論文や博士論文の成果向上に繋げる。

≪目標≫

- 1) 社会人基礎力に必要な「基礎学力」や「専門知識」などの『技術的能力』に加え、「コミュニケーション能力」や「バイタリティー」、「積極性」、「協調性」などの『行動能力』を意識させるため、社会人基礎力診断テストを年2回程度行う。
- 2) 大学院入学後、遅くとも半年以内に研究テーマおよび研究計画書を主査教員の指導で作成するとともに、副査を含めた研究に関するディスカッションの機会を学生自ら計画し、実施する。
- 3) 公開講座の参加を推奨し、討論や質疑に積極的に参加する。
- 4) 大学祭や公開講座での学部学生や学外参加者に対する研究発表を推奨する。
- 5) 年度末に行われる研究報告会(中間発表および審査発表)に、すべての大学院生および教 員の参加を促し、学生相互で研究報告内容の評価をする。
- 6) すべての大学院教員に教室内での座学に留まらず、少なくとも半年に1回以上の学外での 体験学習や外部講師とのディスカッションの機会の設定を推奨する。

≪活動内容≫

①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善

修士課程および博士後期課程の1年次を対象として実施する「研究中間発表会」においては、聴講者が共通の観点での評価を行い、その評価結果を、研究指導教員を通じて発表者へフィードバックする。発表者は評価結果を受け止めながら、研究の深化、研究者としての成長をはかるとともに論文の完成を目指し、審査発表会に向けて発表技術の向上に努める。

②その他学部独自の取組(SD 含む)

研究倫理教育を徹底し、eL CoRE の修了証書提出を義務付けている。

2. 今後の課題、方向性

- 1) 社会人基礎力のスキルアップのための「社会人基礎力育成プログラム」への参加を推奨し、修士論文や博士論文の成果向上の定期的な検証を継続的に行う。
- 2) 大学院修了時アンケートおよび大学院生満足度調査の結果から、学生の学習成果、意見・要望等を把握し改善に努めるとともに、学部 FD・SD 委員会との連携の下、組織的な取り組み・改善に繋げていく場とする。
- 3) 修了後の進路に向けて、大学院生を対象とした就職セミナー、キャリアアップ講座などを 実施し、研究指導とともに進路指導を行う。

回	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和2年5月12日	大学院生を対象としたFD活動について検討を開始した。	FD	亀井、杉浦、昇、福島、森杉
2	令和2年7月23日	社会人基礎力診断テスト結果 を報告した。	FD	亀井、杉浦、昇、福島、森杉
3	令和3年1月14日	・論文公聴会・論文発表会における『聴講者評価』の実施目的について、ディプロマポリシーの達成度確認を含めることを確認した。 ・大学院生を対象としたアンケート実施について、設問項目を確認した。	FD	亀井、杉浦、昇、福島、森杉
4	令和3年1月21日	学位審査に先立ち、学位審査 基準に則り、ディプロマポリ シーとの確認が必要であるこ とを確認した。	FD·SD	鎌田、亀井、赤木、稲葉、宇野、 大野、柄谷、雑賀、酒井、島田、 杉浦、鈴木

学部・研究科・センター(人間学部)
推進組織名(人間学部 FD 委員会)

1. 令和2年度の活動報告

人間学部の FD·SD 活動は、委員長1名、委員4名、人間学部教務事務職員1名から成る人間学部 FD 委員会を中心に実施されている。

本年度の活動目標は、教員団の教育・研究を含めた資質・能力向上のための①教育内容および 教育環境の改善、②教育技法の改善・向上のための具体的活動、③教員の資質開発を図るための 組織的な研修である。

本年度前期は、新型コロナウイルス感染症対策のため遠隔授業実施になったことを受け、遠隔授業の円滑な実施を緊急の目標に掲げた。WebClassの活用法を学ぶFD学習会やZoomを使ったグループ学習についてのFD学習会を企画、開催した(4月16日、23日、5月14日)。これらの学習会は遠隔授業開始前の準備として、また授業開始後は教育の質確保のために大いに役に立った。

学修成果の把握を目的とする外部調査は、GPS-Academic を利用し、1年生と3年生を対象に 実施した。1年生は前期に実施し、ほぼ全員が受験した。3年生は後期に実施した。

人間学研究科と合同で第1回FDフォーラムを開催した(7月30日)。令和元年度に1年生に対して実施したGPS-Academicの集計結果についてベネッセiキャリアの担当者からの報告を受け、人間学部教育の検証を行った。併せて、学修成果の可視化について質疑応答を行った。第2回FDフォーラム(3月1日)では、遠隔授業に関するアンケート(人間学部学生、教員対象)の集計結果をもとに、遠隔授業の問題点と今後の教育のあり方について議論を行った。

2. 今後の課題、方向性

授業に関するアンケート、学修成果の把握を目的とする外部調査(GPS-Academic)などを通じて、人間学部の教育内容および教育環境を検証し、それをもとに、教育改善に向けた取り組みを検討、実施する。

□	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和2年4月16日	第1回学部・研究科合同FD 学習会 一遠隔授業開始準備として WebClassの基本を学ぶ一	FD·SD	笠井、一ノ谷、安藤、伊藤(康)、 伊藤(俊)、岡戸、加藤、神谷、 加茂、櫻井、塩﨑、志村、谷口、 西村、畑中、船田、水尾、宮嶋、 和田、ウエストビィ、ビーチ[教員] 山田、大西[職員]
2	令和2年4月23日	第2回学部・研究科合同FD 学習会 ―WebClass「テスト/アン ケート」、「成績管理」の活用 法を学ぶ―	FD·SD	笠井、一ノ谷、安藤、伊藤(康)、 伊藤(俊)、岡戸、加藤、神谷、 加茂、櫻井、塩﨑、谷口、西村、 畑中、船田、水尾、宮嶋、和田、 ウエストビィ、ビーチ[教員] 山田、大西[職員]
3	令和2年5月14日	第3回学部・研究科合同 FD 学習会 一Zoom ブレイクアウトルー ムの活用法を学ぶ一	FD·SD	一ノ谷、笠井、宮嶋、安藤、 伊藤(俊)、伊藤(康)、岡戸、神谷、 塩﨑、水尾、船田、和田、櫻井、 志村、畑中、ウエストビィ、加藤、 ビーチ [教員] 大村 [職員]
4	令和 2 年 6 月26日	第1回人間学部・人間学研究 科合同 FD 委員会・2020年度 GPS-Academic 実施方法について・FD フォーラム (7月30日) の内容について	FD·SD	笠井、一ノ谷、加茂、岡戸、志村、 谷口、宮嶋 [教員] 大村、大西 [職員]
5	令和2年7月30日	第1回学部・研究科合同FD フォーラム ・GPS-Academic 集計結果報 告 ・GPS-Academic の集計結果 からみる人間学部の学修の 傾向について	FD⋅SD	一ノ谷、笠井、宮嶋、安藤、 伊藤(康)、伊藤(俊)、岡戸、神谷、 加茂、塩﨑、谷口、畑中、船田、 水尾、和田、櫻井、西村、志村、 加藤、ウエストビィ、ビーチ [教員] 大村、大西 [職員]
6	令和2年9月17日	第2回人間学部FD委員会 ・令和3年度推薦合格者入学 前オリエンテーションについて ・GPS-Academic 1年生実施 分の集計結果報告と検証 ・GPS-Academic 2020年度3年 生実施要領	FD⋅SD	一ノ谷、岡戸、志村、谷口、 宮嶋 [教員] 大西 [職員]
7	令和 2 年10月 8 日	第13回人間学部教授会 ・遠隔授業に関するアンケート集計結果中間報告 ・GPS-Academic 1年生実施 分集計結果報告	FD⋅SD	安藤、一ノ谷、伊藤(康)、伊藤 (後)、岡戸、笠井、神谷、加茂、 塩﨑、西村、船田、水尾、宮嶋、 和田、ウエストビィ、ビーチ、加藤、 櫻井、志村、畑中[教員] 陪席:山田、大西[職員]

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
8	令和2年11月5日	第3回人間学部FD委員会 ・「FD/SD取組を推進する組織の活動報告書」作成について ・2020年度事業計画について	FD·SD	一ノ谷、岡戸、志村、谷口 [教員] 大西 [職員]
9	令和3年1月28日	第4回人間学部・人間学研究 科合同 FD 委員会 ・学部、研究科合同 FD フォー ラムについて	FD·SD	笠井、加茂、一ノ谷、岡戸、宮嶋、 谷口、志村 [教員] 久徳、大西 [職員]
10	令和3年1月28日	第5回人間学部FD委員会 ・遠隔授業アンケート結果集 計について	FD·SD	一ノ谷、岡戸、宮嶋、谷口、志村 [教員]大西 [職員]
11	令和3年3月1日	第2回学部・研究科合同 FD フォーラム ・遠隔授業と授業改善 一人間学部学生・教員アンケー ト結果を参考に一	FD·SD	一ノ谷、笠井、宮嶋、安藤、 伊藤 (康)、伊藤 (俊)、岡戸、神谷、 加茂、谷口、畑中、原田、船田、 水尾、和田、櫻井、西村、志村、 加藤、ウエストビィ、ビーチ [教員] 山田、大西 [職員]

^{*}新型コロナウイルス感染予防策として、第4回(メール審議)を除く全部の回を Zoom 利用で行った。

学部・研究科・センター (人間学研究科) 推進組織名 (人間学研究科 FD 委員会)

1. 令和2年度の活動報告

人間学研究科の FD·SD 活動は、研究科主任教授、委員 2 名(内 1 名は学部 FD 委員長を兼務) および研究科担当の教務事務職員 1 名の 4 名からなる FD 委員会を中心に実施されている。

本年度の活動の目標は、教員団の教育・研究を含めた資質・能力向上のための①教育内容および教育環境の改善、②教育技法の改善・向上のための具体的活動、③教員の資質開発を図るための組織的な研修である。計画内容(具体的取り組み)[達成度指標] は、以下の通りである。(1)学部のFD委員会と合同で教員の資質向上につながるFD活動を実施する[実施したFD活動回数]。(2)大学院生に対する聴き取り調査を行い、問題点を明らかにするとともに、要望への対応策を検討する「聴き取りの実施割合、配慮事例数]。

教授法の充実等については、学部と合同での FD 学習会、FD フォーラムを実施した。前期は、コロナウイルス感染症対策のため、大学院の授業についても遠隔実施になったため、FD 学習会は WebClass の利用法をはじめとして、授業実施、質確保等の点で大変役立った。

1年生に対しては、面接による授業アンケートを実施した。遠隔実施であることや学生が1名だけであることからくる制約は感じられたものの、授業に関しては概ね良好な反応であった。第2回FDフォーラム(3月1日)では、遠隔授業に関するアンケート(人間学部学生、教員対象)の集計結果をもとに、遠隔授業の問題点と今後の教育のあり方について議論を行った。

2. 今後の課題、方向性

本研究科における FD・SD 活動については、従来のように院生を対象にした授業・研究環境に関するアンケートを継続すると同時に、講義のあり方や研究指導のあり方を検討する。新たな大学院 3 ポリシーに沿った教育、特にディプロマポリシーへの対応についても視野に入れる。

回	日 程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和2年4月16日	第1回学部・研究科合同FD 学習会 一遠隔授業開始準備として WebClassの基本を学ぶ一	FD·SD	笠井、一ノ谷、安藤、伊藤(康)、 伊藤(俊)、岡戸、加藤、神谷、 加茂、櫻井、塩﨑、志村、谷口、 西村、畑中、船田、水尾、宮嶋、 和田、ウエストビィ、ビーチ [教員] 山田、大西 [職員]
2	令和2年4月23日	第2回学部・研究科合同FD 学習会 ―WebClass「テスト/アン ケート」、「成績管理」の活用 法を学ぶ―	FD·SD	笠井、一ノ谷、安藤、伊藤(康)、 伊藤(俊)、岡戸、加藤、神谷、 加茂、櫻井、塩﨑、谷口、西村、 畑中、船田、水尾、宮嶋、和田、 ウエストビィ、ビーチ [教員] 山田、大西 [職員]
3	令和 2 年 5 月14日	第3回学部・研究科合同 FD 学習会 ―Zoom ブレイクアウトルー ムの活用法を学ぶ―	FD⋅SD	一ノ谷、笠井、宮嶋、安藤、 伊藤(俊)、伊藤(康)、岡戸、神谷、 塩﨑、水尾、船田、和田、櫻井、 志村、畑中、ウエストビィ、加藤、 ビーチ [教員] 大村 [職員]
4	令和2年6月25日	第4回研究科委員会 ・前期 FD 授業アンケートに ついて(アンケート実施方法)	FD	安藤、一ノ谷、伊藤(康)、伊藤(俊)、 岡戸、笠井、神谷、加茂、塩﨑、 西村、船田、水尾、宮嶋、櫻井、 畑中[教員] 山田、大村[職員]
5	令和2年6月26日	第1回人間学部・人間学研究 科合同 FD 委員会 ・2020年度 GPS-Academic 実 施方法について ・FD フォーラム(7月30日) の内容について	FD·SD	笠井、一ノ谷、加茂、岡戸、志村、 谷口、宮嶋 [教員] 大村、大西 [職員]
6	令和2年7月30日	第1回学部・研究科合同 FD フォーラム ・GPS-Academic 集計結果報告 ・GPS-Academic の集計結果 からみる人間学部の学修の 傾向について	FD·SD	一 ノ 谷、笠 井、宮 嶋、安 藤、 伊藤 (康)、伊藤 (俊)、岡戸、神谷、 加茂、塩﨑、谷口、畑中、船田、 水尾 、和田、櫻井、西村、志村、 ウエストビィ、加藤、ビーチ [教員] 大村、大西 [職員]
7	令和2年9月3日	第7回研究科委員会 ・後期 FD 授業アンケートに ついて	FD	安藤、一ノ谷、伊藤(康)、伊藤(俊)、 岡戸、笠井、神谷、加茂、西村、 船田、水尾、宮嶋、櫻井、畑中[教員] 山田、久徳[職員]
8	令和3年1月28日	第4回人間学部・人間学研究 科合同 FD 委員会 ・学部、研究科合同 FD フォー ラムについて	FD·SD	笠井、加茂、一ノ谷、岡戸、宮嶋、谷口、志村 [教員] 久徳、大西 [職員]

□	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
9	令和3年3月1日	第2回学部・研究科合同 FD フォーラム ・遠隔授業と授業改善―人間 学部学生・教員アンケート 結果を参考に―	FD·SD	一ノ谷、笠井、宮嶋、安藤、伊藤 (康)、伊藤(俊)、岡戸、神谷、 加茂、谷口、畑中、原田、船田、 水尾、和田、櫻井、西村、志村、 加藤、ウエストビィ、ビーチ [教員] 山田、大西 [職員]

^{*}新型コロナウイルス感染予防策として、第4回(メール審議)を除く全部の回を Zoom 利用で行った。

学部・研究科・センター (外国語学部) 推進組織名 (外国語学部 FD・SD 委員会)

1. 令和2年度の活動報告

①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善

a. 1年生と3年生を対象とした外部調査としてGPS-Academic を実施する計画を立てた。その結果を分析し、学生の学修成果を可視化する予定である。

②その他学部独自の取組(SDを含む)

a. 前期授業改善アンケート 大学教育開発センター委員会で指定された科目について、授業改善アンケートを行った。

b. 第1ワークショップ:「Zoom でのオンライン授業」 このワークショップでは Zoom の機能を紹介した。特に、アクティブ・ラーニングを実施 する方法、チャット、会議室、録画機能について取り扱った。

発表者:ウィキン、柳沢

c. 第2ワークショップ:「オンライン授業:成功、失敗、問題点」 新型コロナウイルス感染症拡大の影響はしばらく続く可能性があるため、後期においても遠 隔授業が実施されることが想定される。教職員間でアイデアを出し合うことにより、また、 相互に失敗例、成功例を学ぶことにより、遠隔授業の内容や方法の改善が期待される。 発表者: 冨岡、クマーラ、西尾、岩井

d. 第3ワークショップ:「Something new that I'm trying in my classes this semester」 英語必修科目の授業法を改善するため、6人の教員がアイデアを発表した。

発表者:ロス、ディキンソン、ガラカー、ホール、ロジャース、ウィキン

e. 第4ワークショップ:「Google Forms を使用した、オンライン小テストとアンケートの作成」 Google Forms を使用した、小テストやアンケート等の作成方法を学んだ。

発表者:ウィキン

f. Teacher Handbook の作成 教員の知識や技能を向上できるように Teacher Handbook を作成する(予定)。

g. 第5ワークショップ:「新バージョン WebClass セミナー」(予定)

2. 今後の課題、方向性

次年度に向けた FD·SD 取組推進組織及び FD 活動 (SD 活動を含む) の課題は下記の通りである。

- 英語必修科目のコーディネーションを続けること。
- 授業改善アンケートを実施すること。
- 教員相互に教授法に関する意見を交換する機会を作ること。

• 教員の知識や技能を高めるための Teacher Handbook を作成すること。

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和2年4月6日	第1回FD 委員会 (メール審議) 1. FD 委員会の目標 2. Peer Observation Program 3. Zoom ワークショップ 4. 5-minute presentations	FD·SD	外国語学部 FD 委員会 (ウィキン・岩井・堅田・呉・豊田)
2	令和2年4月9日	「Zoom でのオンライン授業」 のワークショップ	FD⋅SD	藤田、二神、堅田、岩井、西尾、津村、呉、富岡、クマーラ、マイネハン、柳沢、藤原、ウィキン、プレーバー、宮崎、豊田、ロジャース、鈴村
3	令和 2 年 6 月26日	第2回FD 委員会 (メール審議) 1. FD·SD 活動第2:5-minute presentations	FD·SD	外国語学部 FD 委員会 (ウィキン・岩井・堅田・呉・豊田)
4	令和2年7月9日	「オンライン授業:成功、失敗、 問題点」ワークショップ	FD·SD	国岡、プレーバー、豊田、津村、マイネハン、柳沢、ロジャース、二神、クマーラ、池、藤田、藤原、鈴村、呉、堅田、岩井、西尾、ウィキン、鈴木
5	令和2年7月14日	第3回FD委員会(メール審議)1. 遠隔授業アンケートへの 意見について	FD·SD	外国語学部 FD 委員会 (ウィキン・岩井・堅田・呉・豊田)
6	令和 2 年10月 8 日	 第4回FD委員会 1. FD取組を推進する組織の変更 2. 英語教員FDワークショップ 3. 令和2年度後期のFD活動 	FD·SD	外国語学部 FD 委員会 (ウィキン・岩井・堅田・呉・豊田)
7	令和 2 年10月19日	「Something new that I'm trying in my classes this semester」ワークショップ	FD	ロス、ディキンソン、ガラカー、 ホール、ロジャース、ウィキン、 マイネハン、西尾、宮崎、山口、 ボイズ、児玉
8	令和3年1月28日	「Google Forms を使用した、 オンライン小テストとアン ケートの作成」ワークショッ プ	FD·SD	富岡、豊田、津村、柳沢、ロジャース、 二神、クマーラ、池、藤田、藤原、 鈴村、呉、堅田、岩井、西尾、 ウィキン、宮崎、鈴木、有薗、 山木

学部・研究科・センター (総合学術研究科) 推進組織名 (総合学術研究科教育検討部会)

1. 令和2年度の活動報告

≪①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善≫

総合学術研究科の教育改善のために、入学から卒業までの学生の学びや成長を一貫して把握 しながら構成員全員が議論・実践できるようサポートする。

≪②その他学部独自の取組(SD 含む)≫

- 「令和2年度 総合コアプログラム」の開催(秋季:11月28日)
- 「令和2年度 海洋実習」の実施

三河湾において船舶による海洋観測を行い、愛知県水産試験場にて最新の海洋環境に関連する研究を学ぶ予定であったが、新型コロナウィルスの感染状況の悪化に伴い中止となった。

2. 今後の課題、方向性

教育改善に向けて構成員全員が議論・実践できるよう、教育検討部会を中心に検討を継続する。 より積極的に議論の場を設けることが今後の課題である。

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和2年6月4日	2020年度総合学術研究科事業計画書(部署版)の作成について	SD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、原田(委任)、日比野(委任)、平松、森、和田、衣斐、内田、志村、神藤
2	令和2年6月18日	令和2年度9月修了論文審査委員会 について	FD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、 原田、日比野(委任)、平松、森、 和田(委任)、衣斐(委任)、内田、 志村、神藤 陪席:井上、土橋、山内
3	令和2年7月2日	2020年度総合学術研究科事業計画書(部署版)の作成について	SD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木(委任)、 原田(委任)、日比野(委任)、平松、 森、和田、衣斐(委任)、内田(委任)、 志村、神藤 陪席:井上、土橋、山内

日	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
4	令和 2 年10月 8 日	令和2年度秋季総合コアプログラム における講演テーマと外部講師の検 討について	FD·SD	田中、加藤、伊藤(委任)、景山(委 任)、鈴木(委任)、原田(委任)、 日比野(委任)、平松、森、和田(委任)、 衣斐、内田、志村(委任)、神藤 陪席:鷲見、山内、中村
5	令和 2 年10月29日	学校教育法施行規則の改正に伴う大 学院3ポリシーの見直しについて	FD	田中、加藤、伊藤(委任)、景山、 鈴木、原田、日比野(委任)、平松、 森(委任)、和田(委任)、衣斐、 内田、志村、神藤 陪席:鷲見、山内、中村
6	令和 2 年11月19日	2021年度総合学術研究科事業計画 (部署版) の作成について	SD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、 原田、日比野(委任)、平松、森、 和田、衣斐、内田、志村、神藤 陪席:鷲見、山内、中村
7	令和2年12月3日 (メール会議)	学校教育法施行規則の改正に伴う大 学院3ポリシーの見直しについて	FD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、 原田、日比野、平松、森、和田、 衣斐、内田、志村、神藤 陪席:鷲見、土橋、山内、中村
8	令和 2 年12月17日	・名城大学大学院修了時アンケートの実施について ・総合学術特論 I・II の内容および 運営について ・学校教育法施行規則の改正に伴う 大学院 3 ポリシーの見直しについ て	FD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、 原田、日比野(委任)、平松、森、 和田、衣斐(委任)、内田、志村、 神藤 陪席:鷲見、土橋、山内、中村
9	令和3年1月21日	学校教育法施行規則の改正に伴う大 学院3ポリシーの見直しについて	FD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、原田、日比野(委任)、平松、森、和田、衣斐(委任)、内田、志村、神藤陪席:鷲見、土橋、山内、中村
10	令和3年2月18日	学校教育法施行規則の改正に伴う大 学院3ポリシーの見直しについて	FD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、 原田、日比野(委任)、平松、森、 和田、衣斐、内田、志村、神藤 陪席:鷲見、土橋、山内、中村

学部・研究科・センター (教職センター) 推進組織名 (教職センターFD推進委員会)

1. 令和2年度の活動報告

今年度の活動方針は次のとおりである。

本大学の教員養成理念は『謙虚で豊かな包容力と力強い実行力を持ち、誰からも信頼される 教員』を養成することにある。この教員養成理念に基づき、教職センター専任教員が担当する 教職に関する科目の授業内容・方法の改善を行う。

この方針のもと、活動目標は次のとおりである。

教員志望学生の実践的指導力の向上及び教員採用試験合格者の確保を目標に、教職に関する 科目の授業改善に向けた活動を企画し、運営する。

活動内容のうち「独自の取り組み」は次の二つである。

- (1)教職センターFD活動
- (2) 研究内容や教育内容の発表・交流

なお、教職センターでは「学生の学習成果を可視化する」マクロな指標として、教員採 用試験の現役合格者数を採用している。

実績に関わることは以下の5点である。

- (1) 現役学生の合格者数は29名(うち私立学校合格者0名)である(2020年12月大学協議会報告)。
- (2) 教職センターでは、これまで教務委員会や教職センター会議内でカリキュラムの改定やシラバスの見直しなどの授業改善に関わること(マクロレベルFD)を検討してきた。これに加えて、平成28年度からは教職センターFD活動と称し、個々の授業の改善についての方策(ミクロレベルFD)を教職センター会議後に行うこととした。
 - 教職センターFD活動では、一回につき一人の教職センター専任教員が、各自の授業実践や教職課程に関する今後の動向などについての報告を行い、その報告をもとに意見交換を行ってきた。今年度より実施となった新学習指導要領を踏まえつつ、自身が担当する授業の在り方、及び、教職課程全体に関わる在り方を考え合う場となっている。
- (3) 平成30年度からは、教職センター会議前の1時間を利用してFD活動を行うこととしたことで、開催時間がほぼ倍(40~50分)となり、発表も各回2名ができるようになった。これにより、より詳細な情報提供および議論が行われている。
- (4)研究内容や教育内容の発表・交流活動として、教職センターFD 推進委員会では、教職 センター懇談会による教職課程授業担当者(兼担教員、非常勤講師、教員採用試験勉強

会担当講師等)への発信・交流及び情報交換、『教職センター紀要』の公刊による研究成果のまとめと発表を行っている。

(5) また、学内だけの FD 活動に留まらず、学外の FD に関する学会や研修会にも積極的に 参加し、その知見を教職センターで共有し、センター教員の授業力の向上に努めている。

2. 今後の課題、方向性

(1) 教職課程科目におけるオンライン指導と対面指導を効果的に組み合わせた指導について 考えていきたい。

今回のコロナ禍を踏まえ、オンライン指導と対面指導の「ハイブリッドな指導法」の可能性を考察していく。また学生の学習意欲を向上させ、教員を志望する学生の主体的な学びを促進するために、積極的にアクティブ・ラーニング型授業を導入していく。オンラインによる指導も単に技術的な側面だけではなく、オンライン指導を利用することで、より学習効果が上がる方法を模索していきたい。二つの指導(オンライン指導と対面指導)をうまく組み合わせることによって、より主体的、対話的で深い学びを促進するような授業展開・授業形態となるよう工夫していく。

(2)「学生の学習成果を可視化する取り組み」について

これまで、教職センターでは「学生の学習成果を可視化する」マクロな指標として、 教員採用試験の現役合格者数を採用してきた。ここ数年、教員採用試験の採用者数が年 度によらずほぼ一定であったためである。しかし、教員採用試験の採用者数は退職教員 数と関係しており、今後は年度により、大きく変動する可能性がある。

このため、新たなマクロな指標が必要である。また、科目ごと、あるいは、年度ごとの受講生の実力の伸びを見ることができるミクロな指標を導入することも必要である。例えば、ある科目で授業内容・方法の改善を行ったとして、その科目を受講している学生達の成績が前年度と比べて伸びたかどうか、あるいは、ある科目を履修したとして、その学生達の教員としての資質・能力が伸長したかどうか、これらを定量的に評価することが必要である。

教職センターでは、平成28年度入学生から、学習ポートフォリオ「教職課程履修カルテ」を導入した。このカルテでは、教職課程履修生に修得科目の確認を行わせるとともに、個々の教職に関する科目に対する振り返りを行わせている。また、学年ごとに教員としての資質の自己評価を行わせている。これらの情報を用いることにより、学生の学習成果を可視化する新たな指標を開発できる可能性がある。

3. 活動記録

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和2年9月29日	令和2年度 FD活動について	FD·SD	曽山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口
2	令和2年10月27日	第1回FD活動 (嶋口、谷口准教授)	FD	曽山、井中、平山、竹内、木村、 谷口、嶋口
3	令和2年11月7日	大学教育開発センター主催 FD フォーラム	FD	曽山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口
4	令和 2 年11月24日	第2回FD活動 (木村、平山准教授)	FD	曽山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口
5	令和 2 年11月28日	教職センター懇談会	FD·SD	教職センター教員、教職課程授業 担当非常勤講師、勉強会講師、事 務職員
6	令和 2 年12月22日	第3回 FD、SD 活動 (竹内、片山教授)	FD	曽山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口
7	令和3年1月19日	第7回FD活動 (曽山、井中教授)	FD	曽山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口
8	令和3年 2月20,21,27,28日	第26回 FD フォーラム (主催 大学コンソーシアム京都)	FD	(参加予定:未定)

6. トピックス

第22回 FD フォーラム実施報告

令和2年11月7日(土)、「コロナ禍における教育の質保証」をテーマとして、FDフォーラムをリアルタイムでオンラインにより開催しました。講演概要は以下のとおりです。

講演 1. 「コロナ禍における教育の質保証ー教学マネジメント指針を踏まえてー」 立命館大学 教育開発推進機構 沖 裕貴 教授

令和2年1月22日の第152回大学分科会において、「教学マネジメント指針」が取りまとめられた。 これは、3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現を図るため、教学マネジメントの確立 に向けた取り組みを促すものである。

3つのポリシーのうち、特にディプロマポリシーにおいては、達成度を測る仕組みが必要であり、 観点別教育目標が有効である。観点別教育目標は、目標領域・目標類型に沿って教育目標を記述し たものである。

成績評価はルーブリックが効果的である。ルーブリックは、評価内容を明確にするツールである ため、学生の授業への関与及び公平性に対する認識を促し、クリティカルな思考を支援する。

コロナ禍における教育の実情として、授業外学習時間の増大、ブレンディッド・ラーニングの可能性、Webで拡がる新たなコミュニティの形成の可能性などがある一方で、学生の負担感の増大、成績評価の方法の変化などの課題もある。

講演 2. 「遠隔教育と教育の質向上のためのアプローチー WebClass を題材に一」 東京学芸大学 ICT センター 森本 康彦 教授

教育の質保証には、大きく二つある。1つは教育プログラムの質保証、2つ目は学生の学修成果 (アウトカムズ)による質保証であり、今回は後者について扱う。

そもそも「学ぶ」ということは、ただ暗記するのではなく、自ら考え、気づくことである。その ためには、講義を聞くだけの受動的な学びから、学習者による能動的な学びへ転換する必要がある。 そのツールとして学びのポートフォリオが非常に有効である。

ポートフォリオ作成にあたり、持ち運びやすさや編集、音声や動画も使用できる点からデジタルが有効であり、これらを可能にしたものが「e-ポートフォリオ | である。

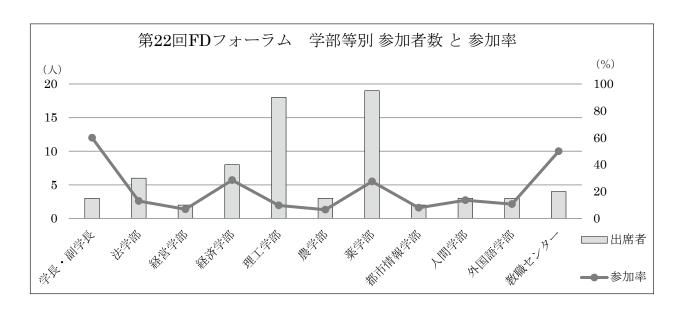
学生の相互評価は重要であり、教わるより教えるほうが学修効果は高い。また学びの振り返りも重要であり、これらは、「e-ポートフォリオ」の機能により、実現が可能である。機能が教育方法と適合しているか否かが、学修効果に影響するため、今回の新型コロナによる経験を通して、「e-ポートフォリオ」の重要性が高まっている。

参加者アンケート集計結果

1. 参加者のデータ

①参加者の属性(表)

	or each		令和2年度			令和元年度	
	所属等	出席者 (人)	在籍者 (人)	参加率 (%)	出席者 (人)	在籍者 (人)	参加率 (%)
	学長・副学長	3	5	60.0	4	5	80.0
	法 学 部	6	46	13.0	7	45	15.6
	経営学部	2	29	6.9	8	32	25.0
	経 済 学 部	8	28	28.6	20	29	69.0
名	理工学部	18	184	9.8	51	178	28.7
城	農学部	3	46	6.5	14	46	30.4
	薬 学 部	19	69	27.5	11	69	15.9
大	都市情報学部	2	25	8.0	7	27	25.9
学	人間学部	3	22	13.6	10	22	45.5
	外国語学部	3	28	10.7	5	26	19.2
	教職センター	4	8	50.0	8	8	100.0
	事 務 職 員	9	291	3.1	43	292	14.7
	その他	2	_	_	0	_	_
他	教 育 職 員	29			9		_
他大学等	事 務 職 員	31		_	21		_
等	その他	11	_	_	7	_	_
	計	153 (学内:82名)	781	19.6%	225 (学内:188名)	779	28.9%



2. アンケートデータ

(1) 実施概要

時: 令和2年11月7日(土) 13:00~14:30 Zoom 開催 Н

テーマ:「コロナ禍における教育の質保証」

容:コロナ禍における教育について、教育の質保証及び遠隔教育の観点から講演 内

師:立命館大学 教育開発推進機構 教授 沖 裕貴氏 東京学芸大学 ICT センター 教授 森本 康彦 氏

(2) アンケート概要

グーグルフォームにて、選択式及び自由記述形式による下記アンケートを実施した。

①所属・職種

②講演1:「コロナ禍における教育の質保証-教学マネジメント指針を踏まえて-」の 満足度・理解度

③講演2:「遠隔教育と教育の質向上のためのアプローチ - WebClass を題材に - 」の 満足度・理解度

- ④一番関心を持ったポイント・重要だと感じたポイントについて
- ⑤企画内容についての意見・感想
- ⑥テーマ、ご希望の講師(学内外問わず)について、意見・希望

3. 結果: (人)

	本	学		他大学		この供	人士
①所属・職種	教員	職員	教員	職員	その他	その他	合計
フォーラム参加者数	72	10	26	28	7	10	153
アンケート回答者数	37	2	11	12	0	8	70

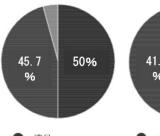
②講演1の満足度・理解度

25. 7% 31.4 70% 67.1%

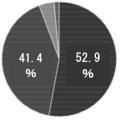
- まあまあ満足
- やや不満
- 不満

- 理解が深まった
 - まあまあ理解が深まった
- あまり理解が深まらなかった
- まったく理解が深まらなかった

③講演2の満足度・理解度



- 満足
- まあまあ満足 やや不満
- 不満



- 理解が深まった
- まあまあ理解が深まった
- あまり理解が深まらなかった
- まったく理解が深まらなかった

講演1:「コロナ禍における教育の質保証 - 教学マネジメント指針を踏まえて - |

- 講演2:「遠隔教育と教育の質向上のための アプローチ - WebClass を題材に - |
- 保証の実施・改善には、教員の多大な協力 が必要と感じた。
- ・シラバスにおける到達目標に関する記載の一・教育方略が小学校から大学までも共通であ ところで、試験や評価についてアナウンス すべきという点。コース・ルーブリックと いう点も興味深い。
- ・「学修者目線」への転換について理解が曖昧 だったが、「学修成果は学生のもの」という 言葉に取組を具体化するヒントが得られた。
- ・教学マネジメント指針に盛り込まれている ことを具体的に実現する方法として、また、 学位プログラムレベル・大学レベルでの FD に取り組むにあたって、コース・ルーブリッ クやカリキュラム・ルーブリック等につい て、組織的に取り組むことが一つの方法で あることがヒントになった。
- ・ルーブリックを用いて評価基準を客観化す る考え方はよく理解できた。ただ、教授内 容の多くが相互に関連している時、到達す べき組み合わせは非常に多岐にわたってい ることがある。このような場合に、適切な 基準を決めることは非常に難しいと感じる。 異なる大学で、似た科目を担当している教 員間での意見交換が必要になってくるので はないか。

- ・教学マネジメント指針を踏まえた教育の質|・ポートフォリオが単なる教育の質保証のた めのツールではなく、学修支援等との連動 の中で機能化すること。
 - ることを再認識した。また、一つの科目の 中だけで成立させなくても、ある系列の中 で、あるいは卒業までも含めて総合的に実 施すればいいということに気づかされたの で、視野を広く持ちたいと思った。
 - ·e-ポートフォリオは非常に重要だと思うが、 何を残し、何を共有すればよいのか、その 指針を教えていただけるとありがたかった。 現状、多くのデータがあるが、それを重要 度で分けられていない。
 - · process が重要であることは認識しており共 感した点ではあるが、正当に評価する方法 にはやはり悩む。学生への feed back につい ては行わなければと感じるが、研究にかか ると後回し、もしくは、割愛となることが 現状。
 - ・「氷山モデル」の概念について。森本先生の 説明のとおり、知識修得の結果だけに囚わ れず、思考力や判断力など、目に見えない 部分の学び手の力をどう評価し「見える化」 していくかが、教育に携わる者の課題なの かと思った。

⑤企画内容についての意見・感想(※一部抜粋・改稿を含む)

- ・現在の大学が取り組むべき2つの大きな課題(教学マネジメントの確立と、コロナ禍での遠 隔授業における教育の質保証)について、同時に学ぶことができ、大変有意義だった。
- ・沖先生の話から教育の質保証のフレームを理解し、森本先生の話から教育の質保証のための 評価のあり方を学んだように思う。2人とも、「学生が学ぶ」ことを大事にされていたので、 コロナ禍の中で学びの形が変わったとしても、その点をしっかりと見つめることが大切だと、 改めて感じた。

- ・教育の質の保証というよりも明確に学生へ指針や基準を示していくことで、双方の学びの度 合いを認識していくことが重要であることがわかった。ただし、今回のような明確な基準に 基づいての学習を学生にさせるのであれば、大学や教員によらず学習ができることになり、 国公立、私学と区別する必要がなくなるのではないかと感じた。
- ・内容がよかっただけに、時間が限定されていたのが残念だった。あるいは欲張らずに1テーマ、1講師だけに絞ってもよかったのではないかと思う。
- ・教育の質保証、という点では共通しているのかもしれないが、2つの講演が、少し内容の距離が遠いように思った。もう少し近しい内容だと、議論が深まるように思う。また、2件の講演で90分は、時間制約が大きすぎるように思った。
- ・総論的な講演でしたが、WebClass についての各論的な講演も聞きたかった。講演自体はとても参考になった。
- ⑥テーマ、ご希望の講師(学内外問わず)について、意見・希望(※一部抜粋・改稿を含む)
 - ・実験や実習等を遠隔で実施している大学での試みが紹介されるとよい。
 - ・短時間でも、前回の学習会であったようなグループワークを希望者のみであると、より理解が深まると思う。自身、フォーラム主催者で、グループ活動の時間を少なくすると、アンケートでもっと話したいという声がでる。そうした短時間の意見交流を経て、講演者への質問、意見、感謝のレベルも上がるのではないかと思う。
 - ・コロナ終息後も講義科目ではリモートでの授業を行うことの是非について、考えてみる企画 があればいいと思う。
 - ・遠隔授業に取り組めない学生達がそのまま脱落していかないようにするため、遠隔授業においてもっと積極性を促す何かしらの授業方法・評価方法などを、教えていただけると助かる。

当日配布資料

MEIJO UNIVERSITY

7th. Nov., 2020

第22回FDフォーラム (主催)名城大学大学教育開発センター (共催)名古屋六大学

コロナ禍における教育の質保証ー教学マネジメント指針を踏まえてー

立命館大学 教育開発推進機構 教授 (元中教書大学分科会教学マネジメント特別委員会委員)

沖 裕貴

2

自己紹介



- 名古屋大学理学部数学科卒業、京都教育大学大学院教育学研究 科修了。
- ・ 京都経済短期大学、山口大学を経て、2006年度より立命館大 学教育開発推進機構教授。
- 専門は高等教育論、教育工学。
- 教育・学修支援センター長(~2015)、同副センター長(2017~)
- ・日本高等教育開発協会:理事・会長、大学教育学会:代議員・ 理事、日本教育情報学会:理事、日本私立大学連盟教育研究委 員会委員、同FD推進ワークショップ運営委員会委員長、中央 教育審議会教学マネジメント特別委員会委員等を歴任。

2

3

教学マネジメントに係る指針

教学マネジメント特別委員会 (2018.12~2019.12)

- 教学マネジメントとは「大学がその教育目的を達成するために行う管理運営」と定義でき、大学の内部質保証の確立に志密接に関わる重要な営みてある。教学マネジメントの確立に当たっては、教育活動に用いることができる学内及び学生の資源は有限であるという視点や、学格者本位の教育の実現のために大学における時間の構造も「供給者目録」から学称者目録」から転換していくという視点が特に重視される必要がある。教学マネジメントの確立に当たっては様々な取組が必要となるが、そのためには個々の取組を別個に独立したものとして積み上げるだけでなく、学修事本位の教育という目標に向けてそれぞれの取組を有機的に関連付け、根本的かつ包括的な教育改善につなけていかなければなるが、関係的学うなである。
- 日成日に「341 CCいかる」がはならり、毎年が下がいくかか。 本指針は、中央教育書編者と学分科会教学でよジント特別委員会における議論を基に、三つの方針(特に「卒 業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」)に基づき、学修者本位の教育の実現を図るための 教育改善に取り組みつつ、社会に対する送明責任を果たしていく大学運営(教学マネジメントがシステムとして確 立た大学運営)の在り方を示すことにより、教学マネジメントの確立に向けた各大学の真剣な検討と取組を促す 契能とすることを目的として作成された。
- へぬこりることにかっていた。 ただし、教学本やラントは名先学が自らの理念を踏まえ、その責任において、それぞれの実情に合致した形で構築すべきものであり、本指針はそのまま従う「マニュアル」であることは意図していない。本指針は、教育改善の取組が、必ずし4学体者の目録に立ったものとなっていない大学や、十分な成果に続げついていない大学に、当分科会が大学教育の質の保証の観点から確実に実施されることが必要と考える取組や留意点等について、多様な大学教育を内容を中心に、分かりやすい形で示し、その取組の促進に主眼を置くことを意図している。
- 本期針も第まえたそれぞれの大学における機構的な教育改善の取組が、その直接の関係者を超えて、広く社会 一般から評価され、大学教育が信頼されることにより、大学に対する支援の拡大が図られるという「信頼と支援の 好循環」の形成につながることが期待される。

4



5

教学マネジメントに係る指針 教学マネジメント特別委員会(2018,12~2019,12)

- 1. 「三つの方針」を通じた学修目標の具体化
 - 各大学の強みや特色が反映された三つの方針は、教学マネジメントの確立に当たって最も重要なものであり、学修者本位の教育の質の向上を図るための出発点とも言える存在である。特に「卒業認定・学位授与の方針」は、学生の学修目標として、また、卒業生に最低限備わっている能力を保証するものとして機能すべきものであり、具体的かつ明確に定められることが必要である。また、大学教育の成果を学位プログラム共通の考え方や尺度(アセスメントプラン)に則って点検・評価することが、教学マネジメントの確立に当たって必要である。

6

教学マネジメントに係る指針 教学マネジメント特別委員会(2018,12~2019,12)

- ||. 授業科目・教育課程の編成・実施
 - > 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標を達成する 観点からは、明確な到達目標を有する個々の授業科目が学位プログラムを支える構造となるように、体系的かつ組織的な教育課程が編成される必要がある。編成に当たっては、授業科目が過不足なく設定されているかや、各授業科目相互の関係、履修順序や履修要件の検証が必要である。加えて、密度の濃い主体的な学修を可能とする前提として、授業科目の精選・統合のみならず、学生が同時に履修する授業科目数の絞り込みを行うことが求められる。シラバスについては、個々の授業科目について学生と教員との共通理解を図る上で極めて重要な存在であり、かつ、成績評価の基点となるものであることも踏まえ、適切な項目を盛り込む必要がある。

教学マネジメントに係る指針 教学マネジメント特別委員会(2018,12~2019,12)

Ⅲ.学修成果・教育成果の把握・可視化

▶ 学修者本位の教育の観点から、一人一人の学生が自らの学修成果として身に付けた資質・能力を自覚できるようにすることが重要である。また、大学の教育活動を学修目標に則して適切に評価し、「卒業認定・学位授与の方針」の見直しを含む教育改善につなげるためにも、学修成果・教育成果を適切に把握・可視化っる必要がある。把握・可視化に当たっては、その限界に留意しつつも、学生が、同方針に定められた学修目標の達成状況を可視化されたエビデンスとともに説明できるよう、複数の情報を組み合わせた多元的な形で行う必要がある。その際、大学教育の質保証の根幹として、また、学修成果・教育成果の把握・可視化を適切に行う上での前提として、成績評価の信頼性を確保する必要がある。

教学マネジメントに係る指針 教学マネジメント特別委員会 (2018.12~2019.12)

IV.教学マネジメントを支える基盤(FD·SDの高度化、教学IR体制の確立)

- > 学修成果・教育成果を最大化するためには、教職員の能力向上が必要不可欠である。各大学は、「卒業認定・学位授与方針」に沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像を定義した上で、対象者の役職や経験に応じた適切かつ最適なFD・SDを組織的かつ体系的に実施していく必要がある。加えて、FD・SDは、学修成果・教育成果の把握・可視化により得られた情報の共有、課題の分析、改善方策の立案等、実際に教育を改善する活動として位置付け、実施していく必要がある。
- また、教学IRは、教学マネジメントの基礎となる情報を収集する上での基盤であり、学長をはじめとする学内の理解を促進するともに、教学IRを実施する上で必要となる制度の整備や人材の育成を進めていく必要がある。

9

教学マネジメントに係る指針

教学マネジメント特別委員会 (2018.12~2019.12)

V. 情報公表

▶ 各大学が、学生や学費負担者、入学希望者等の直接の関係者に加え、幅広く社会に対して積極的に説明責任を果たしていくことが必要である。また、大学教育の質の向上という観点からも、情報公表には重要な意義がある。今後、各大学がその有する強みと特色を生かして学修者本位の観点からその教育を充実していくためにも、学生の学修成果や大学全体の教育成果に関係する情報をより自発的・積極的に公表していくことが必要となる。また、社会との関係の深化に伴い、地域社会や産業界、大学進学者等の大学の外部からの声や期待を意識し、社会からの信頼と支援を得るという好循環を形成するため、さらに、社会からの評価を通じた大学教育の質の向上を進めるためにも、情報の公表を積極的に進めることが必要である。

10

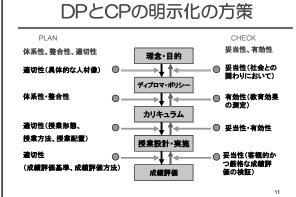
教学マネジメントに係る指針

教学マネジメント特別委員会 (2018.12~2019.12)

- I. 「三つの方針」を通じた学修目標の具体化
- Ⅱ. 授業科目・教育課程の編成・実施



11



12

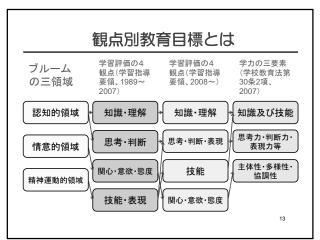
DPとCPの明示化の方策 具体的な取組 体系性、整合性、適切性 理念·目的 各学部・学科での 観点別人村養成像(DP) 適切性(具体的な人材像) ≯**↓**↑ の策定と公開 ディプロマ・ポリシー カリキュラム・マップ 体系性·整合性 カリキュラム・ツリーの策定と公開 カリキュラム 観点別の到達目標 を備えたシラバスの 適切性(授業形態、 授業方法、授業配置) 授業設計·実施 策定と公開 適切性 観点別到達目標

成績評価

12

ごとの成績評価基準の 策定と公開

(成績評価基準、成績評価方法)



観点別人材養成像の例 ハーバード大学(コア・カリキュラム、1988) 「関心・意欲・態度」 ◆違った価値観や伝統や制度を持った異文化に関して深い認識を持つことができる。 「思考・判断・表現」 ・明晰かつ批判的に思考することができる。 ◆自然と社会と人間との関わりを理解し、知識を得る方法と考え方を説明することができる。 ◆正確に意思の疎通を図ることができる。 ◆コンピュータ等を用い、数量的な処理を行うことができる。◆一つ以上の外国語を用い、コミュニケーションすることができる。 ◆正確に書くことができる。 「41輪・理解」 ◆正確に理解することができる。

14

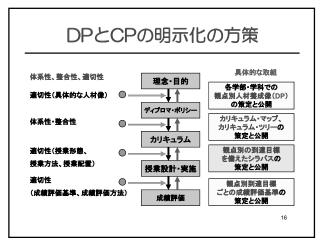
15

DP策定の留意点

- 1. 4年間の学士課程教育で保証する最低限の学習成果を学位プログラムごとに項目として記述すること。
- 領域別、観点別、学力の三要素別、あるいは学士力別に、 学生を主語にして「~できる」という行為動詞で記述するこ
- 3. 建学の精神や全学、学部、学科の教育目的とDPの整合性 をとること。
- それぞれの項目は、どの科目群で育成するかを考えておくこと。
- カリキュラム・マップ カリキュラム・ツリー 5. それぞれの項目は、どのように達成度を検証するかを考えておくこと(教育効果の測定=プログラムレベルのアセスメントポリシー)。
- 6. (必ずしも厳格に分類を踏襲する必要はない)

16

「技能」



(注)上記のものはBok学長が示した能力を沖が観点別に整理したもの。

17 18

科目の観点別到達目標の例

「芸術論特殊講義」(山口大学の例 by岩部センター長)

◆授業の概要

この講義では、2008年度に開催される展覧会を紹介します。特に企画趣旨や出品作品、作家について解説します。

- ◆授業の一般目標(GIO)
- (1)幅広い分野の作品に親しむ。
- (2)各展覧会の企画趣旨について理解する。
- (3)美術展や美術館の制度と背景について理解する。
- ◆授業の到達目標(SBO)
- 1. 認知的領域:知識•理解
- (1)基礎的な美術史の用語を理解し、それを用いて作品を説明できる。
- (2)企画展、常設展、公募展、巡回展、回顧展、テーマ展などの展覧会を区別できる。
- 2. 認知的領域: 思考•判断•表现
- 展覧会の企画趣旨を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる。
- 3. 情意的領域:関心・意欲・態度

県内・国内で開催されている展覧会情報を集めて、心の琴線に触れた展覧会を見てに行き、企画趣旨や作品について批評することができる。

科目の観点別到達目標の例(シラバスへの反映)

到達目標	評価 手段	評価 比率
①基礎的な美術史の用語を理解し、それを用いて作品を説明できる。		20%
②企画展、常設展、公募展、巡回展、回顧展、 テーマ展などの展覧会を区別できる。	定期 試験 (60%)	15%
③展覧会の企画趣旨を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる。	(00707	25%
④県内・国内で開催されている展覧会情報を集めて、心の琴線に触れた展覧会を見に行き、企 画趣旨や作品について批評することができる。	課題レ ポート (40%)	40%

観点別の到達目標の練習問題例

「自転車に乗るときのコツをつかませる」 という到達目標はどこが変?

【問題点】

- ・「コツをつかむ」の意味が不明瞭。
- ・「コツをつかませる」は学習者が主語ではない。

【事会审1.】

『一人で自転車に乗ることができる。』

【領域・観点と解説】

- 領域・観点は「精神運動的領域の技能」。
- ・ ただし、より正確を期すため、『補助輪をつけず、一人で自転車を運転し、100mを走ることができる』なども適切な目標と言える。
- ・また、「認知的領域の知識・理解」として、『自転車を運転する際に必要な交通法規を説明できる』なども適切な目標になりうる。
- DPとの関連で到達目標を設定しなければならない。この場合、どんな学校での授業かが最も重要な要素となる(曲芸を教える学校?)

19

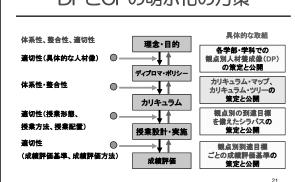
観点別到達目標作成の留意点

- 1. DPとの関連で科目の到達目標を設定する。
- 2. 成績評価を行うものだけに厳選する。
- 15回の授業の終わりにできるようになってもらいたい 行動や状態(合格することで身に付く力)を、学習者 が主語で「○○できる」という形式で書く。
- 4. 「理解する」などの概念的な言葉でなく、観点別の「行 為動詞」を参照して、できるだけ観察可能な行動で表現する。
 - (例)「江戸時代のしくみを理解する」→「江戸時代のしくみを 図解できる」、「乗法の意味がわかる」→「乗法の意味を 表す作問ができる」
- 5. 領域別、観点別、あるいは学力の三要素別に、できるだけ単文で表現する。

20

21

DPとCPの明示化の方策



21

22

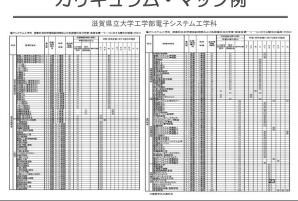
カリキュラム・マップ、ツリーとは

- 大学設置基準大綱化(1991)以前は、大学設置審議会が各学部・学科の標榜するディシプリンに即して必要な科目(名)と内容を審査。
- 1991以降は、各大学が自由にカリキュラムや教育内容を制定。
- 各大学、学部でカリキュラムに関する整合性や体系性・ 系統性を自ら点検。それこそがカリキュラム・ポリシー (CP)の根本的な意味。
- 点検項目は、①目的(DP)、②scope(カリキュラム・マップ)、③sequence(カリキュラム・ツリー、ナンバリング)。

22

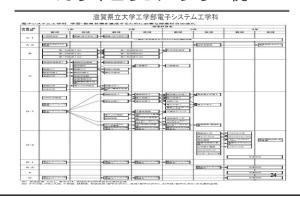
23

カリキュラム・マップ例

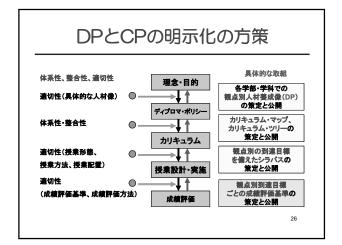


24

カリキュラム・ツリー例







27

大学における成績評価に関する法令

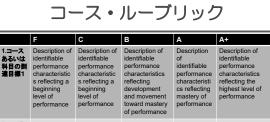
- 1. 大学設置基準(第二十五条の二)
- 2. 学校教育法施行規則(第68条の3)

- 学校教育法第55条第1項に定める学部の課程を履修する学生が、卒業の要件として修得すべき単位を修得し、 かつ、当該単位を優秀力の確定よって終編したと認められること
- 3. 学校教育法施行規則の改正に伴う大学等の教育情報の公

 - 《四名公・4~》 (現象の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること、(第5号機能) にれたは、大学設置基準第20条の2第1項等において、学生に明示することとされているものであること。その際 ・特可器団の本体を明らかにする場合に需すること。年間の授業計画については、シラバスや年間授業計画 の概要を活用することが考えるれること。 一学の京果に係る評価及び年東又は修了の歴史に当たっての基準に関すること。(第6号機能) これらは、大学設置基準第20条の2第2項等において、学生に明示することとされているものであること。その際 必条料は、選択料目及び自由計目の別の必要単位修得数を明らかにし、取得可能な学位に関する情報を明23か にすることに需要すること。

28

26



2.コース あるいは 科目の到 達目標2 3.コース あるいは 科目の到 達目標3

29 30

「現代の教育」レポート試験採点用ルーブリック(沖)

「①現代の教育の諸問題について、その背景や原原、検討すべき間差を持続するがご思いの教育の諸問題について、教育学的に提点に基づき、 解決法や対抗する評額に関いて自らの意見を述べることができるが「②教育に関い、同時期のを持ち、自ら調べ、考える態度を持つの3つの対 連書権政力が、複雑・現代の教育の機能では代明度に、つもしくは関係する複数のサーマについて、いくかの女政に出たり、多例に会報し

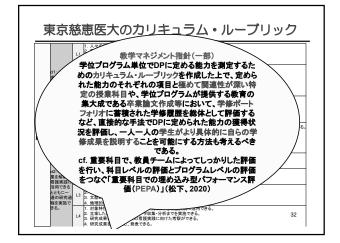
	Poor(F)	Beginning(C)	Developing(B)	Accomplished(A)	Exemplary(A+)
取りおけたアーマに関して自 もの考えを述べている(23点 現点)。	◆問題を選択的がなく、何を 他にたいのか不明確である。 ◆他人の意見だかりであらの 意見が単とんど遊べられてい ない。 ◆しポート記憶問題に関係の ない場合である。(0~5点)	◆問題主義(依頼)が不明治か、 ありふれている。 ◆参照した一部の大部に引きず られた却で自らの主張を求とめて いる。 (8~10点)	◆同胞金別(例的)な並べられて いるが、原施が十分に関べられ ていない。 ◆知能がありるれたものになって いる。(11~15点)	◆命与の問題を担任的的に基づ を、教育問題の大部に最たり、命 もの考えをおとめているが、報節 の報題性、独自性あるいは説明 力に中中継がある。(16~20点)	中共歌郎い物リロ(教験)で 開議点を指摘し、十分な型の 根別と独自の思索に思づき報 他を導いている。(21~23点)
機能に基づき、熱極的な観明 ができている(12点変点)。	小協会的な大車が続き、 非った	◆情報を示していないところが一 作品さか、後期を示していても参 間したゲークや大学の意味を示 リエスたり、動物的な説明ができ ていなかったりする。(1~3点)		◆情報に基づき、競得力ある説明 が保証できている。(8~10点)	◆収算と簡単に基づき、正確 かつ誘導力のある影明ができ ている。(11~12点)
別別文献、参考文献を選集に 税予し、自らの意見と依頼し ている(7点現点)	◆別用文献、参考文献が守っ た信仰をおていないか、盗用、 間報の可能性が高い。(○点)	◆別用文献、参考文献が一部明 示をされているが、どこまで他分 の意見かが不明確な推済が接致 計算見受けられる。(3点)	◆別用した値別に文献が(金修 あるいは一部の明を走されている が、母家に間変した方法で大郎 一覧が明まされていないものがある。 ◆大郎一型はあるが、文中の別 用数明に金修あるいは一部文献 金が明光度かれていない。(6名)	◆刊用文献、参考文献がしっかり 明学をされており、整定した方法 で文献一覧が研察されている。(7 点)	
終予展予がなく、数性も明確 で、部みやすい文章となって いる。また、レポーの仲間 (開稿、開発の番号、本・第の 番号、分金)が確信である(点現底)。	◆銀字数字がつ以上あるか、 股地が監視られていない箇所 が、国際以上ある。 ◆レポートの体験がよった(試 助しポートを検察側に辿ってい ない。(0点)	◆競字数字が2つ以上あるか、 設定が区場られていない世界が 2個所以上ある。 ◆レポートの作品が記載レポート 単年機に一部形っていないと ころがある。(1点)		◆レポートの技能が活動・ポート の敬事要領に扱っていて、数字数 学がなく、数男も研究で、数みや すい文字となっている。(1点)	
「だ・である」件で数一して書 かれている(3点調点)。	◆「だ・である」体で豊かれてい ない管理が、力限以上ある。(0	や「だ・である」体で像かれていな い音楽が・力祭以上ある。(1点)		◆「だ・である」体で第一して書か れている。(3点)	

ルーブリックの効果(学生)

- ▶どう評価されているかが明確になる。
- ▶授業への関与(参画)を促す。
- ▶公平性に対する認識を促す。
- ▶クリティカルな思考を支援する(Peat,2006)
 - ✓ By encouraging students to think critically about their own learning, rubrics can inspire precisely the pattern of "selfassessment and self-improvement"

"Introduction to Rubrics by Dannelle, D. Stevens and Antonia J. Levi, 200430





33

教学マネジメントに係る指針 教学マネジメント特別委員会 (2018.12~2019.12)

IV.教学マネジメントを支える基盤(FD・SDの高度 化、教学IR体制の確立



33

34

教学マネジメントに係る指針

教学マネジメント特別委員会 (2018.12~2019.12)

IV. 教学マネジメントを支える基盤(FD·SDの高度化)

<大学レベル>全学的にFD・SDを進める上では、まずは「卒業認 定・学位授与の方針」を踏まえ、自学が目指す教育を提供するため にはどのような資質・能力・資質を備えた教職員が求められるかを 望ましい教職員像として明らかにする必要がある。そのような教職員を育成するための組織的かつ体系的なFD・SDを学内で継続的に 実施するため、これらを担当する者の特定や責任分担の明確化等 にも留意した教職員の能力開発を担当する組織の構築・運用や、F Dの企画・立案・実施に必要な能力を身に付けた教職員(ファカルテ ィ・ディベロッパー)(以下「FDer」という。)のような専門人材の確保・ イ・アイトログー)(以下ドロピリミビリ)。のような専門人材の確保・育成を進めることが期待される。学内において専門人材を確保・育成できない場合においても、先進的な取組を行う大学やFD・SDに関する教育関係共同利用拠点との連携、コンソーシアムへの参加等 自学の教職員に対し同方針を踏まえたFD・SDの機会を提供でき る環境づくりに努める必要がある。

35

教学マネジメントに係る指針 教学マネジメント特別委員会 (2018.12~2019.12)

IV.教学マネジメントを支える基盤(FD·SDの高度化)

- - ・自学の歴史や建学理念を含む大学コミュニティに関する基礎情報
 - ・授業科目・教育課程編成に関する内容(シラバスにおいて標準的に期待され る記載事項の書き方、履修指導方法等)
 - ・成績評価基準の適切な運用(ルーブリックの活用方法、GPAの算出と活用等) ・学修成果の可視化(学生個人の学修成果の把握方法等)等が想定される。
- 加えて、教員としての経験を有する者に対しても、例えば新たに着した場合や 組織内で担う役割が変化した場合等、節目となる時点を中心に、教員としての知 謙、技能のアップデートを回る観点から、上に例として掲げているようなFD・SDIC ついて、個々の教員の状況等に合わせて適切なものを実施していく必要がある。

36

教授能力の証明

イギリス	スウェーデン	フィンランド	
2000年代半ば以降,各大学は全 国レベルで作成された「高等教育 の専門性基準枠組み」に基づき, 「高等教育教授能力資格課程」と して設定された能力開発プログラ ムの受講を新任教員に義務づけ。	2000年代に世界で唯一、研修義 務化。その後条文は2011年に廃 止されたが、各機関レベルでの必 須研修は継続中。教授法に関する 内容を10週間で学習。	機関レベルで60単位(1年間のフ ルタイム学習に相当、初等・中等 教育の教職課程と同単位数)の研 修を実施。	
ドイツ 属	212	オランダ	
州レベルで大学が連携して、3年 間で200単位(1単位45分)の研 修プログラムを実施。受講により、 教育能力証明を取得できる。	専門大学の教員になるには200時 間程度の研修を伴う資格が必要と 2004年の法律で規定。	専門大学の教員になるには300時 間の訓練を伴う「高等教育国家資 格」が必要。ティーチング・ボー トフォリオの作成を重視。	
デンマーク 🌃	フラ	ンス /	
2007年以降、着任後3年以内に、 150時間の大学教員プログラム受 講を義務化。	2017年に政令が制定され、2018年からFDが義務化された。対象と なる海教授は1年間、高等教育大臣による省合によって成用期間とさ オFDを受請することができる。 情報開助中、教育業務長担の500 (324間) が免除され、その時間を研修に発てる大学が多い。この 期間中は、補配資産も担当できない。		

(ICED代表者会議 (2019) での配布資料や関沢 (2019) を参考に筆者が作成)

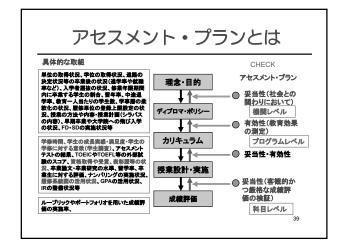
佐藤浩章、教学マネジメント特別委員会第8回資料(2019.8.29)

「大学教員の基本的な教育職能の基準枠組」 (日本高等教育開発協会)

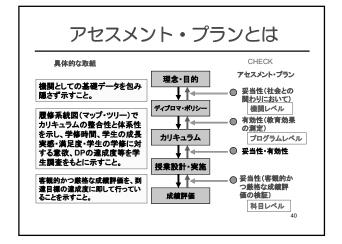
教育職能の領域	教育職能の観点
1. 大学コミュニ ディについての理 解	1-1 大学に関する高度問題がある。企業に応じて実践する。 - 1-1 - 2 開発と大会の製資のよど、単立について観察する。 - 1-1 - 2 開発と大会の製資のよど、単立のように観察する。 「食材用な、あまり、・ プロプラム関係、学生の特殊、実施、活用できる教育・学習環境など。 1-1 - 1 会の製作のが共振、一般ではいった。 「他のよう。 1-2 同様とのコミュンケーションをとよ。 1-2 同様とのコミュンケーションをとよ。
2. 授業のデザイン (目標設定、実施計画、成績評価)	2-1 代表・デオイのための基準調味から、必要には、以便する。 2-2 計算、表すくりの意義、出対の交換のあた。放射でラフィとの間違について理解する。 2-2 計算、表すインクルをがまかっていまして、投票の目的、意図する学習目標を設定する。 2-2 - 2 学別 報告を利率により回ぐ設定計画と設定する。 2-2 - 3 学別 報告を利率により回ぐ設定計画と設定する。 2-2 - 3 学別 報告を利率により回ぐ設定計画と設定する。
3. 教育の実践	3-1 教行実験に関する施型地域から6、必要には「実験する。 3-1-1 学生の学生のよいての基準知識がある。必要には「実験する。 3-1-2 自らの受害実践しついて論理的な制化する。 3-2 学習書件が必要はない学の変数を実現し、学者の学習を促棄する。 3-2 学者書件が必要はないがある。 3-3 -2 学者の学習を使り支援の影響。反響が変化する。 3-3 -2 学者の学習を使り支援の影響。反響が変化する。 3-3 -2 当まりまとを変まりませまった。
4 . 成績の評価、 フィードバック	**1 教育の事情や イモアドラドに小い の無効地域にある。 安米に応して更新する。 4—1—1 成場所の必要と目的を開発している。 4—1—3 が得めている。 (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)
5. 継続的な教育 開発と自己改善・ キャリア開発	



39



40



41

今後の方向性?

- 「Society5.0に対応した高度技術人材育成事業」では、「持続的な産学共同人材育成システム構築事業~リカレント教育等の実践的教育の推進のための実務家教員養成・活用システムの全国展開~」が謳われている(2019年度新規事業)。
 - 実務家教員の質・量の充実のため、実務家教員を養成するための研修プログラムを開発・実施(東北大拠点、熊本大大阪府立大・立教大が産学連携教育イノベーター育成フォーライン
 - 研修プログラム修了者を実務家教員の候補者として大学等 に推薦
 - 実務家教員のマッチングを行う人材エージェントの仕組を構築
 - 専門職大学の発足(2019年~)
 - 実務家教員の配置と授業の増加

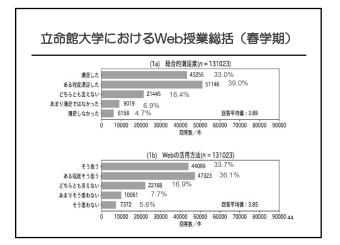
41

42

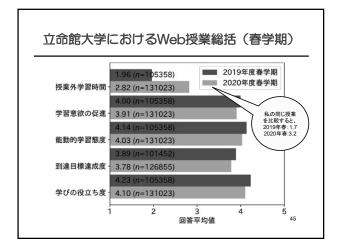
今後の方向性?

- 「国家学位資格枠組(NQF: National Qualification Framework)」の 世界的展開と日本における導入可能性の検討(吉本圭一、2019.2)
 - 2015年段階で150ヶ国以上、国連加盟国で4分の3以上がNQFの開発・導入・展開を進め、国内すべての学位(称号と呼ばれるものを含む)や資格等を、複数段階のレベルという縦軸と学習における志向性の特色等による横軸によって区分されたマトリクスに位置づける制度を持つ。
 - 教育と職業の接続がユニバーサル化する高等教育においてより大きくなり、各国の教育訓練制度においてリカレント教育を通したキャリアアップやキャリアの転換に結びつけられている。
 - NQFのアプローチの基本要素として、職業能力(職業コンピテンシー=ボローニャ・プロセスでチューニングを行う際のキーとなる考え方の一つ)と対応付けた学習成果アプローチが注目されている。
- 分野別参照基準の重視(教学マネジメント特別委員会では取り扱わない)

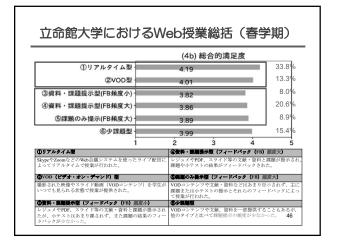
コロナ禍における教育の質保証 Web授業の観点から +授業外学習時間の増大(単位制度の実質化?) +ブレンディド・ラーニングの可能性(反転授業) +補講のWeb実施(時間割にとらわれない補講実施) +社会人学生の獲得と教育展開の可能性(自宅にいながら受講) +時間割と持ちコマの季軟化(大規模議義のVOD開議) - 学生の負担感の増大(課題の出し過ぎ?) - 成績評価の方法の変化(定期試験の実施困難性) 学生、教職員のICTサポートの増大 学生のコミュニティ形成や学習支援・生活支援の観点から ・Webで弦がる新たなコミュニティの形成の可能性 学生、特に新人生に対する大学への帰属意識。コミュニティ形成策の課題 考験への質別・相談に来られない学生の学習支援策の課題 デルバイト等ができない学生の生活支援策の課題 将来に不安を持つ学生の就職支援策の課題 対面授業等再開にかかる取り組みの観点から 対面投来等再開にかから取り組分の観点から +学生の活動の専開とコミュニティにおけら経験の保障の課題 -キャンパスに溶音する学生の感染予防液の課題 - 既住住等の関係で登校できない学生への教育的配慮の課題 - 実験装蓄系展を水溝管など、対面授業でなければ実施困難な授業の三密回避策の課題 - 施設・投機費の増大



45



46



47

引用•参考文献

- 沖裕貴「大学における教育目標の設定と達成度評価の基本的な考え方」山口大学大学教育機構『 大学教育』第2号、2005年、1-16頁。 沖裕貴他「山口大学におけるグラデュエーション・ポリシーとアドミッション・ポリシー策定の基本的 な考え方について「山口大学大学教育機構『大学教育』第3号、2006年、39-55頁。
- な考え方について、JULIス字大子教育機構「大学教育』第5号、2010年、39・50員。 非裕貴、韓風的教育目標から考えるカリキュラン、ポリシーの持護。 理像、目標、ディプロマ・ポリ シー、シラバスとの関連において J立命館大学大学教育開発・支援センター『立命館高等教育研 家』第7号、2007年、61・74頁。 非裕貴他「三世構業のための3つのポリシー(DP・CP・AP)の策定方法 各大学の事例をもと に一」日本教育情報学会『教育情報研究』第28巻第3号、2010年、17-30頁。
- ・沖裕貴「大学によけるループリック評価導入の実際一公平で客観的かつ厳格な成績評価を目指して一立命館大学教育開発推進機構立命館高等教育研究』、2014年、71-90頁。 沖裕貴「3つのポリシーの策定と運用~一体的な策定と公表義務化を迎えて~」「日本私立大学連盟事例集』巻頭、2016年。
- 佐藤浩章「教学マネジメントを支える基盤―FD・SDの高度化に向けた提言―」『教学マネジメント 委員会第8回資料』、2019年
- シャロン・ゾウ編著『世界の大学-ハーバード』成文堂、1997年、135頁。
- 松下佳代「学習成果とその可視化」「教学マネジメント委員会第6回資料」、2019年
- は、は、テロペートというはい」がキャインノン「安良安系の回見刊。2019年。 安野舞子「横浜国立大学「授業設計と成績評価ガイドライン」について」『教学マネジメント委員会 第5回資料』。2019年。
- Dannelle D. S. & Antonia J. L. "Introduction to Rubrics", Sterling, Virginia, 2004.



第 2 回新任教員 FD 研修会実施報告

1. 実施概要

日 時:令和2年12月25日(金)16:30~18:00 Zoom 開催

テーマ: 「大学の授業を設計する」

内容:教育活動の中で最も重要な授業設計の基本的な考え方を学ぶ。また、シラバスの内容等

を含めた準備や方法について考える。

講 師:名古屋大学高等教育研究センター 准教授 中島 英博 氏

2. アンケート概要

グーグルフォームにて、選択式及び自由記述形式による下記アンケートを実施した。

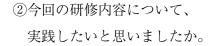
- ①「大学の授業を設計する」についての理解
- ②実践したいかについて
- ③企画内容についての意見・感想
- ④一番関心を持ったポイント・重要だと感じたポイントについて
- ⑤今後学習会やフォーラムで取り上げてほしいテーマ、ご希望の講師(学内外問わず)について

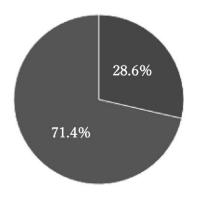
3. 結果:

(人)

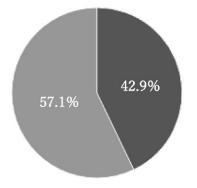
対象者	参加者	アンケート回答者数
21	20	14

①今回の研修内容について、 理解は深まりましたか。





- 理解が深まった
- まあまあ理解が深まった
- あまり理解が深まらなかった
- 理解が深まらなかった



- すでに実践している内容だった
- ぜひ実践したい
- 一部を取り入れたい
- 取り入れたいが、現在の授業には合わない
- あまり自分の授業の参考にはならなかった

③企画内容についての意見・感想

- ・大変興味深く聞かせて頂きました。
- ・シラバスの書き方そのものについて、学生のためになるような書き方を習得できるのかと 思っていた。
- ・意見交換は有効だと思いました。オンラインの部分についてはもう少し聞きたかったです。
- ・講義構成について単なる知識を学生に提示するのではなく、いかに学生に理解してもらい、 それを応用してもらうかが大切であることを改めて認識できました。
- ・中核的概念を使った問いについて考えるのが非常に難しかったです。
- ・オンライン授業についてもう少しお話を伺いたかった(オンラインでの成績評価について 等)。
- ・気づきがあり、情報交換などもできて有意義でした。

④一番関心を持ったポイント・重要だと感じたポイントについて(※一部抜粋・改稿を含む)

- ・本質的質問をたくさん持っておいた方がいいというのが勉強になりました。
- ・パフォーマンス課題について思うところがあった。推奨されているプレゼンテーションについて、前職でその限界を感じていたのでその効能にはかなり疑問がある。
- ・本質的な問いをたくさん用意する。とても難しいが是非トライしたいと思った。
- ・目標設定と評価内容の確認は深く考えたことがなかったので、見直す良い機会になりました。
- ・中核的概念と本質的な問いについて、よく理解できました。自分の授業について、たくさん 考えたいと思います。
- ・これまでの私の授業は、どちらかというと知識を問う低次の授業になっていたように感じま した。今回のお話を伺って、今後は「高次の目標」を意識しながら本質的な問いや評価基準 を考えるように改善する必要があると感じました。
- ・中核的な概念に基づいて複数の本質的な問いを設定するが、それに答えられる知識を講義に て伝えることが必要なのだと改めて感じました。また、実際に講義を担当しても感じたこと でもありますが、数多くの知識を示しても学生は応用できず、何が最低限必要なのか取捨選 択して講義で伝えることが必要なのだと感じております。
- ・整合的な評価課題として、パフォーマンス評価が必要ということで、意識していきたい。
- ・本質的な問いをはっきりさせ、学生にも提示することは講義の目的を理解しやすくする上で も有効だと思ったので、是非参考にしたいです。
- ・目標・評価・活動が整合的な授業。
- ⑤今後学習会やフォーラムで取り上げてほしいテーマ、ご希望の講師(学内外問わず)について
 - ・今年初めて授業を受け持った自分には高度な部分も多かったが、参考になった。(個人的にはもう少しレベルの低い内容もあると有り難かった。) いろいろな学部の例を見ることができてよかった。授業については今後も常に考えていく必要があると思うので、今回の内容を定期的に見直して参考にしたい。

FD 学習会実施概要(第 9 回~第12回)

1. 実施概要

(1) 第9回FD学習会

日 時:令和2年8月7日(金) 13:00~14:00 Zoom 開催

テーマ:「遠隔授業における WebClass の活用 |

内 容: WebClass を基本に、GoogleDrive や Zoom 等の ICT を併用・駆使し、アクティブ・ ラーニングを実践している学内の取組事例を紹介

ノーマノと天成している子門の株配事りに

講師:外国語学部 柳沢 秀郎 准教授

(2) 第10回 FD 学習会

日 時:令和2年9月9日(水) 16:30~17:30 Zoom 開催

テーマ: 「WebClass と Google サービスを用いた遠隔授業 - 遠隔授業で最低限やってもらいたいこと - 」

内 容:最低限求められる講義資料の作成方法や活用方法についての事例を紹介

講 師:大学教育開発センター長 山田 宗男 教授

(3) 第11回 FD 学習会

日 時:令和2年10月28日(水) 13:00~14:00 Zoom 開催

テーマ: 「数理・データサイエンス・AI 教育の必要性と実践」

内 容: 文系学部におけるデータサイエンス教育の実践報告

講師:経済学部 勝浦 正樹 教授

(4) 第12回 FD 学習会

日 時:令和3年3月2日(火) 13:30~15:30 Zoom 開催

テーマ: 「はじめての Google Drive」

内 容:授業に活かせる Google サービスについて知り、実践する

講師:大学教育開発センター 山田 宗男 教授・外国語学部 柳沢 秀郎 准教授(天白キャンパス)

薬学部 大津 史子 教授(八事キャンパス)

2. アンケート概要

全ての学習会について、グーグルフォームにて、選択式及び自由記述形式によるアンケートを 実施した。アンケート項目は、概ね下記の通り。

- (1) 所属等
- (2) 理解・満足度
- (3) 企画内容についての意見・感想
- (4) 一番関心を持ったポイント・重要だと感じたポイントについて
- (5) 今後取り上げてほしいテーマ等に関する意見・希望について

3. アンケート項目「今後取り上げてほしいテーマ等に関する意見・希望について」

令和2年度に実施した全てのFD学習会について、本項目のアンケートを実施したため、まとめて紹介する。(※一部抜粋・改稿を含む)

- ・遠隔講義のフォローアップの方法について聞きたい。
- ・遠隔授業の工夫をいろいろ示して欲しい。
- ・実験・実習を伴う授業に対する遠隔のありかた。
- ・アクティブラーニングの実践例を知りたい。
- ・同テーマで、アドバンスト・レベルをお願いしたい。
- ・学生がオンライン授業をどのように聞いていたのか、正直なところを聞いてみたい。
- ・遠隔授業、特にオンデマンドの場合の成績評価方法について。
- ・設備・環境の違いでできることとできないことの対応を解説するフォーラム等あればと思う。
- ・教育効果がどうであったかなどのお話がもっと聞けると嬉しい。
- ・大学の ICT のインフラ整備が進められたとしても、ハードウェアの提供だけでは遠隔講義のサポートは十分ではない。ハードウェアの上でどのような活用例があるかといった、ソフト部分での ICT の活用促進を担ってほしい。
- ・大人数でのアクティブラーニングの実践方法。
- ・発達障害のある学生などへの支援・合理的配慮について (コロナ禍の中で)。
- ・学生の理解度が向上したり、教員の負担を減らしたりする効果のある取り組みの事例などを 共有していただけると、多くの教員にとって有益だと思う。
- ・遠隔(オンデマンド)講義またはコロナ対応の対面講義で、グループワーク(グループのディスカッションを伴う)などのアクティブラーニングと同等の内容をどのように行えるのか。
- ・遠隔講義用に、実際の講義を記録・配信する方法
- ・オンデマンドでの動画配信について、効率的な?方法を教えていただきたい。
- ・遠隔授業の最先端を聞きたい。
- ・オンライン講義のノウハウについても教えて頂ければ助かる。
- ・オンライン授業での試験と成績評価。
- ・試験。不正行為を防止し、なおかつ通信エラーにも対応できるような、オンラインでの試験 システムというものの構築は難しいと思うが、既存のシステムを使ってどの程度のことがで きるのか(できないのか)について。
- ・統計学やデータサイエンスの応用をどうするかは、分野によって多様です。様々な専門分野 の先生方が講演される方が良いかと思います。
- ・今度は理系学部のデータサイエンスについての講演を聞いてみたいです。
- ・AIの信頼性についての考え方について。
- ・武蔵野大学はデータサイエンス等の専門の先生が外部リソース(work academy)を活用しながら全学共通科目を構築して運用しているとお聞きしたのですが、外部リソース活用についてどのようにお考えですか?
- ・一般学生向けのアカデミックライティングについても、テーマとして扱っていただけるとあ

りがたいところです。

- ・リカレント教育について。早稲田大学 WASEDA NEO や京都大学のエグゼクティブリーダーシッププログラム、信州大学100年企業創出プログラムの担当者など、大学が提供する学びの場作りについて学びたい。
- ・「はじめての Google Drive」の応用編についても、ぜひ講習会の開催をお願いします。
- ・対面講義に関する有効な手段についてもご教授いただけると今後役立つと思います。
- · Google のサービスについて、他にどんな良いことができるのか伺いたく思いました。

第9回FD 学習会実施概要

1. 実施概要

日 時:令和2年8月7日(金) 13:00~14:00 Zoom 開催

テーマ:「遠隔授業における WebClass の活用」

内 容: WebClass を基本に、GoogleDrive や Zoom 等の ICT を併用・駆使し、アクティブ・ラー

ニングを実践している学内の取組事例を紹介

講師:外国語学部 柳沢 秀郎 准教授

2. アンケート結果(自由記述については、一部抜粋・改稿を含む)

(1) アンケート回答者等

(人)

専任教員	非常勤教員	職員	合計	【参考】申込者数
54	19	4	77	176

(2) 企画内容についての意見・感想

専任教員	非常勤教員
・Zoom や Googledrive の活用法を具体的に知ることがで	・他の先生方のオンライン授業の
き、有意義だった。	様子を知りたかったので、とて
・時期も内容もちょうど良かった。	も参考になった。
・遠隔講義が始まる前に開催頂ければよかった。	・後期の中頃あたりで、授業進捗
・テクニカル部分を解説する資料等があると良かった。	状況等に関する懇談会を開催し
・質疑応答の回答に役に立つ内容があったので、問題の	て頂きたい。
対処法を中心に話が聞ければ、さらに参考になると思う。	

(3) 一番関心を持ったポイント・重要だと感じたポイントについて

専任教員	非常勤教員
・自分の知らない機能がたくさんあり、それらを活かす	・これまで WebClass を利用して
ことによって、もっとわかりやすい講義ができる。	いたが、知らない機能がかなり
・遠隔授業でも自分の通常の授業スタイルを維持しなが	あった。
ら、WebClass を活用するという考え方が重要。	・授業の作り方が重要だと感じた。
・Zoom と WebClass と GoogleDrive の同時併用の仕方が	・参加者の方は大学のインフラや
見事。	今後の整備・運用についての関
・システム環境がない学生には、不可能なやり方であり、	心が高く、大学として遠隔講義
今後の課題でもあると感じた。	を支えていく環境をはっきりと
・マニュアルだけでは不十分で、経験者によるデモンス	打ち出すことが必要だと感じた。
トレーションが必要。	

第10回 FD 学習会実施概要

1. 実施概要

日 時:令和2年9月9日(水) 16:30~17:30 Zoom 開催

テーマ: 「WebClass と Google サービスを用いた遠隔授業

- 遠隔授業で最低限やってもらいたいこと - 」

内 容:最低限求められる講義資料の作成方法や活用方法についての事例を紹介

講師:大学教育開発センター長 山田 宗男 教授

2. アンケート結果(自由記述については、一部抜粋・改稿を含む)

(1) アンケート回答者等

(人)

所属	専任教員	非常勤教員	職員	その他	合計
学習会参加者数	92	4	10	1	107
アンケート回答者数	64	2	3	0	69

(2)満足度:「満足」「やや満足」が92.8%(64人)であった。

(人)

満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	合計
36	28	5	0	0	69

(3) 企画内容についての意見・感想

- ・学生への最初のお知らせが重要であることがわかった。方法論が大変参考になった。
- ・手探りで進めてきた遠隔授業の方法が間違っていなかったことを確認できた。
- ・遠隔授業に対する学生の不満を解消し、教育の質を確保するための工夫のポイントがよくわかった。
- ・全面遠隔だった前期のどこかでやっていただけたらもっとよかった。
- ・ウェブクラスの「テスト/アンケート」には採点とフィードバック機能があり、かつ得点の 自動集計もされるが、紹介されれば良かった。
- ・Google フォームの使い方など興味深く拝聴した。WebClass でもほぼ同様のことができるが、 両者の使い分けなどについても紹介頂けるとありがたい。

(4) 一番関心を持ったポイント・重要だと感じたポイントについて

- ・講義ポリシー (狙い、進め方、レポートの有無、成績評価、出席管理など) を講義の冒頭で 明確に示すことが重要だと感じた。
- ・Google アプリの使用について。WebClass に関してはある程度、把握していたが、個人的には Google アプリを利活用していなかったので、とても参考になった。

- ・どのようにすれば、学生の満足度を上げる(実際は不満を下げる)ことができるかについて の話が関心を持った。
- ・遠隔であってもコミュニケーションは重要であると再認識した。
- ・WebClass の出席用掲示板の公開期間設定は有効だと感じた。

大学教育開発センター 2020/04/10

効果的な遠隔講義資料 の作成例(1)

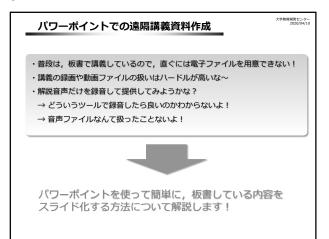
2

大学教育開発センター 2020/04/10

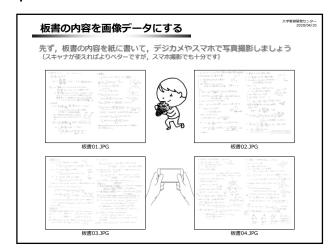
- ・普段は板書で講義を行っている
- ・パワーポイントなどの電子資料は 持っていない
- ・簡単に遠隔講義用資料を作成したい



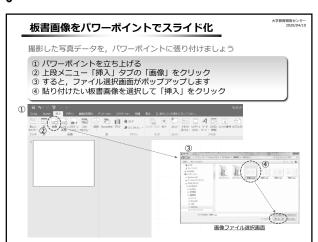
3

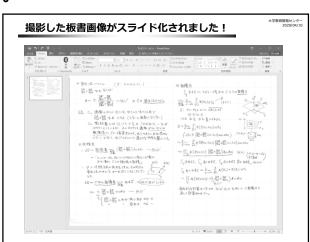


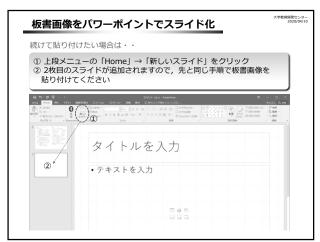
4

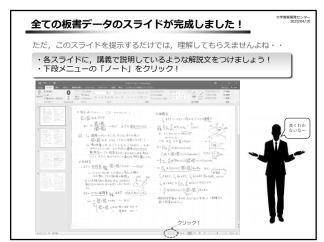


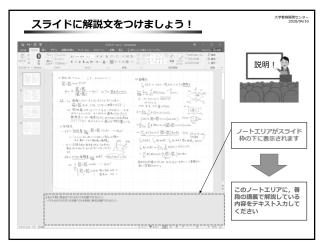
5

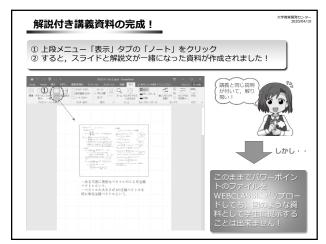


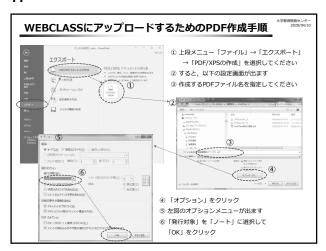


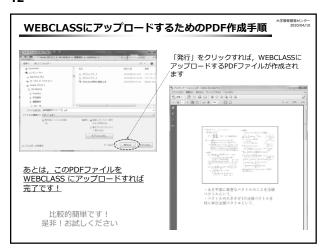


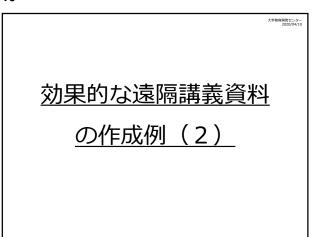


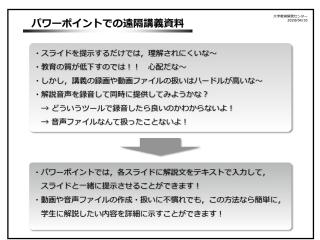




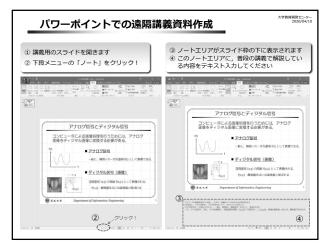


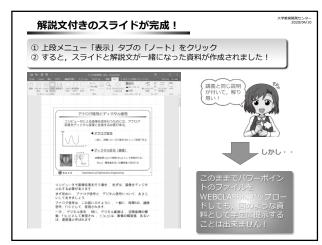




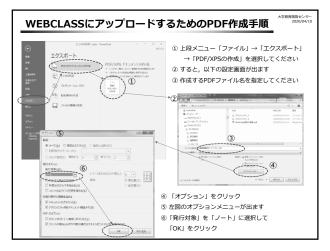


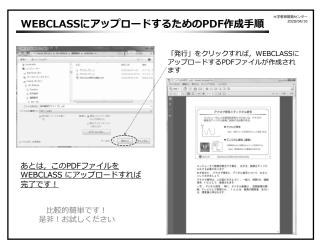
15





17 18





第11回 FD 学習会実施概要

1. 実施概要

日 時:令和2年10月28日(水)13:00~14:00 Zoom 開催

テーマ:「数理・データサイエンス・AI 教育の必要性と実践」

内 容: 文系学部におけるデータサイエンス教育の実践報告

講師:経済学部 勝浦 正樹 教授

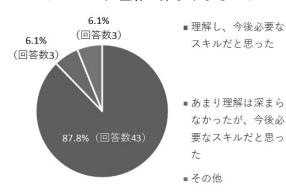
2. アンケート結果(自由記述については、一部抜粋・改稿を含む)

(1) アンケート回答者等

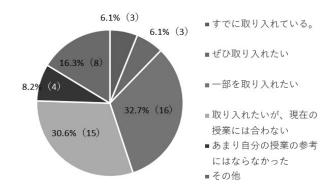
(人)

所属	専任教員	職員	その他	合計
学習会参加者数	83	14	2	99
アンケート回答者数	44	5	0	49

(2) 数理・データサイエンス・AI 教育 について、理解は深まりましたか



(3)授業に取り入れようと思いましたか



(4) 企画内容についての意見・感想

- ・文系学生に統計学を教える場合のノウハウ、難易度設定等参考になる情報が多かった。
- ・大学のレベルや就職先、職種にもよると思うが、理系学生として文系学生としてどこまで必要かの将来的な見通しが分かると良い。
- ・自身の担当科目においても、どのように取り入れることができるか、どのような点に配慮する必要があるのかを考えるきっかけとなる貴重な機会をありがとうございました。
- ・課題や小テストで学生が興味を持つ内容を作成し、さらに教員の手間を減らすために、テスト問題の共有化についてのお話があったが、大変参考になった。
- ・経済学部など文系が対象であったが、理工系の授業にも活かせる話を聞くことができた。
- ・タイムリーな企画でした。ありがとうございます。ただ、これをどう具体的に落とし込んでいけばいいのか、悩みがより深くなったようにも感じます。

- (5) 一番関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントについて
 - ・初学者に対する教え方の工夫のところです。他学部の先生方と是非とも情報共有をさせて頂ければ、大変幸いです。
 - ・学生のレベルが大変に幅広い中で、かなり初歩の内容からその都度教え込んでいくところが 重要と感じました。
 - ・私も授業で心がけているところですが、興味や理解を深めるためには、どのような題材を利 用するかで変わってくると感じます。方略が重要だと思います。
 - ・すべての学部にとって、統計学ないしデータサイエンスは必須だと思いますが、共通化は容易ではないと感じます。「学生に興味を持って学んでもらう」ということの重要性を強調しておられたように感じましたが、全学部の学生が共通して興味を持って学べる内容にすることは、非常に難しいと考えるためです。ツール・スキルとしてのデータサイエンスの部分は共通化が望ましいですが、興味を持つポイント・題材は学部ごとに用意する必要があるように感じます。
 - ・①データ分析、データ処理、価値創造、それぞれを学ぶ場はあるが、総合的に教える授業・機会は少ない、②ほかの先生が何を教えているかはわからない、③データサイエンスのPBLが難しい。データサイエンスの話は、社会人もどこからどう手を出して良いかわからないと思います。そのファーストステップとして、また大学としては実在のフィールドで、具体的な数値をもとに実践できる場として、ぜひデータサイエンスの分野でPBLまたは連携事業ができるといいなと思いました。カリキュラムの中で難しければ、データサイエンスに取り組みたい先生チームと一緒にできると良いと思います。

数理・データサイエンス・AI教育の必要性と実践

文系学部における データサイエンス教育の実践

> 名城大学·経済学部 勝浦正樹

> > 第11回FD学習会 2020年10月28日

2

本日の内容

- 主目的:報告者の文系学部におけるデータサイエンス(統計)教育の経験を事例紹介
 - 注意:数理, Al
- 構成
 - 1. はじめに・自己紹介
 - 2. 統計学・データサイエンス(DS)ブーム, DS学部の開設
 - 3. 文系学部でのデータサイエンス関連の科目の教育内容
 - 4. 文系学部でのデータサイエンス教育での事例・問題点
 - 5. 今後の方向性

3

自己紹介

- 学部:経済学科,大学院:経済学研究科
- 1992年. 名城大学•商学部•専任講師
- 現在, 経済学部・経済学科・教授, キャリアセンター長
- 学部での担当科目
 - 統計学 I · Ⅱ
 - 経済データ分析 Ⅰ・Ⅱ
 - 専門ゼミナール Ι・Ⅱ・Ⅲ
- 非常勤, 他学部
 - 統計学(文系基礎)
 - 計量経済学
 - アートマネジメント概論

4

研究分野

- 応用計量経済学
 - 公的統計(官庁統計)
 - 文化経済学
 - 景気の実証分析
- 研究助成
 - 科研費・基盤研究(C)「拡張型動学化AI需要システムの活用による超高齢化社会の消費動向の把握」(2015-2018年)
 - 科研費・基盤研究 (B) 「周期統計調査のミクロデータによるコーホート分析 文化需要の実証的研究 J(2011-2014年)
 - 統計数理研究所・一般研究2「データサイエンティスト育成に向けたカリキュラム・教材に関する研究」(2017~)共同研究者

5

重要視されるデータサイエンス教育

- 文部科学省「大学の数理・データサイエンス教育強 化方策について」(2016)
 - 数理・データサイエンスを中心とした全学的・組織的な教育を行う組織の整備(例:数理・データサイエンス教育研究センター(仮称))
 - 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムの 形成
 - ・拠点校(6校),協定校の選定
 - 地域ごとに、連携校の募集
 - ・ 東海地区は10校(含, 名城大学)
 - 役割
 - ・ 産学連携、標準カリキュラムの作成・・・

6

私立大学等改革総合支援事業

タイプ1:特色のある教育の展開

数理・データサイエンス(統計学、数学、コンピュータサイエンス等)に係る科目を全学部等で開講していますか。
 1 全学部等において必修科目として開講している。
 2 全学部等において選択科目として開講している。
 2 点
 1 一部の学部等において必修科目として開講している。
 1 点
 1 上昇のいずれにも終事しない。
 0 点

 ③ 放理・データサイエンスと社会とのつながりについて教えることができる教員を養成するためのFDを実施していますか。

 1 当該大学等が主催又は他大学等との共催により実施した。

 1 回版人子等が主催えば他人子等との力能により失能した。
 2 点

 2 他の団体等が実施するFDプログラムに専任教員等を派遣した。
 1 点

 3 上記のいずれにも該当しない。
 0 点

.

統計学ブーム?

- 「統計statistic」、「統計学statistician」、 「データ・サイエンスdata science」、「データ・サイエンティスト data scientist」などが注目されている
- キーワード
 - 『統計学が最強の学問である』
 - ビッグデータ
 - Al
 - データ・サイエンス, データ・サイエンティスト
 - sexy job
 - 統計リテラシー
 - 統計検定

8

ブームの背景と影響

- グーグルのハル・ヴァリアン博士
 - ...the sexy job in the next ten years will be statisticians.
- 『<u>統計学が最強の学問である</u>』 (西内啓著, ダイヤモンド社, 2013年)
- ビッグデータ
 - POSデータ, 販売データ
 - SNS関係のデータ(Twitter・・・)
 - ネットの検索情報
 - 映像などを活用したスポーツのデータ・・・
- EBPM (Evidence-Based Policy-Making)
- IR(Institutional Research)
- 統計検定(2011年~)

9

教育現場でのデータサイエンス

- データサイエンス学部・関連学部
 - 以前は、統計学部、統計学科は設置されていなかった
 - 2017年:<u>滋賀大学</u>
 - 2018年:<u>横浜市立大学</u>
 - 2019年: 武蔵野大学
 - 2021年:立正大学(DS学部),南山大学(DS学科),群馬大学(情報学部)···
- 高校の授業:数学 I に「データの分析」
 - さらに, 2022年度の学習指導要領より, 低年次で統計 教育を開始

10

文系学部でデータサイエンスの何を教えるか

- データサイエンスの3つの構成要素 竹村彰通(2018)『データサイエンス入門』岩波新書
 - データ分析:統計学
 - データ処理:コンピュータ
 - 価値創造:専門分野の知識

11

文系学部でのデータサイエンス関連科目

- それぞれを教える科目は存在している ex.経済学部
 - データ分析:現象と数理, 統計学 I・Ⅱ
 - データ処理:コンピュータリテラシー, 情報活用リテラシー
 - 価値創造(専門分野の知識): 専門分野:各専門科目, 専門ゼミナール
- データサイエンス指向型
 - 経済データ分析 I・Ⅱ など*

12

教育内容

- シラバス参照
 - 統計学 I, 統計学 II
 - 経済データ分析 Ⅰ, 経済データ分析 Ⅱ
- データ分析(統計学)
 - 記述統計(統計学 I)
 - 推測統計(統計学Ⅱ)
- ・ データサイエンス指向型(経済データ分析 Ⅰ・Ⅱ)
 - 時系列データの分析方法, 回帰分析(統計学+a)
 - 情報処理教室でパソコン実習
 - 実際の経済データに特化した練習問題, 課題

記述統計(統計学I)の内容

- 1. 統計学の有用性:動機付け
 - 統計にだまされないためには
- 2. 度数分布とヒストグラム
 - 所得格差の問題(ローレンツ曲線とジニ係数)
- 3. 代表值:平均,中央值,最頻值
 - 移動平均, 幾何平均
- 4. 散らばりの尺度:分散,標準偏差,変動係数
 - リスクとリターン
- 5. 基準化変量
 - 偏差値
- 6. 回帰分析の基礎

推測統計(統計学II)の内容

- 1. 推測統計の必要性
 - 統計にだまされないためには
- 2. 母集団と標本、サンプリング
 - 無作為抽出と有意抽出, 層別抽出・・・
- 3. 確率変数と確率分布
 - 確率分布の平均・分散, 正規分布
- 4. 標本分布
- 5. 推定
 - 視聴率や失業率の区間推定、サンプルの大きさ
- 6. 仮説検定
 - 平均(比率)の検定, 平均(比率)の差の検定

15

経済データ分析Iの内容

- 1. 実際の経済データを分析することの有用性:動機付け
- 2. PCの基本的操作
- 3. 経済データの特性
 - フローとストック, 名目と実質···
- 4. 時系列データの分析
 - 変化率(前期比と前年同期比), 指数, 構成比, 寄与度・・・
- 5. 度数分布とローレンツ曲線
- 6. 移動平均など
 - ※ PCによる演習
 - ※ データはできるだけ最新の実際の経済データ
 - ※ データの作成方法の確認

16

経済データ分析IIの内容

- 1. 実証分析の意義
- 2. 回帰分析の基礎
 - 相関係数, 最小2乗法, 決定係数, 重回帰・・・
- 3. 回帰分析における推定・検定
 - 区間推定, t検定, F検定
- 4. 回帰分析の応用と実際
 - 経済理論と回帰分析、需要関数、多重共線性、ダミー変数、系列相関、変数変換・・・

16

17

統計学の参照基準

- 日本学術会議の大学教育の分野別質保証委員会
 - 【統計学】大学教育の分野別質保証のための教育課程 編成上の参照基準 統計学分野
- 統計学の各分野における教育課程編成上の参照基準(2014年8月,初版は2010年)
 - 統計関連学会連合・統計教育大学間連携ネットワーク
 - 分野別の具体的な教育内容を明記
 - 政治学, 社会学, 経営学, 経済学, 数理科学, 総合理工学分野、生物科学・・・
 - http://jfssa.jp/ReferenceStandard2.pdf

18

経済学の参照基準①

経済学分野における統計教育については、以下の内容を目安とする。
① 経済データの活用と表現方法((a) は必須、(b) は選択可能)

(a) 表現方法(必須):以下の記述統計学の方法をふくむ。

度数分布 (度数分布表、ヒストグラム、累積度数分布、分位点); 中心の位置の尺度 (算術平均、中央値、最頻値); バラツキの尺度 (四分位範囲、分散・標準偏差); 不均等度 (Lorenz 曲線、Gini 係款); 相関分析 (散布図、共分散、相関係数) に同帰分析 (回帰直線、最小二乗法、偏相関係数、重回場分析); 時系列データの見方 (時系列フロット、変化率、TCSIへの分解) (b) 経済データの活用 (選択可能): 以下から選択する。SNA はなるべく含めるべ

人口統計 (国勢調査など); 就業統計 (労働力調査など); 家計統計 (家計調査など); 余暇に関 する統計 (社会生活基本調査など); 産業統計 (経済センサスなど); 企業活動に関する統計 (企 業活動基本調査など); 貸金統計 (資金構造基本調査など); 財政・金融 (資金循環統計など); SNA 終計: 指数 (首巻を動価形数など)

http://jfssa.jp/ReferenceStandard2.pdf

経済学の参照基準 ②

② 事象の確率的な構造を理解するための方法(必須):以下の推測統計学の方法をふくむ。 審率の場合は、関連を指す。こののの公式であれ、から、feorganical Feorganical Feorganical 保護を開き、 (確率常度関数、分布関数、期待値、分散、モーメント);代表的な確率分布(二項分布、ボアンン分布、一様分布、正規分布、カイ二乗分布、よ分布、F分布);標本抽出(母集団と標本、 母数と統計量、無作為抽出、統計量の標本分布、大数の法則、中心極限定理);推定(点推定、不偏性、一致性、尤度関数、最尤法、区間推定、信頼区間、信頼係数);検定(帰無仮説と対立 仮説、2 種類の過誤、有意水準、片側検定と両側検定、P値、二標本問題、適合度検定、分割 表における独立性検定);回帰モデル(回帰モデル、最小二乗法、回帰係数に関する検定、重回 帰分析)

http://jfssa.jp/ReferenceStandard2.pdf

経済学の参照基準 ③

③ 仮説を検証する方法 (選択可能)

(a) 計量経済学の基礎 (学部レベル) 単回帰モデル (回帰モデル、最小二乗法、回帰係数に関する検定); 重回帰モデル (決定係数、 多重共線性、ダミー変数、回帰保数の1次制約の検定);回帰モデルの発展(誤差項の系列相関、誤差項の不均一分散、一般化最小二乗法)

(b) 計量経済学の発展 (大学院レベル) 二項・多項回帰 (ロジットモデル、プロビットモデル); 時系列データのためのモデル (ARIMA モデル、単位根検定、共和分、Granger 因果性); 同時方程式モデル(構造方程式、誘導形、議 別性、2段階最小二乗法);バネルデータのためのモデル(固定効果モデル、変量効果モデル、 Hausman 検定); 切断のあるデータのためのモデル(Tobit モデル);ファイナンスのための

統計モデル(GARCH モデルなど)

・ 統計・デルなど)

・ 統計・デルなど)

・ 統計・プトウェアを活用した大規模データの計量経済学

教育用ミクロデータを利用して、大規模なミクロデータの分析を経験する。ここでは、フリー

・ ソフトのRや各種適用ソフトウェアの使用が不可欠となるため、それらの操作の方法ならびに

http://jfssa.jp/ReferenceStandard2.pdf

40

21

統計検定3級 が) 「用いて軍の いいていての知か ・クのテイブの素いを理解。 それぞれのデータに進した加辛温を理解す 最終ア度、現所円息、関係尺度、対 東戸屋、運練尺度 一タの研覧 データの基礎知識 標本調査の意味と必要性を理解し、標本の拒当方法や確定方法について図 丹集団、標本、全面調査、無作為胎出、標本の大きさ、込款を明することができる。 等等がよことがしている。 実験開発の支持と必要性を授解し、実験の基本的な考え方について、説明 実験研究、処理群とか 基本的な「変数の統計グラフを達切に解釈したり、自ら書いたりすることがで をサイク図、数本図(相関図)、複合グラフ | 「変数のアークを通切に集計表」に記述すること また集計表から適切に情報 を扱わ取り、教育することができる。 を扱わ取り、教育することができる。 変数データ 2変数のデークを通明にクロス集計表に記述すること。また集計表から通明 に情報を振み取り、接着することができる。 養歯を用いてデータの中心針位置を表現すること、またそれらを用いて適切 にデータの特殊を接明することができる。 代表値とその利用法 量例な1変数の数らば9の指標 データの歌らゼリチグラフ書献することを楽して、歌らばりの特徴を把握した。 り、グループ間の正教を行ったりすることができる。はずれた他の発展を考え 「「個、教育院(機関院)、はずれ 確率の意味や基本的な法則を理解し、さまざまな事象の確率を求めたり、確 本を用いて考察することができる。 時系列技能を持つプークをグラフや強機を用いて適切に表現し、それらの間 時系列がラフ、振標化、移動平均機 軽を適切に誘み能をことができる。 時来列データ https://www.toukei-kentei.jp/wp-content/uploads/grade3_hani_170727.pdf

22

	来收	効果評価のための適切な実験の方法について程程する。	実験のデザイン(実験計画)、フィッシャーの3原則	
	被平	推奨の基礎となる確率について理解する。	事業と被率、加速定理、条件付き確率、乗速定理、ベイズの定理	
理事モデルの導入	被平此数	確率変数の表現と特殊(期待値・分散など)について環解する。	ず 解散型建率変数、連接型理率変数、建率変数の矩時値・分数・標準偏差、確率! 和と扱・同時分布、和の所持値・分数、2変数の共分数・相関	
	健學分布	基礎的な確率分布の特徴を理解する。	ベルヌーイ献行、二項分布、ボアソン分布、曲何分布、一棒分布、指数分布、正規 布、2変量正統分布、延幾何分布、負の二項分布	
	様本分布	推測統計の基礎となる標本分布の概念を理解する。	独立試行、標本平均の期待値・分数、チェビシェフの不等式、大数の法則、中心極限 型、二項分布の正規近似、連続等正、背集団、背数(号平均、背分数)	
		正議母集団に関する分布とその活用について暗解する。	標準正規分布、標準正規分布表の利用、1分布、カイ二乗分布、F分布、分布表の活用、上別被率点(パーセント点)	
		直接定と区間確定の方法とその性質を確保する。	点指定、指定量と指定律、有限后集团、一致性、不漏性、保軽区間、保軽係数	
	推定	1つの母集団の母敷の区間推定の方法を理解する。	正規母集団の母平均・母分数の区間推定、母比率の区間推定、相関係数の区間推定	
推测		2つの母集団の母敷の区間推定の方法を理解する。	立規号集団の号平均の差・号分散の比の区間検定、号比率の差の区間検定	
	仮影検室	統計的検定の意味を知り、具体的な利用方法を理解する。	仮設技定の理論、p値、明整仮説3%」と対立仮説3%」、両側検定と片側検定、第1種の 婚姻と第2種の連鎖、検出力	
		1つの母集団の母数に関する仮数検定の方法について理解 する。	母平均の検定、母分散の検定、母比率の検定	
		2つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について理解 する。	母平均の差の検定/分離版加、分散本知であるが等分散、分散本知で等しいとは服らない場合)、母分数の比の検定、母比率の差の検定	
		適合反映党と独立性の検定について理解する。	適合度検定、独立性の検定	
雑型モデル	回得分析	東田県分析を含む回県モデルについて理解する。	日帰直線の様念の確定と検定、重日帰モデル、福日帰係数、日帰係数の検定、多重・ 緑性、ダミー変数を用いた日帰、自由皮質整(停正)済み決定活效	
	実験計画の概念の 理解	実験研究による要因効果の測定方法を理解する。	実験、処理群と対限群、反復、ブロック化、一元配置実験、3群以上の平均値の差(分散分析)、F比	
活用	統計ソフトウェア の 後回	統計ソフトウェアを利用できるようになり、統計分析を実施で きるようになる。	計算出力を活用できるか、閉鎖解決に活用できるか	

公司を与り合

23

参照基準・教育内容の概観

- 参照基準は非常に標準的でよく考えられている
 - ただし、すべてを扱うのは、カリキュラム体系や学生のレベルなどを考えると困難
- 複数の科目にどう位置付けていくのかが問題
- ・ 科目の位置づけ
 - 選択科目,必修科目・・・
 - カリキュラムマップ
- 外部の資源の活用
 - <u>統計検定</u>の活用
 - ・ 3級にまず合格し、2級取得を目指す
 - ・ 統計検定のテキストの利用
 - MOOCの活用
 - <u>統計学 I</u> **II II**
 - ウェブサイトの活用
 - 総務省統計局

24

(1) レベルと数学的基礎

- 数学的なレベルはできるだけ低く
 - 微分・積分は用いない
 - 簡単な方程式が解けることぐらいが前提条件
- 理由
 - 数学は入学で必修ではない
 - 大学入学後も共通の数学の基礎教育が行われない
 - 高校で受けた数学教育が同一ではない
- 高校では習っていないことをある程度前提にした説明
 - 分散,標準偏差,四分位数
 - Σ
- 問題
 - 既にわかっている学生にとっては、時間の無駄ではないか、退屈ではないか?

数学のレベルの合わせ方

- 低いレベルに合わせると、既にわかっている学生に とっては、時間の無駄ではないか?
 - 基本的に復習になるので問題ない
 - 高校ではあまり丁寧にやらない場合がある
- 高校とは違った観点から説明をすることで、すでに理解している学生も満足できる
 - 高校では、計算がメイン(受験を意識)
 - Σは, 数列ではなく, 総和記号としての利用を強調
 - -標準偏差などの実際の使い方(使われ方)を説明
 - それ以外の内容で、プラスアルファをつける
 - 確率の説明などでも同様

(2) どのような題材を利用するか

• 数值例

- 確率変数XとYの同時確率が右のように

X/Y 1 2 $p_x(k)$ 0 0.4 0.2 1 0.4 0 $p_y(j)$

与えられている. XとYの の平均 μ_{x} , μ_{y} . 分散 σ_{x}^{2} , σ_{y}^{2} 求めよ.

- サイコロ、コイン、赤玉・白玉などの問題
- 仮設例
 - あるコンビニでは、雨が降ると客は1日800人、雨が降らないと 1000人の客があるという。ある日の降水確率が20%のとき、 来店する客数の平均、分散、標準偏差を求めよ。
- 実際のデータ

27

練習問題. 宿題等

- データ分析関連では、計算問題は必須
 - 授業中に練習問題
 - ・時間をしっかり取ると、満足度は高い
 - 自分で解けるようになると自信がついて、興味が 多少わいてくる
 - 次週までの宿題
- 現状
 - 授業中には2~4問程度
 - 宿題は1~3問程度
 - 可能であれば、小テストの実施
 - 授業内
 - WebClass
 - 宿題等は、次週に解説(解答も閲覧できるとベター)

28

練習問題、課題、小テストの課題

- 作成するのに手間がかかる
 - 毎年同じでも構わない
 - (大教室では)計算に時間がかからない問題を考えることが必要
 - 割り切れる
 - 桁数が多くなりすぎない
 - 実際の例を利用するのは困難
- ・ 練習問題の共有
 - 名城大学のデータサイエンス関連担当者
 - 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム
 - 統計検定
 - ・問題作成のノウハウ

29

(3) 学生が興味をもつ題材

- 統計でウソをつく法
 - 平均貯蓄残高
- ・ 確率の説明 サンプリングを関連付ける
 - ランダムサンプリングと有意抽出
 - ・ 大統領選挙の例
 - モニター調査の例
 -
- 最新の新聞記事. ネット記事
 - 記事と同じ計算結果が出るなど
- 自分で解けるようになること
- ・ ネタの共有化

30

(4) レポート・プレゼン等の課題

- PBL(Project Based Learning)が望ましいが、 ゼミナール以外では、実施は容易ではない
- 経済では、公的統計などの公表データを利用 することが多い
- ・課題の内容
 - 用いるデータ分析の手法を学習したものに限定 (ex. 単回帰分析, 寄与度)
 - 自分の興味のある対象について、データを収集し、 決められた手法を適用
 - 適用した結果の解釈

レポート・プレゼン等での注意点

- 当該の手法を適切なデータに適用できるか
 - 事前の相談
 - 適切でないデータへの適用も好材料
 - ・フォロー
- 適切なデータかどうかも含めたフィードバック
- ・ 評価基準の明確化
- データの作成・定義について調べているか

32

今後の方向性

- 学外
 - 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム
 - ・ 教材等の共有
 - 他大学の動向の把握
 - 11月5日(水)中部・東海ブロック 会議 12:00~
 - 交流
 - 多くのデータサイエンス関連のセミナーが開催されている
- ・ 上記で得た知見を, 学内で情報共有

33

学内での現状

- データサイエンス教育は、現在、重要であることは間違いない
 - おそらく全学部で必要
- 各学部で数名のデータサイエンス教育に関わる核となるスタッフは存在
 - 文系
 - 理系
- ・ 情報工学部の開設

34

ご清聴, ありがとうございました

■個別のご質問・ご意見は

katsuura@meijo-u.ac.jp まで

第12回 FD 学習会実施概要

1. 実施概要

日 時: 令和3年3月2日 (火) 13:30~15:30 八事キャンパス Zoom 開催

場 所:天白キャンパス T702情報処理教室・八事キャンパス 1-604マルチメディア教室

テーマ: 「はじめての GoogleDrive」

内 容:授業に活かせる Google サービスについて知り、実践する

講 師:大学教育開発センター 山田 宗男 教授・外国語学部 柳沢 秀郎 准教授(天白キャ

ンパス)

薬学部 大津 史子 教授(八事キャンパス)

2. アンケート結果(自由記述については、一部抜粋・改稿を含む)

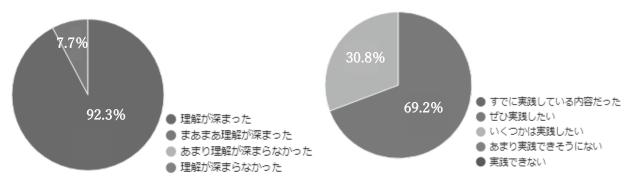
(1) アンケート回答者等

(人)

所属	専任教員	非常勤教員	合計
学習会参加者数	13	1	14
アンケート回答者数	12	1	13

(2) 理解は深まりましたか

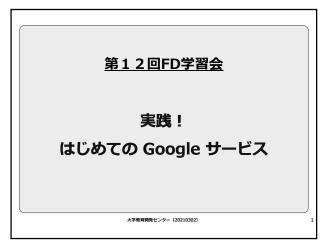
(3) 実践できそうですか

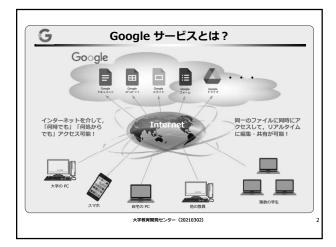


(4) 企画内容についての意見・感想

- ・大変参考になりました。
- ・非常にわかりやすくい有意義な企画でした。
- ・とても役立つ内容で、非常に分かり易く講義いただきました。非常に有意義で、参加してよ かったです。ありがとうございました。
- ・詳しく知らずになんとなく使用していた機能が、よく理解できてよかったです。
- ・Google フォームの使い方がとてもよくわかりました。理工学部実習工場で学生からの製作 依頼申請書をフォームで作ろうと思っていますが、さっそく実践してみます。
- ・初めての操作内容が実践できたので身に付きました。
- · PC を操作しながらだったので、わかりやすかった。

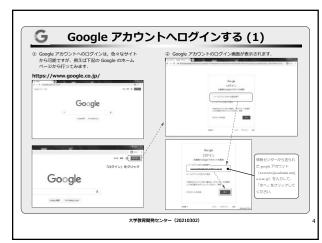
- (5) 一番関心を持ったポイント・重要だと感じたポイントについて
 - ・アンケートや小テストなどは、WebClass とうまく使い分けすれば便利だと感じた。
 - ・フォームの機能を用いて、実際にどのような小テストがどのように作成できるのかが重要と 思いました。
 - ・小テスト作成です。今後、こういうものを使っていくのかなと思いました。
 - ・学生へのファイル共有方法は有効だと思います。
 - · Google Drive に動画を置けば WebClass に置かなくても済むことが理解できた。
 - · Google ドライブや、Google フォームの使い方が理解できました。
 - ・スプレッドシートの意味や使い方がよくわかっていませんでしたが、共有して編集できる Excelファイルという説明でよくわかりました。
 - ・機械操作説明ビデオを作り共有しようと思っています。やはりセキュリティーの面で不安で したがダウンロード制限ができるということで安心しました。

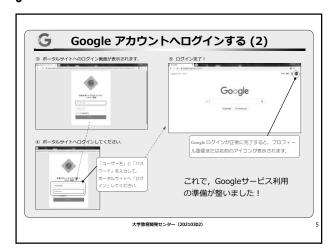




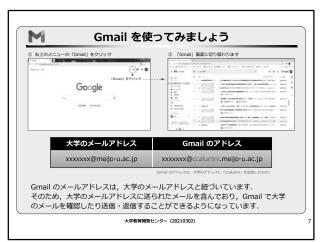
3 4









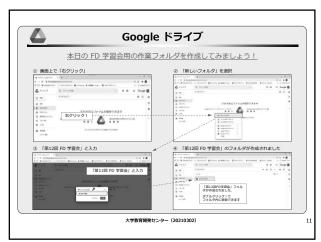


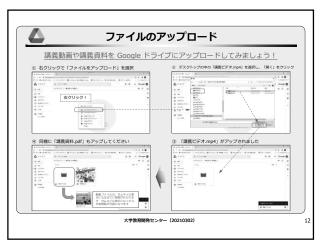


9 10

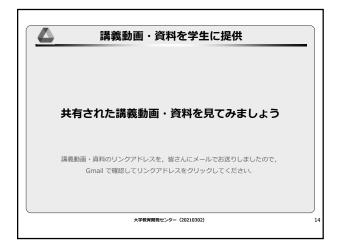










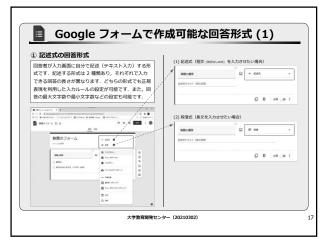


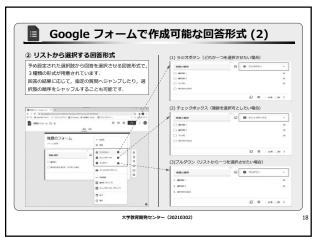
15



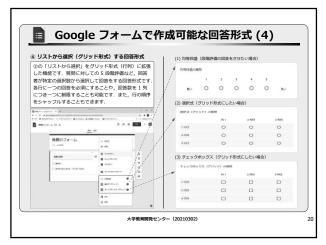


17 18

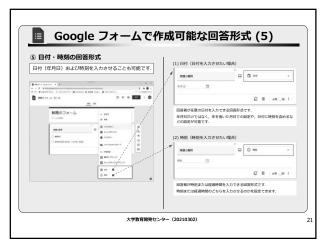




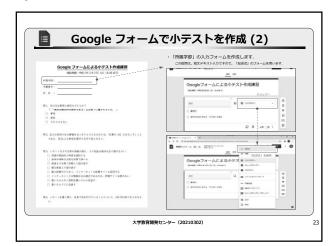


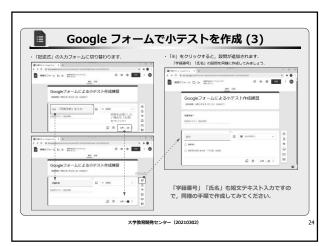


21 22

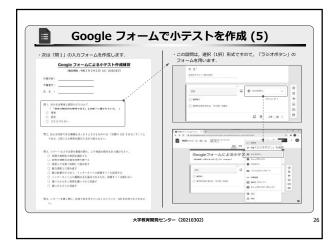






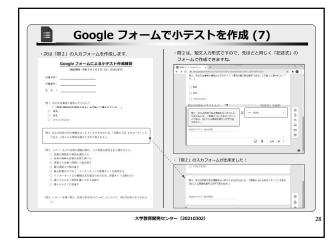


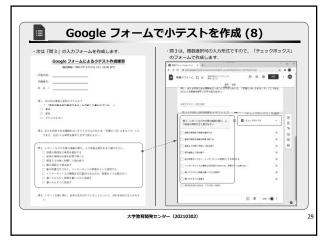


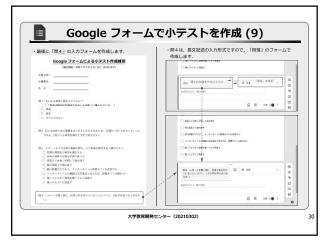


27 28









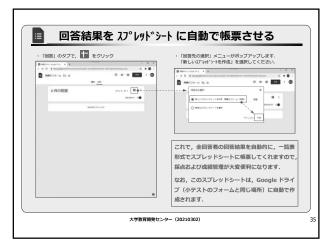


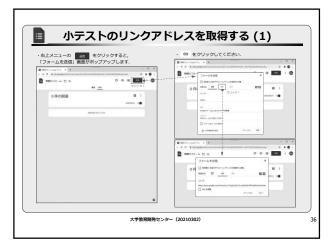


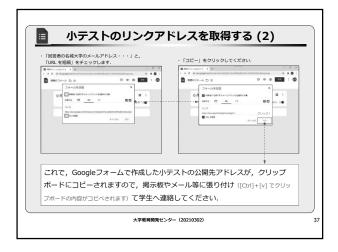
33

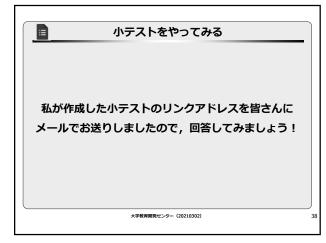












教育功労賞表彰報告

教育功労賞制度は、学校法人名城大学職員規則第47条に基づき、各学部及び研究科等において、 教育活動及び教育改善に大きく貢献した者を表彰することにより、職員の教育改善に対する意識を 高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的として表彰するものです。

表彰の種類は、各学部及び研究科等における教育活動及び教育改善に大きく貢献した者及びグループを表彰する教育功労賞と、教育功労賞受賞者のうち、全学的な取組として波及できる可能性のあるものを表彰する特別教育功労賞からなり、いずれも各学部及び研究科等から推薦された者について大学教育開発センター委員会において審査し、大学協議会での審議を経て学長が決定するものです。

令和2年度は3件の推薦があり、大学教育開発センター委員会(令和3年1月7日開催)で慎重に審査した結果、推薦のあった全件を教育功労賞候補者として相応しいと認め、大学協議会(令和3年1月29日開催)において、承認されました。

記

教育功労賞表彰者について

候補者等氏名	所属学部	推薦対象となった活動・テーマ
谷田(真	理工学部	多文化共生社会を意識した学生たちによる 地域コミュニティ環境づくり
基軸科目「現代に生きる」の 構想と立ち上げチーム	人間学部	基軸科目「現代に生きる」の構想と立ち上げ
アーナンダ・クマーラ	外国語学部	オムニバス科目「日本とグローバル人材」の オーガナイズ

※審査の結果、令和2年度特別教育功労賞については、該当なしとなりました。

教育功労賞候補者推薦書

大学教育開発センター委員会委員長 殿

学部・研究科・センター等

理工学部

下記の教育職員(グループ)を「教育功労賞要項」に基づき、教育功労賞候補者として推薦しま す。

教育功労賞候補者

所属学部等

理工学部建築学科

候補者氏名

谷田 真

取組タイトル

多文化共生社会を意識した学生たちによる地域コミュニティ環境づくり

1. 推薦理由

谷田真准教授は、専門分野である建築計画・建築設計の実践編として、自治体と連携したまち づくりプログラムを多数展開しています。特に2018年度からスタートした、愛知県知立市と UR 都市機構中部支社との連携プログラムでは、外国人居住者が多い知立団地の中央商店街を舞台と して、研究室に所属する学生20数名を巻き込み、「多文化共生社会を意識した地域コミュニティ 環境づくり」を進めており、この取組の中で学生たちは、多くの学びと成長の機会を得ています。

具体的には、学生たちの日頃の学習成果を活かした「ものづくりワークショップ」を基本とし ながら、日本人と外国人の居場所づくりやイベントによる交流の機会づくりなど、地域コミュニ ティをより良い環境へと促しています。このプログラムで学生たちは、①自身が大学で学んだ知 識をリアルな社会で展開する応用力の醸成、②学外の多様な立場からなる他者との協働による気 づき、③地域社会における課題解決につながるテーマへの関心、といった学びを達成しています。 なお、こうした学生たちの実践は、一般社団法人団地再生支援協会主催の「第16回集合住宅再 生・団地再生・地域再生学生賞」で、2019年度に最優秀賞を受賞しており、専門分野においても

高い評価を得ております。

以上のように、同准教授は、学生たちの専門分野を活かした実践型教育を長期に渡り進め、そ の実績を残すとともに、地域社会への貢献も果たしており、教育功労賞候補者に値する人物と判 断し、ここに推薦致します。

取組の発展性について

この取組では、テーマの射程を広く設定することで、より多様な立場の人が参加できる機会を 提供しています。

実際に本プログラムの一部では、外国語学部国際英語学科の津村文彦研究室や、社会連携セン

ターなどの参加・協力もあり、学部や研究室、所属をまたいだ学生同士や教職員とのグループワークで、すでに全学的な波及効果の一端が垣間見えています。

今後、本プログラムがさらに深まれば、緩やかなつながりの中で、各専門分野へ引き寄せた取組として、展開が可能であると考えられます。

3. その他教育活動に係る特記事項

谷田真准教授は、上記以外にも研究室に所属する学生たちを巻き込み、多数のプログラムを展開しています。以下にその他取組の一部をテーマ別に記しておきます。

【中山間地域が抱える社会的課題の解決】

岐阜県下呂市では「森と人の物語プロジェクト」において、森林資源にスポットを当て、川の 上流域と下流域をつなげる木育ワークショップを実施。その為のプログラムづくりや販売用プロ ダクトの開発など合わせて行なっています。また、人口減少が著しい同市金山町では、リサーチ ワークとして地域住民へインタビューしたり、地元小学生たちと「デザイン・スクール」を行なっ たりして、地域の魅力を次世代へつなげる実験に取り組んでいます。

【子ども環境や福祉環境の未来の変革】

「学童保育の育て方」では、名古屋市内の3ヶ所の学童保育施設で、子どもたちを取り巻くより良い成育環境の構築を目指し、室内外の居場所づくりに取り組んでいます。ワークショップや地域住民への説明会、親子で取り組むDIYなど、多面的に進めています。加えて、それら施設の移転プロセスにスポットを当てた研究論文を通して、運営体制・空間計画・地域連携のあり方に関しても深く考察しています。

【パブリックスペースを豊かにする】

広島市現代美術館では「階段リビング」において、館内の階段に来訪者の為の居場所を創出しています。名古屋大学構内では「チョいす」において、CLT素材の特性を活かした多用途ベンチを制作しています。愛知県常滑市の大型商業施設内では「ヒトトキノス」において、孟宗竹を用いた子どもたちを誘い込む大きな鳥の巣を仕掛けています。愛知県日進市の大型書店内では「book worm」において、一人用読書スペースを内包した移動式本棚をデザインしています。いずれも学生たちのDIYでパブリックスペースを豊かにする試みを実験しています。

【国際ワークショップの開催】

チェコ共和国のリベレツ工科大学建築学部との取組では、両国を舞台に移民問題を軸として「未来のコミュニティのあり方」について、多国籍の学生たちと一緒にワークショップを進めています。

教育功労賞候補者推薦書

大学教育開発センター委員会委員長 殿

学部・研究科・センター等

人間学部

下記の教育職員 (グループ) を「教育功労賞要項」に基づき、教育功労賞候補者として推薦します。

教育功労賞候補者

所属学部等

人間学部

候補者氏名 (グループとして以下に示す)

取組タイトル 基軸科目「現代に生きる」の構想と立ち上げ

グループ名 基軸科目「現代に生きる」の構想と立ち上げチーム

学部等・氏名(代表) 人間学部・宮嶋 秀光 学部等・氏名 人間学部・安藤 喜代美

学部等・氏名 人間学部・加茂 省三

学部等・氏名 人間学部・西村 善矢

1. 推薦理由

人間学部の「現代に生きる」は、2014年から6年間にわたって展開されている基軸科目であり、 人間学部内外の教職員から多くの協力を得ることで成り立ってきた特別な科目である。今回の教 育功労賞では、「現代に生きる」が全学的な協同を前提とする科目であることを踏まえつつ、特 にその立ち上げに関わった宮嶋秀光ら4名の教員によるチームを、教育功労賞の候補者として人 間学部から推薦したい。

「現代に生きる」の立ち上げチームは、2014年の「教養演習 II」の場を借りての少人数でのトライアルから出発し、1年次の学生全員が一斉に学ぶ現在の形式に至るまで、紆余曲折を経ながらそのアイディアを練り上げてきた。その過程を、決して当人たちが当初から企図したものではなかったにせよ、結果として全学的な教育改善をもたらしたものとして高く評価したい。

すでに「現代に生きる」での教育改善の取り組みは、2017年3月刊行『名城大学教育年報』11 号、および2018年3月に刊行された『現代に生きる5年間の軌跡』に詳しい。立ち上げチームは、まず教養教育が現代の大学において果たす役割を「民主的な市民」の育成の場として再評価し、人間学部の基軸科目へと具体的に落とし込んでいった。その結果、「現代に生きる」は人間学部の科目ではあるが、他学部からも多くの教員が参加する。それぞれに多忙な教員たちを「巻き込む」ほどの熱意を持って立ち上げチームは「現代に生きる」に取り組んできたのである。

学部教育への貢献という面では、「大人数によるアクティブ・ラーニング」は画期的であり、現行カリキュラムでの必修科目「人間学総論」へも水平展開が試みられ、検討作業が続いている。 学生指導という面でも、1年次の学生全員が一斉に参加するグループワークやマイクを使った意 見表明は、教員が個々の学生の個性を把握することができるだけでなく、学生同士もお互いを同 じ人間学部生として認知し、より発展的な協力を促すチーム・ビルディングの効果もある。

こうした「現代に生きる」の個々の要素による学部への貢献に加えて、最後に指摘したいのは、 人間学部とはどのような学部なのか、つまり人文社会科学全般、さらには文理を横断しての「人間」に関する学びとはどのようなものであるべきなのかという、人間学部の根幹に関わる本質的な問いかけを「現代に生きる」立ち上げチームはその実践をもって問いかけ続けてきたと評価できる点である。もちろんその努力は今回推薦された4名の教員だけによるものではない。学部創設以来、あらゆる教職員が一丸となって検討してきた学部全体での課題である。しかしその長年にわたる検討の一端を「現代に生きる」の立ち上げが確実に担っているとすれば、教育功労賞にふさわしいと考えられるのである。

2. 取組の発展性について

人間学部を発信源とする、全国的にも稀有な教養教育における先駆的なアクティブ・ラーニングの実践は、今後も全学的に大きな波及効果が期待できるだけでなく、すでにその効果は生じているとも評価できる。「現代に生きる」の取り組みは、2015年度には「教育の質保証プロジェクト」で「基軸科目における集団討論の多様な組織方法の創出」が採択され、さらに2017年7月19日第5回FD学習会「学生の主体的な学びを促進するアクティブ・ラーニング-名城大学人間学部『現代に生きる』の実践-」、同年11月19日の第19回FDフォーラム『「大学教養」で何を学ぶか』での成果報告を通じて、既に全学的波及の過程にある。

今後のさらなる波及が期待できる点は、2017年度に「教育の質向上プロジェクト」に採択された「基軸科目「現代に生きる」における授業内外の学修を促す専用ホームページの活用」の展開に見出せる。もちろんその成果は単年度のプロジェクトとして既にポスター発表の後、2019年3月刊行『名城大学教育年報』13号でも共有済みである。しかし、2020年度前期にCOVID-19感染拡大に対応して緊急的に導入された遠隔授業での過程で実感したように、ITを用いて授業内外の学修をどのように学生に促すことができるのかという課題は、むしろ採択時の2017年よりも2020年現在の方がその重みを増している。引き続き人間学部「現代に生きる」からの全学的な波及効果を期待したい。

3. その他教育活動に係る特記事項

まず「現代に生きる」は、人間学部の科目であると同時に、名城大学のさまざまな部署の教職員による着実なコラボレーションの成果でもある。立ち上げ時から現在まで、人間学部に加えて、法学部1名・経営学部1名・経済学部3名・都市情報学部3名・農学部1名・理工学部4名の教員が参加する。立ち上げチームが設定した共通テーマ「人口動態の過去と未来」のもとで、多様な専門性を有する教員が授業を展開してきたのである。このような科目は名城大学内で類を見ず、

立ち上げチームによる教養教育の理想を体現している科目と言えるだろう。

さらに人間学部における基軸科目「現代に生きる」の立ち上げとその後の展開は、本学内だけでなく学外に対しても広範囲な波及効果も生み出してきた。日本私立大学協会の主催で開催された2015年度の「第53回 大学教務部課長相当者研修会」では、メインテーマ『私立大学における学士課程教育の戦略的改善(第4回)~学士課程改革の特色と課題』のもとで、宮嶋秀光教授と大武貞光(当時大学教育開発センター事務部長)が「学生の主体的な学びを育むアクティブ・ラーニング~名城大学人間学部「現代に生きる」の実践」と題した発表をした。ここから2016年には福岡工業大学からのヒアリングに応じるなど、「現代に生きる」の立ち上げは学外にも大きな影響を及ぼしている。

こうして発表された各種の文章で宮嶋らが強調するのは、「現代に生きる」での取り組みが、 決して戦略的にアクティブ・ラーニングを構想して実施された大計画だったのではなく、むしろ 草の根的な「手作りの試み」の着実な積み重ねであったという点である。そのような科目立ち上 げからの「手作りの試み」が、結果として学内外に波及する効果を生み出してきた点こそまさに、 教育功労賞に値するものである。

教育功労賞候補者推薦書

大学教育開発センター委員会委員長 殿

学部・研究科・センター等

外国語学部

下記の教育職員(グループ)を「教育功労賞要項」に基づき、教育功労賞候補者として推薦しま す。

教育功労賞候補者

所属学部等

候補者氏名 アーナンダ・クマーラ教授

取組タイトル

オムニバス科目「日本とグローバル人材」のオーガナイズ

1. 推薦理由

オムニバス科目「日本とグローバル人材」は、外国語学部立ち上げにおいて特色づけ科目の一 つとしてクマーラ教授が構想され、自らオーガナイズされたものである。グローバル化した社会 を身近な現実として学生に認識させることにより、言語の習得をはじめ、将来必要となる幅広い 分野に対する学習意欲の向上を図ることを目的としており、企業、事業所、組織などでグローバ ルに活躍する方々をゲストスピーカー等として招き、社会のグローバル化が日本とどのような関 わりを持ちながら、実社会において進展しているかについて、企業や地方自治体など実際の現場 の体験を話してもらうものである。

そのような体験をし、かつ話してもらえるような人材は得難いものであり、2020年度 JICA 理 事長賞を受賞するに至った教授の日頃の IICA との協力関係を中心にすべてクマーラ教授がご自 分で探して手配してくださった。ご自身でも4回分の講義を担当されている。この科目は1年生 配当の選択科目であるが、ほぼ全員と言っていい135名が登録し、出席率も極めて高く、学生の 評価も高い。この評価に反映されているように、「日本とグローバル人材」を受講した学生の中 には、その後の大学生活でアカデミックな活動に積極的に取り組む者も少なくない。それについ ては「その他教育活動に係る特記事項」で詳述する。

外国語学部という学部の特性上、とかく言語習得だけに偏りがちなカリキュラムにおいて、ク マーラ教授の多大なる努力と献身によって実現してきた「日本とグローバル人材」は、語学系の 学生たちに、習得した語学を生かすための場を将来自身で見つけ出すトレーニングの機会を与え ているのである。

こうした多面的な教育的取り組みは、外国語学部国際英語学科のディプロマポリシー(DP) である「国際社会に対して深い理解力を持ち、日本の立場や事情を積極的に発信し、主体的に課 題を発見し取り組むことのできる能力の育成」に大いに資するもので、「日本とグローバル人材」 は、外国語学部の中核をなす科目となっている。

2. 取組の発展性について

ゲストを招いたオムニバス科目はその出来がコーディネーターの手腕によるところが大きい。 クマーラ教授のような広い交流関係を持つ人の存在は貴重であるが、このような科目があること によって、そこから新たなゲスト招聘の道も開けると思われ、全学的にも同様の科目を導入する ことができるのではないかと思われる。

さらに、こうした招聘型の取り組みは学外の論客だけではなく、学内における他学部の教員にも対象を広げることが可能である。幸い本学は文系理系の学部をバランスよく有しているので、その利点を生かし、分野横断型の講義パッケージを構築することで、実社会に即したより実践的な学びが期待できると思われる。

3. その他教育活動に係る特記事項

こうした多様な社会連携型の講義によって、さらなるアカデミックな活動に積極的に挑戦する学生も少なくない。例年相当数の学生がアカデミックなイベントに参加し、中には複数の学会で研究発表を経験した学生もいる。「日本とグローバル人材」という科目がとりわけ優れているのは、このように、より意欲的な学生が学びを実践するための場、あるいはアカデミックな活躍の場が用意されていることである。こうした有機的な学びのステップを整備するのは決して容易なことではないが、クマーラ教授は自身の有するあらゆる人脈、所属学会、利用可能な施設や設備などを総動員し、緻密な計算に基づいて、能動的な学びの場を学生のために構築してきたのである。上記授業のほか、アジアを学ぶ(必修)、基礎演習 III & IV(選択)、ゼミナール(必修)の各授業において、学生主体の公開セミナーの実施や国際連合地域開発センター(UNCRD)、JICA、企業などを訪問することなどで、グローバル人材として活躍することを意識させながら、実社会に対する理解を深めることに心がけている。

これまでの具体的な学びの場の構築としては、以下のような多様かつ高度な教育活動が挙げられる。

- ・2016年7月 国連の活動への理解を深めるための取り組み「国際連合地域開発センター (UNCRD) 設立45周年記念事業」の『受付業務、会場設営、企画運営補助』へ の学生の派遣・参加
- ・2016年10月 国際学会「持続可能な開発と文化を目指して~アジアからの学びとアジアへの教訓~」における学生の研究ポスター発表
- ・2017年7月 JICA との連携による学生運営の「JICA ボランティアセミナー」の実施・発表
- ・2017年10月 (大学祭企画の一環として) JICA との連携による学生運営の「JICA ボランティアセミナー」の実施・発表
- ・2017年12月 「日本とグローバル人材」授業での外交講座の実施。石川 義久氏(外務省より協力、外務官僚の招聘)、タイトル:「アジアでの外交経験から大学生へのメッセージ」

- ・2018年1月 「日本とグローバル人材」授業での「学生シンポジウム」の実施
- ・2018年6月 国際連合地域開発センター(UNCRD)との連携による学生運営の「あなたと世界を変える17の目標~SDGs」学生シンポジウム・ワークショップ開催
- ・2018年10月 「グローバル人材育成全国大会」(会場:名城大学) においての高大連携シンポジウム「学生たちが考えるグローバル化」(附属高校および外国語学部の学生たちが発表者となるシンポジウム) の実施
- ・2018年11月 国際連合地域開発センター (UNCRD) との連携による学生運営の「国連セミナー」「あなたと世界を変える17の目標~持続可能な開発目標」学生シンポジウム・ワークショップ開催
- ・2019年7月 パタゴニア (多国籍企業の学びを含む) との共催による大学内でのイベント:学生が中心の運営 (調査、ワークショップ、学生参加によるシンポジウムなど)
- ・2019年12月 「グローバル人材育成全国大会」「人材完成から振り返るグローバル教育~新設学 部完成年度を迎えて~」(学部教員と連携して学生たちが発表)(会場:芝浦工業大 学)の実施
- ・2020年1月 「日本とグローバル人材」授業での「学生シンポジウム」、「グローバル人材としての活躍に関して~私の考え
- ・2020年7月 「アジアを学ぶ」授業での「学生シンポジウム」、「アジアからの私の学び」(Zoom による学生発表会)

「日本とグローバル人材」(ほとんどの1年生が学ぶ選択授業)や「アジアを学ぶ」(必修)、「基礎演習 III & IV」(選択)、「ゼミナール」(必修)などの授業において通常の講義のほか、学生たちが主体的に動いて運営・実施する様々なセミナー、シンポジウム、ワークショップなどの各種取り組みを通じて培われた課題解決型の思考力と実践力は、上記のように授業という枠組みを超えた専門的な領域に幅広く展開され、活動に直接参加した学生のみならず、学部全体に主体的な学習態度や学究的好奇心・洞察力を醸成するうえで多大な貢献をなしてきたのである。

7. 資 料

大学教育開発センター委員会要項

(目的)

第1条 大学教育開発センター(以下「本センター」という。)は、全学を対象としたファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)活動の実施及び各学部、研究科への FD 活動・教育の質向上の取組の支援により、本大学の教育改善を推進することを目的とする。

(業務)

- 第2条 本センターは、前条に定める目的を達成するため、次の業務を行う。
 - (1) 教育に係る調査・研究・提言に関すること
 - (2) 教員の教育力向上に関すること
 - (3) 入学前教育及び入学後の学修支援に関すること
 - (4) 高大連携及び接続教育に関すること
 - (5) その他必要な事項に関すること

(センター長)

第3条 大学教育開発センター長は、学長の命を受けて本センターの業務を総括し、代表する。

(委員会)

- 第4条 本センターの業務に関する基本事項を審議し、実施するために、大学教育開発センター委員会(以下「委員会|という。)を置く。
- ② 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 大学教育開発センター長
 - (2) 学務センター長のうち1名
 - (3) 各学部から選出された教育職員 各2名
 - (4) 独立研究科から選出された教育職員 各1名
 - (5) 教職センターから選出された教育職員 1名
 - (6) 大学教育開発センター事務部長
 - (7) 学務センター事務部長
 - (8) その他委員長が必要と認めた者

(委員長及び副委員長)

- 第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。
- ② 委員長は、大学教育開発センター長をもって充てる。
- ③ 副委員長は、委員の互選による。

(任期)

- 第6条 第4条第2項第3号、第4号、第5号及び第8号の委員の任期は2年とする。ただし、再 任を妨げない。
- ② 委員が欠けた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

- 第7条 委員会は、委員長がこれを招集し、その議長となる。
- ② 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。
- ③ 委員会は、委員の過半数の委員の出席により成立する。
- ④ 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数の場合は、議長がこれを決する。

(委員以外の出席)

第8条 委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

- 第9条 委員会は、必要に応じて専門委員会を置くことができる。
- ② 専門委員会の運営に関する事項は、委員会において別に定める。

(事務)

第10条 委員会の事務は、本センターが分掌する。

附則

- ① この要項は、平成29年4月1日から施行する。
- ② 従前の「FD 委員会要項」は、この要項の施行の日から、これを廃止する。

令和 2 年度 專任教職員 所属別 FD 活動参加状況

								,,. –			1/1//			
		所属	所属 人数	R2前期 授業改善 アンケート	R2後期 授業改善 アンケート	第22回 FD フォーラム	第2回 新任教員 FD 研修会	第9回 FD 学習会	FD 与 第10回 FD 学習会	学習会 第11回 FD 学習会	第12回 FD 学習会	教育功労賞	教育年報	学外セミ ナー・研究 集会等への 派遣
	学長・副学	Ę	5	3	3	3	0	3	3	4		0	0	1
		法学科	33	29	28	4	1	9	6	7		0	0	0
	法学部	応用実務法学科	13	11	11	2	0	4	1	3		0	0	0
		小計	46	40	39	6	1	13	7	10	0	0	0	0
		経営学科	16	15	15	2	1	3	0	3		0	0	1
	経営学部	国際経営学科	13	10	12	0	0	5	3	3		0	0	0
		小計	29	25	27	2	1	8	3	6	0	0	0	1
		経済学科	16	14	16	5	1	1	2	4		0	0	2
	経済学部	産業社会学科	12	12	10	3	0	4	3	3		0	1	1
		小計	28	26	26	8	1	5	5	7	0	0	1	3
		数学科	17	17	16	1	0	3	4	1		0	0	1
		情報工学科	18	16	16	4	2	4	6	6		0	0	18
		電気電子工学科	19	16	11	1	1	8	6	2		0	0	0
		材料機能工学科	12	10	9	0	0	0	0	0		0	0	0
		応用化学科	9	9	8	5	0	1	1	3		0	0	0
		機械工学科	15	14	12	2	2	12	4	11		0	0	1
	理工学部	交通機械工学科	15	12	12	3	1	6	8	7		0	0	0
		メカトロニクス工学科	12	9	9	1	1	1	0	0		0	0	0
教		社会基盤デザイン工学科	13	10	12	0	0	4	3	3		0	0	0
員		環境創造工学科	10	9	9	0	1	3	1	1		0	0	0
只		建築学科	18	10	13	0	1	2	6	0		1	0	0
		教養教育等	26	15	15	1	1	4	2	1		0	0	0
		小計	184	147	142	18	10	48	41	35	0	1	0	20
		生物資源学科	13	12	13	2	0	3	2	0		0	0	0
		応用生物化学科	13	13	13	1	1	2	3	0		0	0	0
	農学部	生物環境科学科	12	11	12	0	1	0	1	0		0	0	0
	辰子叩	教養教育等	3	1	0	0	1	0	0	0		0	0	0
		附属農場	5	1	0	0	0	0	0	0		0	0	0
		小計	46	38	38	3	3	5	6	0	0	0	0	0
		薬学科	66	19	23	19	1	8	13	11		0	1	2
	薬学部	教養教育等	3	0	0	0	0	0	0	0		0	2	0
		小計	69	19	23	19	1	8	13	11	0	0	3	2
	都市情報学部		25	23	24	2	1	11	4	9		0	0	0
	人間学部	人間学科	22	20	21	3	0	10	6	1		4	0	0
	外国語学部	国際英語学科	28	24	24	3	2	5	1	0		1	10	0
	教職センター		8	8	8	4	0	3	3	0		0	0	0
	附属高校	小計	490	373	375	72	20	0	92	83	0	6		27
	監査室	小司	3	3/3	3/3	0	20	119	92	0	U	0	14	0
	総合企画部		13			0		0	1	0		0	0	4
	総務部		35			0		0	0	0		0	0	0
	渉外部		14			0		1	1	1		0	0	0
	財務部		12			0		0	0	0		0	0	0
	施設部		14			0		1	0	0		0	0	0
	東京オフィン	Z	1			0		0	0	0		0	0	0
	開学100周年	-t de la la	1			0		0	0	0		0	0	0
	入学センタ・	_	17			0		0	0	1		0	0	0
	学務センター		24			1		2	0	1		0	0	0
	保健センター	_	13			0		0	0	0		0	0	0
	教職センター		4			0		0	0	0		0	0	0
	大学教育開		4			5		4	2	2		0	0	39
	学術研究支持	炭センター	15		/	1		0	0	0		0	0	0
	総合研究所		1			0		0	0	0		0	0	0
職	キャリアセン		16			0		0	0	2		0	0	0
	情報センター		5			0		2	0	0		0	0	0
員	社会連携セン		3			2		0	0	2		0	0	0
		支援センター	3			0		0	0	0		0	0	0
	国際化推進~ 附属図書館	L / / -	10 9			0		0	0	0		0	0	0
	法学部		6			0		0	0	0		0	0	0
	任子 経営学部		5			0		0	0	0		0	0	0
	経済学部		6			0		0	0	1		0	0	0
	理工学部		15			0		0	0	1		0	0	0
	農学部		16			0		2	0	0		0	0	0
	薬学部		10			0		0	0	0		0	0	0
	都市情報学	部	1			0		0	0	0		0	0	0
	人間学部		1			0		1	0	0		0	0	0
	外国語学部		1			0		0	0	1		0	0	0
		ム前キャンパス事務室	13			0		2	2	1		0	0	0
		科高等学校専攻科				0		1	1	0		0	0	0
	附属高校					0		0	0	0		0	0	0
		小計	291	0	0	9	0	17	10	14	0	0	1	43
		計	781	373	375	81	20	136	102	97	0	6	15	70
×200	20年10月1	口珥去												

^{※2020}年10月1日現在。 ※本集計表は、専任教職員のみの参加状況集計表であるため、「令和2年度 FD活動一覧」で記載した参加者数(非常勤講師・他大 学等参加者含む)とは必ずしも一致しない。

8. おわりに

あとがき

大学教育開発センター

本報告書は、令和2年度の本学におけるFD·SD活動、正課外教育活動及びその詳細について まとめたものです。

本学のFD·SD活動は、各学部・研究科等を主体とし、大学教育開発センター委員会がサポートする形で企画運営、各種取組を推進しています。平成12年度から始めたこの活動は、昨年度からSD活動も含める形で新たにスタートし、発展しています。

大学教育開発センターは、大学教育開発センター委員会とともに、国の文教政策の動向を踏まえ、 本学の発展のため、今後も引き続き教育改善に取り組みます。

本報告書により、本学のFD・SD活動等の現状を確認いただき、次年度に向け、抱負を新たにしていただけますと幸いです。

最後になりますが、各FD・SD活動の企画・運営、そして本報告書の企画・編集にご協力いただきました皆様方に、心より御礼申し上げます。

令和3年3月

発 行:名城大学 大学教育開発センター

編 集:名城大学 大学教育開発センター

住 所: 〒468-8502

名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地

電 話:(052)838-2033 FAX:(052)833-5230

